

令和元年度 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業

介護福祉士養成における  
効果的な介護実習のあり方に関する調査研究事業  
報 告 書

公益社団法人 日本介護福祉士会  
令和2（2020）年3月



介護福祉士養成における効果的な介護実習のあり方に関する調査研究事業  
報 告 書

■第1章 調査研究の概要 .....	1
1. 調査研究の目的 .....	3
2. 調査研究内容 .....	4
(1) 「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムおよび資料の作成	4
(2) 「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の講師養成 .....	4
(3) 都道府県における「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の実施 ....	4
(4) 都道府県における「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の効果検証	4
3. 実施体制 .....	5
4. 調査研究の経過 .....	6
5. 調査研究の成果 .....	8
6. 今後の課題 .....	10
■第2章 「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムおよび資料 .....	13
1. 研修コンテンツ（パワーポイント資料）の解説 .....	15
(1) 作成のねらい .....	15
(2) 構成と特徴、活用の留意点 .....	15
. 「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラム .....	16
■第3章 「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の講師養成 .....	45
1. 講師養成研修の実施（報告） .....	47
2. 講師養成研修受講者へのアンケート .....	49
(1) 調査概要 .....	49
(2) 調査票 .....	50
(3) 集計結果 .....	53
(4) 研修へのご意見・ご要望等 .....	58
(5) 研修を実施するにあたっての不安や課題、ご意見・ご要望等 .....	66
(7) 研修アンケート結果のポイント .....	73

## ■第4章 都道府県における「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の実施 .. 77

1. 都道府県における介護実習指導研修の実施（報告） .....	79
2. 研修受講者へのアンケート.....	82
(1) 調査概要 .....	82
(2) 調査票.....	83
(3) 集計結果.....	87
(4) 研修へのご意見・ご要望等 .....	92
(5) 介護実習指導の課題 .....	103
(6) 研修アンケート結果のポイント .....	115
3. 研修受講者への効果検証等アンケート .....	117
(1) 調査概要 .....	117
(2) 調査票.....	118
(3) 集計結果.....	123
(4) 効果検証アンケート結果のポイント .....	162

# ■ 調査研究の要旨

## 1. 調査研究の目的

- ・平成 29 (2017) 年度に介護福祉士養成課程のカリキュラム改正が行われ、平成 30 (2018) 年度を周知期間とし、令和元 (2019) 年度より順次、新カリキュラムが導入されることとなった。このうち介護実習科目については、新たに「教育内容に含むべき事項」および「留意点」が示されたことから、これまでの介護実習の実施方法や指導体制等の妥当性を検証し、介護実習の実施のためのガイドラインを整理する必要があるとの認識に基づき、弊会では「介護実習指導のためのガイドライン」(平成 31 年 3 月、公益社団法人日本介護福祉士会)を作成した。
- ・新カリキュラムの「教育内容に含むべき事項」および「留意点」を踏まえた介護実習を実施するためには、介護実習指導者をはじめとする関係者がこの内容を理解するとともに、養成校の教諭・教員と実習生を受け入れる施設・事業所が適切に連携し、施設・事業所が適切な受入れ体制をもって対応することが求められる。
- ・当該事業では、「介護実習指導のためのガイドライン」を活用した「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムを作成し、すでに介護実習指導者講習を受講して現場で実習生の指導にあたっている介護実習指導者をはじめとする関係者に対する研修を行い、新カリキュラムに対応した介護実習指導を展開・推進していくことをねらいとしている。

## 2. 調査研究の成果

### ■「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムおよび研修資料の作成

- ・平成 30 (2018) 年度に作成した実習指導ガイドラインを踏まえ、「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムおよび研修資料を作成した。
- ・介護実習指導者ばかりでなく養成校の実習指導担当教員等の研修受講も視野に入れて作成され、両者が連携して介護実習を効果的に指導することが期待できる内容となっている。
- ・研修資料は介護福祉士養成課程の新カリキュラムの周知と理解を図る内容であることから、介護福祉士資格を有する者に対する研修や周知に向けた資料として活用できる可能性を有している。

### ■「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」講師養成および都道府県による研修の実施

- ・「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムの内容や研修の取り回し方、その際の留意点等を伝えるための講師養成研修を開催し、45 都道府県からの参加を得て合計 89 名の講師を養成した。

- ・前述の講師による「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」が46都道府県で企画・実施決定されたが、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する政府の方針を受けて令和2（2020）年2月末に6県は中止をせざるを得なかった。結果として、令和元（2019）年11月～令和2（2020）年2月の間に、**40 都道府県において実施、合計1,341名が研修を受講**した。
- ・介護現場から多くの介護実習指導者の参加が得られたこと、介護実習指導者と養成校の実習指導担当教員等が意見を交わし、指導の充実に向け連携の必要性を認識できたことも本調査研究の成果となった。

#### ■研修の効果検証\_\_研修修了者による介護実習指導への対応

- ・研修の効果を把握するため、都道府県の「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」修了者等を対象とし、**研修後1か月を目安に「効果検証等アンケート」をウェブフォームにより実施、676名からの回答**を得た。
- ・「効果検証等アンケート」においては9の項目について、新カリキュラムに対応した介護実習指導をするための取り組み（予定を含む）状況を質問した。9項目のうち1つでも「取り組んでいる（取り組んだ）」と回答した人は、回答者676名のうち272名、40.2%、「取り組む予定」を含めると563名、83.3%が何等かの取り組みをする（予定を含む）と回答していた。
- ・具体的には、**職場における新カリキュラムに関する情報の周知・共有、受入れ体制（チーム）づくり、新カリキュラムに対応したマニュアル作成（改定）などのほか、勉強会や研修の実施などの取り組み実施が確認**できた。加えて、「新カリキュラムの内容が理解できた」、「新カリキュラムを踏まえた介護実習指導の体制を整えていきたい」などの声も出された。
- ・また、新カリキュラムに対応した介護実習指導の実施について、「すでに実施」は4.3%、33名であり、「今年度に実施予定」は18.8%、「来年度に実施予定」は37.6%となった。予定を含めた実施が約6割であり、「実施予定はない」の39.2%を上回った。
- ・新カリキュラムに対応した介護実習を「すでに実施」した33名については、新カリキュラムに対応した介護実習の指導・教授ができたとする回答が半数を超え、研修実施の効果が確認できた。

### 3. 今後の課題

#### ■「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の継続

- ・介護福祉士養成課程のカリキュラムを理解し、かつ、知識と技術を統合する場として介護実習が展開されることを踏まえて介護実習指導に取り組む必要がある。

- ・今後、介護実習指導者養成講習には新カリキュラムの内容が追加されるが、すでに介護実習指導者養成講習を受講した介護実習指導者には、新カリキュラムを踏まえた実習指導を担保するためのフォローアップが必要である。
- ・研修受講者からも、新カリキュラムおよび介護実習に課せられた「教育に含むべき事項」を学ぶ研修の受講は必要であるという声があげられていることから、今後も「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」を継続して実施する必要がある。

## ■「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の課題

### 【実施方法の課題】

- ・本年度は講師養成研修により 89 名の講師を養成し、それぞれが講師として都道府県で研修を実施した。講師養成研修の受講者からは、講師養成研修の時間が十分ではないこと、都道府県によるばらつきを心配する声があがり、また、1 回の講習で十分なのかという疑問が提示された。
- ・都道府県や講師による意識の温度差があることは否めず、趣旨や目的が徹底されていない状況が一部では認められた。研修の意義や目的を明確にし、共通の認識のもとで実施されることが望ましい。
- ・今後実施される新カリキュラムに対応した実習指導者養成講習との関係も整理し、「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の実施方法について検討をする必要がある。
- ・なお、新カリキュラムに対応した介護実習指導に向けて出前講座をしてほしいという要望も出ている。アウトリーチ手法による研修の実施も今後の検討課題である。

### 【研修内容の課題】

- ・「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」のプログラムは、介護福祉士養成課程におけるカリキュラム改正の背景、求められる介護福祉士像、受入れ体制のあり方、新カリキュラムとして介護実習の科目に「介護過程の実践的展開」「多職種連携の実践」「地域での生活支援の実践」の「含むべき教育内容」が示されたことを中心に組み立てた。
- ・プログラムにおいては実際の取り組み事例に関する記載はなく、事例等の資料があったほうがわかりやすいという意見もあげられた。
- ・研修修了者の効果検証等アンケート等からは、「地域での生活支援の実践」に対する取り組みが難しい状況も明らかになった。作業部会においては、現場で働いている介護職には「地域」の視点や意識を持っていない人がおり、その視点や意識を職員に伝えるためにも実習生を受け入れ、職員も一緒に育てていくことが、介護実習指導者の役割ではないか、それが「求められる介護福祉士像」にもつながっていくのではないかという意見が出された。

- ・ 今後は、受入れ体制づくりをはじめ、「介護過程の実践的展開」「多職種連携の実践」「地域での生活支援の実践」などについて、取り組みのヒントとなる好事例等を収集・整理し、研修プログラムの強化、資料の充実を図るなどして、研修内容のレベルアップを図る必要がある。とりわけ「地域での生活支援の実践」については、地域性や介護実習施設（事業所）の特性などを踏まえつつ、多様な事例を発掘し、明示していくことが期待される。
- ・ 取り組みのヒントとなる好事例等については、フォローアップに限らず、これから実施される新カリキュラム対応の介護実習指導者養成講習においても活用の可能性がある。

#### ■ 介護実習施設と養成校の連携

- ・ 新カリキュラムに対応した介護実習指導を行うためには、介護実習施設と養成校（介護実習指導者と介護実習指導を担当する教員等）の連携が重要である。
- ・ 基本的な第一歩として、介護実習の事前打合せなどにおいて、養成校の教員等が介護実習指導者に新カリキュラムを伝え、新カリキュラムに対応した実習の意義や目的を丁寧に説明していくことが期待される。
- ・ 次に、介護実習科目にかかる研修の共同実施などが考えられる。作業部会や研修参加者からは、「介護実習指導者と養成校の教員等が研修で一緒に学ぶことは、互いに新たな視点を得られ連携のきっかけにもなる」「内容が重なる研修が別々に開催されている、同時（一緒）にできないか」などの意見が出された。介護実習科目にかかる研修については、養成校により構成される公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会等との共同実施の検討が必要である。介護実習を通して介護福祉士を養成するという共通の目的達成に向けた連携であり、効果的な教授や指導の実施が期待できる。
- ・ 今後は介護実習指導者には介護実習指導者講習の修了者であることに加えて、本調査研究事業で実施したフォローアップ研修修了者が望ましいという認識が介護実習施設と養成校において共有され、介護実習の充実に向けた取り組みが協働で推進されることが望ましいと考える。



## ■ 第1章

### 調査研究の概要

---



## 1. 調査研究の目的

平成 29 (2017) 年度に介護福祉士養成課程のカリキュラム改正が行われ、平成 30 (2018) 年度を周知期間とし、令和元 (2019) 年度より順次、新カリキュラムが導入されることとなった。このうち介護実習科目については、新たに「教育内容に含むべき事項」および「留意点」が示されたことから、これまでの介護実習の実施方法や指導体制等の妥当性を検証し、介護実習の実施のためのガイドラインを整理する必要があるとの認識に基づき、弊会では「介護実習指導のためのガイドライン」(平成 31 年 3 月、公益社団法人日本介護福祉士会) を作成した。

新カリキュラムの「教育内容に含むべき事項」および「留意点」を踏まえた介護実習を実施するためには、介護実習指導者をはじめとする関係者がこの内容を理解するとともに、養成校の教諭・教員と実習生を受け入れる施設・事業所が適切に連携し、施設・事業所が適切な受入れ体制をもって対応することが求められる。当該事業では、「介護実習指導のためのガイドライン」を活用した「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムを作成し、すでに介護実習指導者講習を受講して現場で実習生の指導にあたっている介護実習指導者をはじめとする関係者に対する研修を行い、新カリキュラムに対応した介護実習指導を展開・推進していくことをねらいとしている。

当該事業で実施する「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」は、介護人材不足が課題となっている中、将来の介護職の中核人材を適切に育成するためにも実施する意味は大きい。また、本事業で実施する研修受講者は、介護実習指導者ばかりでなく、介護福祉士を養成する学校の教諭・教員などにも開かれていることから、介護実習全体の質の向上に寄与するものと考えられる。

## 2. 調査研究内容

### (1) 「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムおよび資料の作成

検討委員会の指示の下、作業部会において、平成 30 (2018) 年度に作成した実習指導ガイドラインを活用し、「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムおよび研修コンテンツ (パワーポイント資料) を作成した。

### (2) 「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の講師養成

「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムの内容や研修の取り回し方、その際の留意点等を伝えるための講師養成研修を全国 2 か所において開催した。

当該研修修了者は「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」講師として、それぞれの都道府県において実習指導者講習修了者や養成校の実習指導担当教員等を対象とする研修を実施した。

### (3) 都道府県における「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の実施

都道府県介護福祉士会の協力を得て、実習指導者講習修了者や養成校の実習指導担当教員等を対象として、当該研修を実施した。

その際、当該研修受講者には、研修内容等に対する意見を収集するために、後日、ウェブを活用したアンケートに回答いただく旨の依頼をし、承認を得て、メールアドレスの確保を行うこととする。

### (4) 都道府県における「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の効果検証

「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」受講者を対象としたウェブアンケートを実施し、当該研修修了後に実施された介護実習の取り組み状況等に関する実態調査を行い、当該研修の効果検証等を行った。

### 3. 実施体制

各種事業者団体、養成校団体、介護現場の介護職員、職能団体により構成する検討委員会で全体を運営する。

また、検討委員会の下に作業部会を置き、当該委員会で示された方針を踏まえ、事業を展開する。

#### 検討委員会

※以下、五十音順・敬称略

青木 文江	日本ホームヘルパー協会 会長
石本 淳也	公益社団法人日本介護福祉士会 会長
太田 二郎	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 介護人材対策委員長
小川 義光	全国福祉高等学校長会 事務局長
本名 靖	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 理事
山野 雅弘	公益社団法人全国老人保健施設協会管理運営委員会 安全推進部会長・在宅支援推進部 会長

オブザーバー 伊藤 優子	厚生労働省 社会援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 介護福祉専門官
-----------------	--

#### 作業部会

※以下、五十音順・敬称略

鈴木 幹治	三重県立伊賀白鳳高等学校
高岡 理恵	華頂短期大学
藤野 裕子	公益社団法人日本介護福祉士会
本名 靖	社会福祉法人本庄ひまわり福祉会
松川 春代	特定医療法人社団研精会 法人本部 人材開発部 介護人材育成センター
水谷なおみ	日本福祉大学
吉岡 俊昭	トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校

オブザーバー 伊藤 優子	厚生労働省 社会援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 介護福祉専門官
-----------------	--

#### 4. 調査研究の経過

第1回 作業部会	日 時	令和元年9月4日(水) 13:00~15:00
	場 所	Nulspace<ナルスペース>
	議 事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業全体像の確認</li> <li>・介護実習指導フォローアップ研修について</li> <li>・講師養成研修について</li> <li>・効果検証について</li> <li>・その他</li> </ul>
第2回 作業部会	日 時	令和元年9月28日(土) 11:00~12:30
	場 所	公益社団法人日本介護福祉士会7階会議室
	議 事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師養成研修のプログラム案について</li> <li>・フォローアップ研修のプログラム案について</li> <li>・アンケート調査および効果検証事項について</li> <li>・その他</li> </ul>
第1回 検討委員会	日 時	令和元年10月8日(火) 11:00~12:30
	場 所	公益社団法人日本介護福祉士会7階会議室
	議 事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業遂行に関するイメージの共有について</li> <li>・事業進捗確認について</li> <li>・その他</li> </ul>
新カリキュラム対応 介護実習指導研修 講師養成研修	日 時	令和元年10月18日(金) 11:00~16:30
	場 所	新大阪丸ビル新館506号室
第3回 作業部会	日 時	令和元年10月18日(金) 16:30~17:30
	場 所	新大阪丸ビル新館505号室
	議 事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師養成研修の振り返り</li> <li>・その他</li> </ul>
新カリキュラム対応 介護実習指導研修 講師養成研修	日 時	令和元年10月19日(土) 11:00~16:30
	場 所	TKP九段下神保町ビジネスセンター4階 カンファレンスルーム4A
第4回	日 時	令和元年10月19日(土) 16:30~17:30

作業部会	場 所	TKP九段下神保町ビジネスセンター4階 カンファレンスルーム4B
	議 事	・講師養成研修の振り返り ・その他
第5回 作業部会	日 時	令和元年11月16日(土) 13:00~16:30
	場 所	新橋汐留口貸会議室マイ・スペース6号室
	議 事	・効果測定調査に関する検討 ・その他
第2回 検討委員会	日 時	令和元年12月6日(金)
	場 所	メールでの開催
	議 事	・中間報告
第6回 作業部会	日 時	令和2年2月13日(木) 13:00~14:50
	場 所	公益社団法人日本介護福祉士会7階会議室
	議 事	・本年度調査研究事業の報告書(案)について ・その他
第3回 検討委員会	日 時	令和2年3月13日(金) 13:00~15:00
	場 所	公益社団法人日本介護福祉士会7階会議室
	議 事	・本年度調査研究事業の報告書(案)について ・その他

## 5. 調査研究の成果

### ■「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムおよび研修資料の作成

平成 30（2018）年度に作成した実習指導ガイドラインを踏まえ、「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムおよび研修資料を作成した。介護実習指導者ばかりでなく養成校の実習指導担当教員等の研修受講も視野に入れて作成され、両者が連携して介護実習を効果的に指導することが期待できる内容となっている。

すべての研修会場において本研修コンテンツを使用することにより、全国で統一的な研修実施が可能となった。

また、研修資料は介護福祉士養成課程の新カリキュラムの周知と理解を図る内容であることから、介護福祉士資格を有する者に対する研修や周知に向けた資料として活用できる可能性を有している。

### ■「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」講師養成および都道府県による研修の実施

「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムの内容や研修の取り回し方、その際の留意点等を伝えるための講師養成研修を開催し、45 都道府県からの参加を得て合計 89 名の講師を養成した。

講師養成研修修了者が「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」講師となり、令和元（2019）年 11 月～令和 2（2020）年 3 月の間に、46 都道府県において研修の実施が企画・決定された。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する政府の方針を受けて令和 2（2020）年 2 月末に 6 県の中止を決定し、結果として 40 都道府県での実施、合計 1,341 名が研修を受講する結果となった。1,341 名のうち介護実習指導者は 1,225 名、養成校の実習指導担当教員等は 104 名であった。都道府県介護福祉士会の協力のもと、1,341 名が研修修了者となったことは本調査研究の成果である。

介護現場から多くの介護実習指導者の参加が得られたこと、介護実習指導者と養成校の実習指導担当教員等が意見を交わし、指導の充実に向け連携の必要性を認識できたことも本調査研究の成果となった。



## ■研修の効果検証\_\_研修修了者による介護実習指導への対応

研修の効果を把握するため、都道府県の「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」修了者等\*を対象とし、研修後 1 か月を目安に「効果検証等アンケート」をウェブフォームにより実施、676 名からの回答を得た。

新カリキュラムに対応した介護実習指導の実施について、「すでに実施」は 4.3% (33 名) であり、「今年度に実施予定」は 18.8%、「来年度に実施予定」は 37.6% となった。予定を含めた実施が約 6 割であり、「実施予定はない」の 39.2%を上回った。新カリキュラムに対応した介護実習を「すでに実施」した 33 名については、新カリキュラムに対応した介護実習の指導・教授ができたとする回答が半数を超え、研修実施の効果が確認できた。

また、「効果検証等アンケート」においては 9 の項目について、新カリキュラムに対応した介護実習指導をするための取り組み（予定を含む）状況を質問した。9 項目のうち 1 つでも「取り組んでいる（取り組んだ）」と回答した人は、回答者 676 名のうち 272 名、40.2%、「取り組む予定」を含めると 563 名、83.3%が何等かの取り組みをする（予定を含む）と回答していた。具体的には、職場における新カリキュラムに関する情報の周知・共有、受入れ体制（チーム）づくり、新カリキュラムに対応したマニュアル作成（改定）などのほか、勉強会や研修の実施などの取り組み実施が確認できた。加えて、「新カリキュラムの内容が理解できた」、「新カリキュラムを踏まえた介護実習指導の体制を整えていきたい」などの声も出された。

都道府県の「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」修了者については研修後 1 か月を目安とした短期的対応という前提であるが、研修受講後に新カリキュラムに対応した介護実習指導への取り組みが行われ、一定の研修受講の効果が確認できた。

なお、当初は、新カリキュラム対応の介護実習における好事例の集約までを実施する予定としていたが、研修の多くが年明けの開催となったこと等から、実際の取組事例の掘り起こしまでを行うことができなかった。

\*平成 30（2018）年度の介護実習指導者フォローアップ研修受講者も対象としている

## 6. 今後の課題

### ■「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の継続

介護福祉士養成課程の新カリキュラムについては実施にあたり一定の周知・準備期間が設けられた。介護実習の科目に「教育に含むべき事項」が追加され、「介護過程の実践的展開」「多職種連携の実践」「地域での生活支援の実践」の3項目を介護実習に盛り込むことへの認知は、介護実習指導者をはじめとする介護の現場においても徐々に進んでいると思われる。しかし、本調査研究の検討においては、「現場の職員や介護実習指導者は介護福祉士養成課程のカリキュラムなどを学ぶ（知る）機会が少ない」「新カリキュラムを知る目的の研修会はない」という意見が出された。

介護福祉士養成課程のカリキュラムを理解し、かつ、知識と技術を統合する場として介護実習が展開されることを踏まえて介護実習指導に取り組む必要がある。今後、介護実習指導者養成講習には新カリキュラムの内容が追加されるが、すでに介護実習指導者養成講習を受講した介護実習指導者には、新カリキュラムを踏まえた実習指導を担保するためのフォローアップが必要である。研修受講者からも、新カリキュラムおよび介護実習に課せられた「教育に含むべき事項」を学ぶ研修の受講は必要であるという声があげられていることから、今後も「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」を継続して実施する必要がある。

### ■「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の課題

#### 【実施方法の課題】

本年度は講師養成研修により 89 名の講師を養成し、それぞれが講師として都道府県で研修を実施した。講師養成研修の受講者からは、講師養成研修の時間が十分ではないこと、都道府県によるばらつきを心配する声があがり、また、1 回の講習で十分なのかという疑問が提示された。

都道府県や講師による意識の温度差があることは否めず、趣旨や目的が徹底されていない状況が一部では認められた。研修の意義や目的を明確にし、共通の認識のもとで実施されることが望ましい。

今後実施される新カリキュラムに対応した実習指導者養成講習との関係も整理し、「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の実施方法について検討をする必要がある。

なお、新カリキュラムに対応した介護実習指導に向けて出前講座をしてほしいという要望も出ている。アウトリーチ手法による研修の実施も今後の検討課題である。

## 【研修内容の課題】

「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」のプログラムは、介護福祉士養成課程におけるカリキュラム改正の背景、求められる介護福祉士像、受入れ体制のあり方、新カリキュラムとして介護実習の科目に「介護過程の実践的展開」「多職種連携の実践」「地域での生活支援の実践」の「含むべき教育内容」が示されたことを中心に組み立てた。

プログラムにおいては実際の取り組み事例に関する記載はなく、事例等の資料があったほうがわかりやすいという意見もあげられた。

また、研修修了者の効果検証等のアンケート等からは、「地域での生活支援の実践」に対する取り組みが難しい状況も明らかになった。作業部会においては、現場で働いている介護職には「地域」の視点や意識を持っていない人がおり、その視点や意識を職員に伝えるためにも実習生を受け入れ、職員も一緒に育てていくことが、介護実習指導者の役割ではないか、それが「求められる介護福祉士像」にもつながっていくのではないかという意見が出された。

今後は、受入れ体制づくりをはじめ、「介護過程の実践的展開」「多職種連携の実践」「地域での生活支援の実践」などについて、取り組みのヒントとなる好事例等を収集・整理し、研修プログラムの強化、資料の充実を図るなどして、研修内容のレベルアップを図る必要がある。とりわけ「地域での生活支援の実践」については、地域性や介護実習施設（事業所）の特性などを踏まえつつ、多様な事例を発掘し、明示していくことが期待される。

なお、取り組みのヒントとなる好事例等については、フォローアップに限らず、これから実施される新カリキュラム対応の介護実習指導者養成講習においても活用の可能性がある。

## ■介護実習施設と養成校の連携

新カリキュラムに対応した介護実習指導を行うためには、介護実習施設と養成校（介護実習指導者と介護実習指導を担当する教員等）の連携が重要である。

基本的な第一歩として、介護実習の事前打合せなどにおいて、養成校の教員等が介護実習指導者に新カリキュラムを伝え、新カリキュラムに対応した実習の意義や目的を丁寧に説明していくことが期待される。

次に、介護実習科目にかかる研修の共同実施などが考えられる。作業部会や研修参加者からは、「介護実習指導者と養成校の教員等が研修で一緒に学ぶことは、互いに新たな視点を得られ、連携のきっかけにもなる」「内容が重なる研修が別々に開催されている、同時（一緒）にできないか」などの意見が出された。介護実習科目にかかる研修については、養成校により構成される公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会等との共同実施の検討が必要である。介護実習を通して介護福祉士を養成するという共通の目的達成に向けた連携であり、効果的な教授や指導の実施が期待できる。

さらに、今後は介護実習指導者には介護実習指導者講習の修了者であることに加えて、本調査研究事業で実施したフォローアップ研修修了者が望ましいという認識が介護実習施設と養成校において共有され、介護実習の充実に向けた取り組みが協働で推進されることが望ましいと考える。

## ■ 第2章

「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」  
プログラムおよび資料

---



## 1. 研修コンテンツ（パワーポイント資料）の解説

### （1）作成のねらい

全国都道府県において、同じ視点と内容で「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」を展開できるようにという意図から、作業部会において、「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムとして研修コンテンツ（パワーポイント資料）を作成した。

第4章で報告する「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」（都道府県実施）のすべてにおいて、本研修コンテンツ（パワーポイント資料）が使用されている。

### （2）構成と特徴、活用の留意点

- ・介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける平成29（2017）年度の改正について理解を深めるとともに、改正に伴って示された「教育内容のねらい」「教育に含むべき事項」「留意点」「想定される教育内容の例」を踏まえた構成とし、「介護実習指導のためのガイドライン」（平成31年3月、公益社団法人日本介護福祉士会）を参考に作成している。
- ・介護実習指導は、実習生を受け入れる施設・事業所の介護実習指導者だけでなく、日々において実習生を指導する職員、実習生を送り出す養成校の教員等の連携が重要であるという認識のもと、介護実習指導者以外の関係者も受講することを視野に入れた内容としている。
- ・都道府県において研修を行う際に、研修主催者（講師）が実情に合わせた内容をスライドとして付加することができるよう、パワーポイント資料として作成した。なお、本研修コンテンツ（パワーポイント資料）にあるスライドは研修に必要な内容であり、研修実施にあたりスライドの削除はしないことを前提としている。
- ・〇〇〇などの部分は、研修主催者（講師）が変更して使用することとして作成している。

※以下で掲載している研修コンテンツ（パワーポイント資料）は、「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」用に配布した内容から、軽微な修正等を加えたものを掲載している（スライドの追加・削除はない）。

## ・「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラム

令和元年度 社会福祉推進事業  
「介護福祉士養成における効果的な介護実習のあり方に関する調査研究事業」

# 新カリキュラム対応 介護実習指導研修

■会場：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
■月日：令和○年○月○日（○）  
■時間：○：○○～○：○○

○○○○介護福祉士会  
公益社団法人 日本介護福祉士会  
The Japan Association of Certified Care Workers

0

# はじめに

1



## 本日のプログラム

プログラム		時間	講師・担当者
00:00~ 00:00	はじめに プログラム、研修の目的	2h	介護 太郎 (所属*****)
	1 介護福祉士養成課程見直しの全体像		介護 太郎 (所属*****)
	2 介護実習を受け入れる体制づくり		介護 花子 (所属*****)
00:00~ 00:00	3 「介護実習」の教育に含むべき事項 ①介護過程の実践的展開 ②多職種協働の実践 ③地域における生活支援の実践	2h	介護 太郎 (所属*****)
00:00~ 00:00	4 グループワーク	2h	介護 花子 (所属*****)
00:00~ 00:00	5 発表とまとめ + 研修アンケート	0.5h	介護 花子 (所属*****)

2

## 研修の目的

- 介護福祉士に求められる役割が整理され、併せて、この役割を担うことができる介護福祉士を養成するためのカリキュラムが見直されました。
- 今後、新たなカリキュラムに対応した介護実習を適切に展開していくことが求められます。
- このような要請を踏まえ、この研修では新たなカリキュラムで学んだ実習生を円滑に受け入れる、また、介護実習をより効果的に展開できるようにすることを目的に実施するものです。

3



## 介護福祉士養成課程 見直しの全体像

4

### 介護福祉士養成課程見直しの全体像で 使用するスライドについて

#### ■出典

厚生労働省『「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」について』（第13回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成30年2月15日）

#### ■赤枠

日本介護福祉士会による追加部分

5

## 介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて(概要)

現状・課題

平成29年10月4日 社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会

- 介護職の業務実施状況を見ると、介護福祉士とそれ以外の者で明確に業務分担がされていない。
- 管理者の認識では、認知症の周辺症状のある利用者やターミナルケアが必要な利用者などへの対応、介護過程の展開におけるアセスメントや介護計画の作成・見直しなどの業務は介護福祉士が専門性をもって取り組むべきという認識が高い。
- また、介護職のリーダーについて、介護職の統合力や人材育成力などの能力が求められているものの、十分に発揮できていないと感じている管理者が多い。一方で、介護職の指導・育成や介護過程の展開等を重視している事業所では、リーダーの役割等を明確にし、キャリアパスへ反映するなどの取組を行っている。
- 介護分野への参入にあたって不安に感じていたことには、「非常時等への対応」、「介護保険制度等の理解」、「ケアの適切性」といったことが挙げられている。

業務内容に応じた各人材層の役割・機能に着目するのではなく、利用者の多様なニーズに対応できるよう、介護職のグループによるケアを推進していく上で、介護人材に求められる機能や必要な能力等を明確にし、介護分野に参入した人材が意欲・能力に応じてキャリアアップを図り、各人材が期待される役割を担っていけるようにすべき。

6

## 介護人材に求められる機能の明確化と キャリアパスの実現に向けて(概要)

### 実現に向けた具体的な対応

#### 介護職のグループにおけるリーダーの育成

- 介護職がグループで提供する介護サービスの質や介護福祉士の社会的評価の向上に向け、一定のキャリア(5年程度の実務経験)を積んだ介護福祉士を介護職のグループにおけるリーダーとして育成。

#### 介護人材のすそ野の拡大に向けた入門的研修の導入

- 介護未経験者の介護分野への参入きっかけを作るとともに、非常時の対応などの参入にあたって感じている不安を払拭し、多様な人材の参入を促進するため、入門的研修を導入。

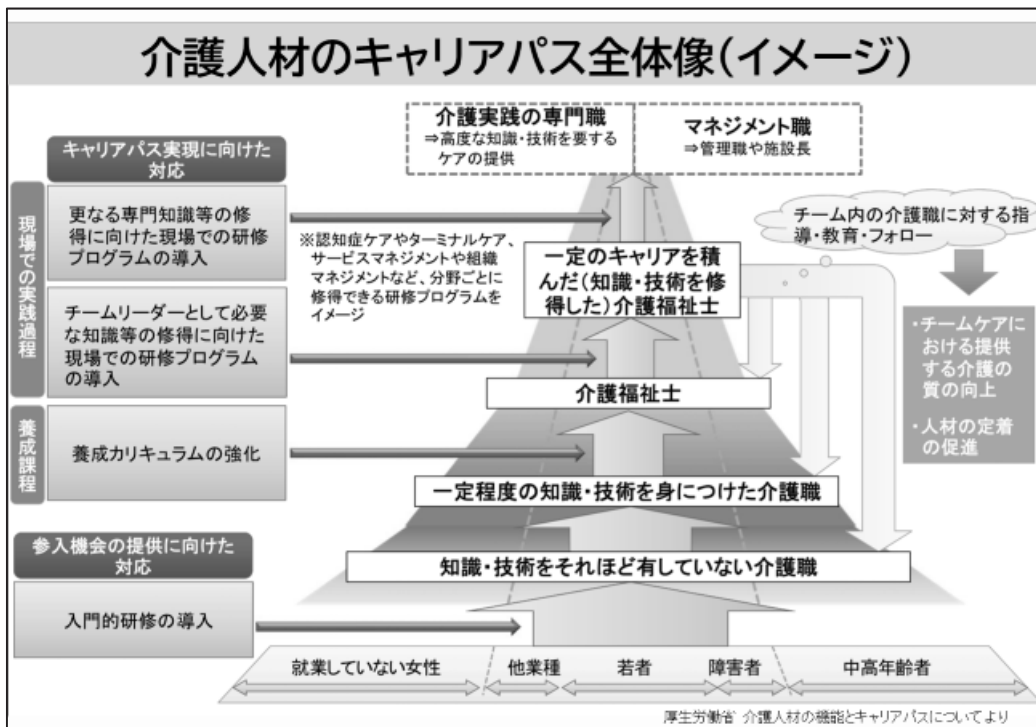
#### 介護福祉士養成課程におけるカリキュラムの見直し

- 介護福祉の専門職として、介護職のグループの中で中核的な役割を果たし、認知症高齢者や高齢単身世帯等の増加などに伴う介護ニーズの複雑化・多様化・高度化等に対応できる介護福祉士を養成する必要。

#### 介護福祉士等による医療的ケアの実態の把握

- 医療との役割分担について、「医師・看護師等の働き方ビジョン検討会」の提案も踏まえ、利用者への喀痰吸引及び経管栄養の実施状況や研修体制の整備状況などの実態を調査。

7

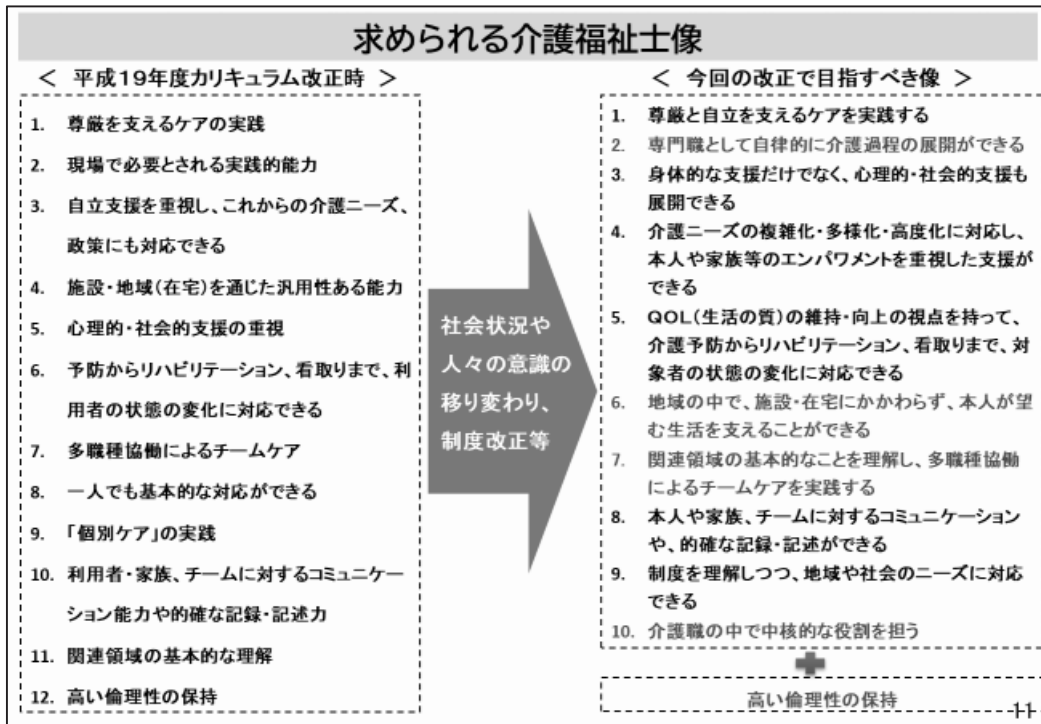
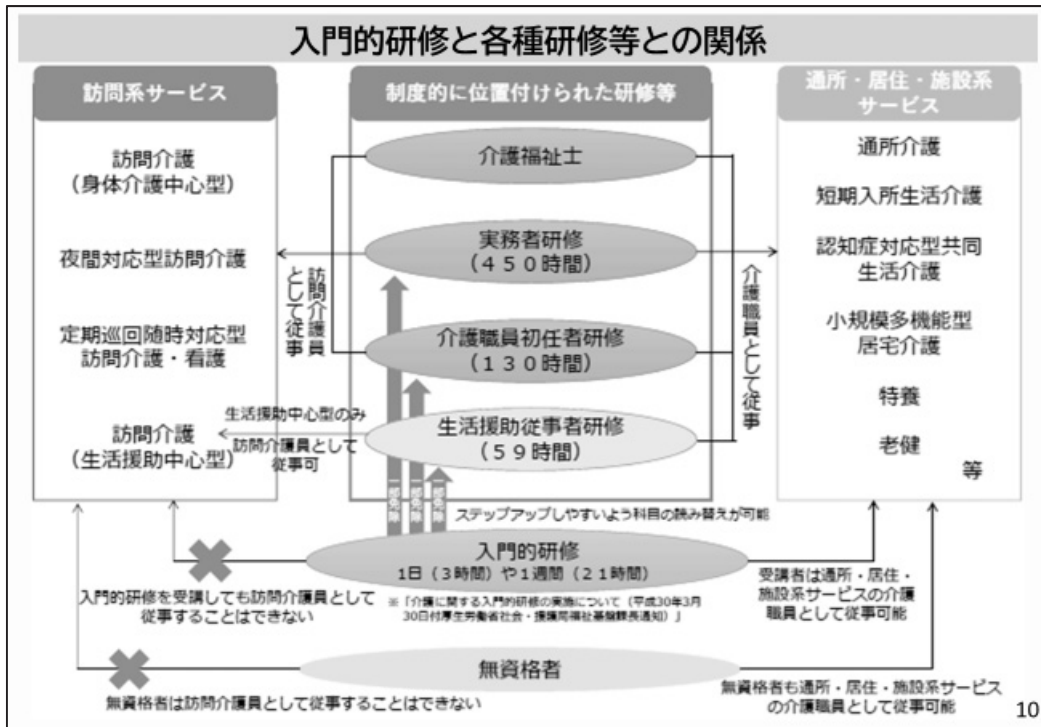


## 入門的研修の創設 (H30.3)

「入門的研修内容及び研修時間数」

研修科目		研修時間数	研修内容
基礎研修	介護に関する基礎知識	1.5時間	介護保険制度の概要等
	介護の基本	1.5時間	介護における安全・安楽な体の動かし方等
入門講座	基本的な介護の方法	10時間	介護職の役割や介護の専門性・生活支援技術の基本等
	認知症の理解	4時間	認知症の中核症状とBPSD等
	障害の理解	2時間	障害の概念や障害者福祉の理念等
	介護における安全確保	2時間	介護の現場における事故やリスク等
合計時間数		21時間	

この他:生活援助従事者研修(59時間)等が実施されている



## 介護福祉士養成課程の教育内容の見直し（概要）

### 見直しの背景

- 平成29年10月にとりまとめられた、社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会の報告書「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて（以下「報告書」という。）」を踏まえ、今後、求められる介護福祉士像に即した介護福祉士を養成する必要があることから、各分野の有識者、教育者及び実践者による「検討チーム」を設置。

（「報告書」の養成課程の教育内容の見直しに係る部分について、事務局要約）

介護福祉の専門職として、介護職のグループの中で中核的な役割を果たし、認知症高齢者や高齢単身世帯等の増加等に伴う介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる介護福祉士を養成する必要

- ・専門職としての役割を発揮していくためのリーダーシップやフォロワーシップについて学習内容を充実させる
- ・本人が望む生活を地域で支えることができるケアの実践力向上のために必要な学習内容を充実させる
- ・介護過程におけるアセスメント能力や実践力を向上させる
- ・本人の意思（思い）や地域との繋がりに着目した認知症ケアに対応した学習内容を充実させる
- ・多職種協働によるチームケアを実践するための能力を向上させる

### 見直しの観点

- 「報告書」を踏まえ、現行の介護福祉士の養成・教育の内容や方法を整理し、下記の観点から教育内容の見直しを行った。
  - ① チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充
  - ② 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上
  - ③ 介護過程の実践力の向上
  - ④ 認知症ケアの実践力の向上
  - ⑤ 介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

### 教育内容の見直しのスケジュール

- 2018（平成30）年度から周知を行う。2019（平成31）年度より順次導入を想定。

12

## 介護福祉士養成課程の教育内容の見直し（概要）

### 見直しの観点

- ① チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充
- ② 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上
- ③ 介護過程の実践力の向上
- ④ 認知症ケアの実践力の向上
- ⑤ 介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

13

## 介護福祉士養成課程の教育内容の見直し(概要)

### 教育内容の見直しのスケジュール

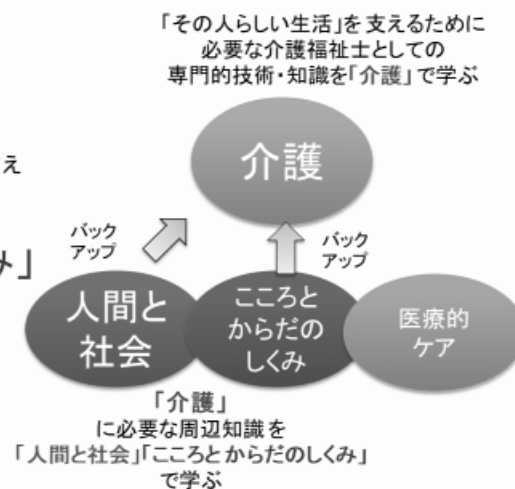
- 平成30（2018）年度から周知を行う。
- 令和元（2019）年度より順次導入を想定。

	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年 2022
4年課程 大学等	周知徹底	スタート	→	→	令和4年 国家試験
3年課程 高校等			スタート	→	
2年課程 短大・専門学校等				スタート	

14

## 参考：介護福祉士養成教育の基本的体系

- 「人間と社会」  
その基盤となる教養や倫理的態度の  
涵養に資する
- 「介護」  
「尊厳の保持」「自立支援」の考え方を踏まえ  
生活を支える知識と技術
- 「こころとからだのしくみ」  
多職種協働や適切な介護の提供に  
必要な根拠
- 「医療的ケア」



15



## 介護福祉士養成課程の教育内容の見直し(主な事項)

- 「報告書」に示された、今後求められる介護福祉士像に即し、「社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針について(以下「指針」という。)」に示されている各領域の【目的】、教育内容の【ねらい】を体系的に整理。
- 領域間で関連・重複する教育の内容の整理を含め、【教育に含むべき事項】の主旨を明確にするため、指針に【留意点】を追加。

### ① チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充

領域:人間と社会

介護職のグループの中での中核的な役割やリーダーの下で専門職としての役割を発揮することが求められていることから、リーダーシップや フォロワーシップを含めた、チームマネジメントに関する教育内容の拡充を図る。

※人間と社会に関する選択科目に配置されていた「組織体のあり方、対人関係のあり方(リーダーとなった場合の)人材育成のあり方についての学習」を整理

- 「人間関係とコミュニケーション」の教育に含むべき事項に、**チームマネジメントを追加**  
(30時間→60時間)  
⇒ 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する内容

(参考 コミュニケーションに関する教育の内容を、各領域の目的に沿って整理)

- 「人間関係とコミュニケーション(領域:人間と社会)」:人間関係の形成やチームで働くための能力の基盤となるコミュニケーション
- 「コミュニケーション技術(領域:介護)」:介護の対象者との支援関係の構築や情報の共有化等、介護実践に必要なコミュニケーション

16

## 介護福祉士養成課程の教育内容の見直し(主な事項)

### ② 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上

領域:人間と社会

領域:介護

対象者の生活を地域で支えるために、多様なサービスに対応する力が求められていることから、各領域の特性に合わせて地域に関連する教育内容の充実を図る。

- 「社会の理解」の教育に含むべき事項に、**地域共生社会を追加**  
⇒ 地域共生社会の考え方と地域包括ケアシステムのしくみを理解し、その実現のための制度や施策を学ぶ内容
- 「介護実習」の教育に含むべき事項に、**地域における生活支援の実践を追加**  
⇒ 対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容

注)「⇒」は、指針に示されるカリキュラムに反映する具体的な内容

17



## 介護福祉士養成課程の教育内容の見直し(主な事項)

### ③ 介護過程の実践力の向上

領域:介護

介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応するため、各領域で学んだ知識と技術を領域「介護」で統合し、アセスメント能力を高め実践力の向上を図る。

- 領域「介護」の目的に、各領域での学びと実践の統合を追加  
⇒ 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う
- 「介護総合演習」と「介護実習」に、新たに【教育に含むべき事項】を追加  
⇒ 「介護総合演習」:知識と技術の統合、介護実践の科学的探求  
⇒ 「介護実習」:介護過程の実践的展開、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践

### ④ 認知症ケアの実践力の向上

領域:こころからだ

本人の思いや症状などの個性に応じた支援や、地域とのつながり及び家族への支援を含めた認知症ケアの実践力が求められていることから、認知症の理解に関する教育内容の充実を図る。

- 「認知症の理解」の教育に含むべき事項に、**認知症の心理的側面の理解を追加**  
⇒ 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容
- 「認知症の理解」の教育に含むべき事項に、認知症に伴う生活への影響のみならず、**認知症ケアの理解を追加**  
⇒ 認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの基礎的な知識を理解する内容

18

## 介護福祉士養成課程の教育内容の見直し(主な事項)

### ⑤ 介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

領域:介護

領域:こころからだ

施設・在宅にかかわらず、地域の中で本人が望む生活を送るための支援を実践するために、介護と医療の連携を踏まえ、人体の構造・機能の基礎的な知識や、ライフサイクル各期の特徴等に関する教育内容の充実を図る。

- 「介護実習」の教育に含むべき事項に、**多職種協働の実践を追加**  
⇒ 多職種との協働の中で、介護職種としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容
- 「こころからだのしくみ」の教育に含むべき事項を、**こころからだのしくみⅠ(人体の構造や機能を理解するための基礎的な知識)とⅡ(生活支援の場面に応じた心身への影響)に大別**
- 「発達と老化の理解」の教育に含むべき事項の「人間の成長と発達」に、**ライフサイクルの各期の基礎的な理解を追記**  
⇒ 人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する内容

19

介護福祉士養成課程のカリキュラム領域「介護」

## 介護実習（450時間）

### ねらい

1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。
2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

20

教育に含むべき事項	留意点
①介護過程の 実践的展開	介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。
②多職種協働の実践	多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。
③地域における 生活支援の実践	対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。

21

介護福祉士養成課程のカリキュラム領域「介護」  
**介護総合演習（120時間）**

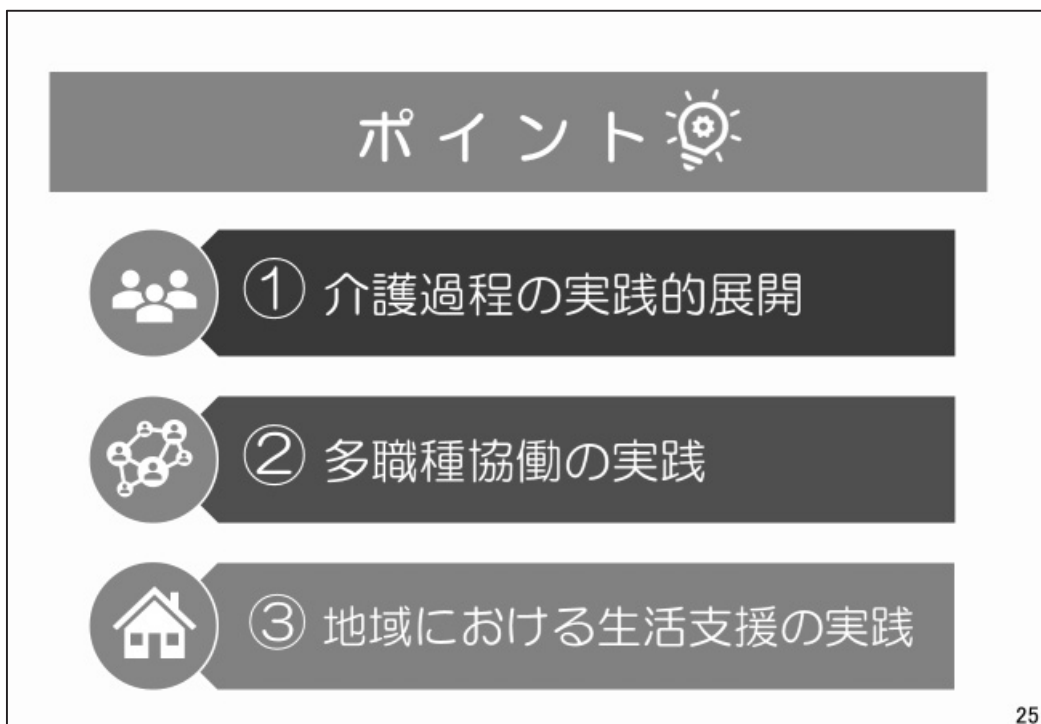
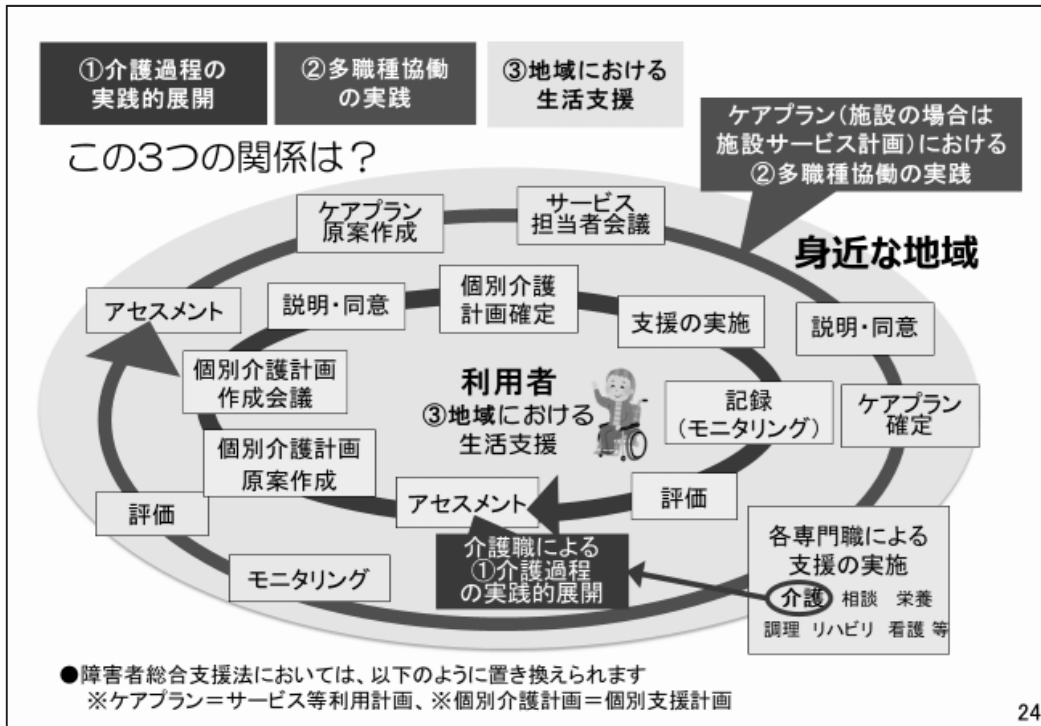
**ねらい**

介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。

22

教育に含むべき事項	留意点
①知識と技術の統合	<p>実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。</p> <p>実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う内容とする。</p>
②介護実践の科学的探求	<p>質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する内容とする。</p>

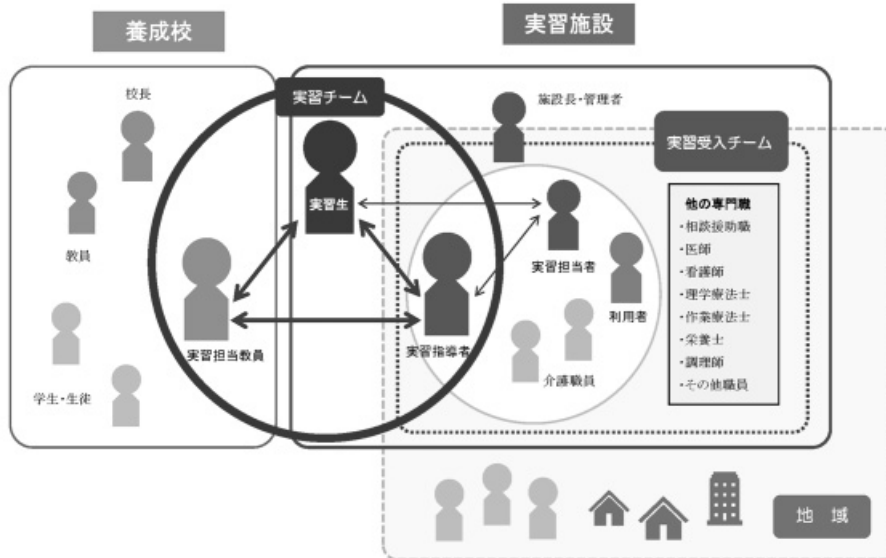
23



# 2

## 介護実習を受け入れる体制づくり

### 実習におけるチームのとらえ方



## 実習受入チームについて

- 実習の受け入れは実習指導者一人が行うわけではない。
- 実習指導者を中心とした実習受入チームをつくり、養成校の実習担当教員と連携しながら、実習施設全体で、取り組む体制を整えることが大切。



- 職場全体の実習生に対する意識が変わる。
- 年間の受け入れ計画や日々の実習指導における各職員の責任と役割分担等が明確になる。

28

## 実習受入チームのつくり方

実習受入チームの構成メンバー（例）

- 幅広い勤務年数の職員で構成する。  
（1年目・3年目・5年目・10年以上など）
- 養成校の卒業生を入れる。
- 可能であれば利用者にも入ってもらう。
- ユニットやフロアが分かれている場合は各ユニット、フロアから職員を選出する。

29

## 実習受入チームの役割

- 実習生受け入れの準備（マニュアル準備や実習日程の調整など）。
- 実習中の実習生への指導。
- フロア別で実習生を受け入れた場合、進捗状況の確認を行う。
- カンファレンス・実習の振り返りへの出席。
- 実習生の評価。
- 実習受入チームでの実習後の振り返り。
- 定期的に実習受入チームの打合せを実施。

30

3

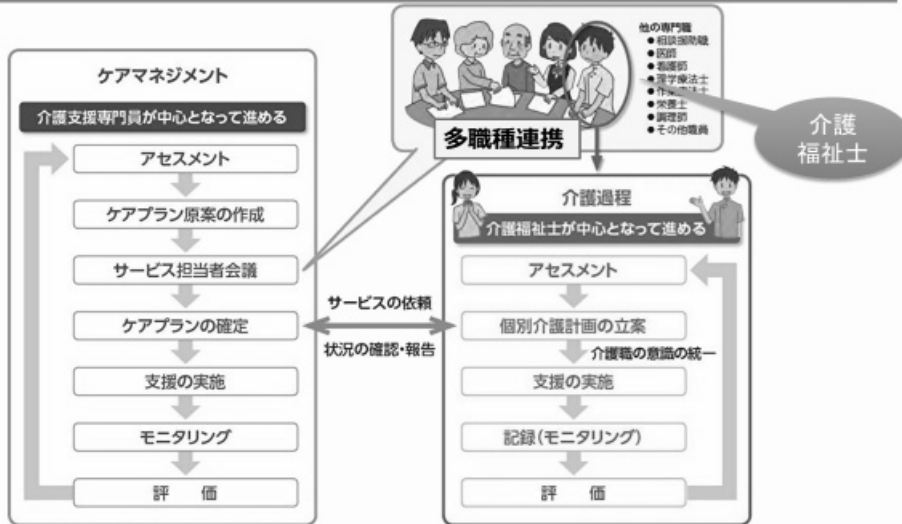
「介護実習」の教育に含むべき事項

### ① 介護過程の実践的展開

31



## 介護過程とケアマネジメントの関係性



●障害者総合支援法においては、以下のように置き換えられます

※介護支援専門員＝相談支援専門員、※ケアプラン＝サービス等利用計画、※個別介護計画＝個別支援計画

32

## 介護過程とは

ケアプラン※の支援目標を踏まえつつ、  
介護職がチームとなって、個別に支援  
を行っていく実践過程をいう。



利用者が望む

「よりよい生活」「よりよい人生」

※障害者総合支援法においては、以下のように置き換えられます

●ケアプラン＝サービス等利用計画

33



## 介護過程の目的

- 個々の利用者がどのような生活を望んでいるのか、何が必要かを分析し、計画の実践→評価→計画の見直しという取り組みを継続的に行うことができる。
- 根拠を言語化することによって、職員間でも統一したケアの実践を実現する。

34

## 学生が介護過程を展開をするまでの流れ

利用者へ関心（興味）をもつ



気づく 



本人の思いや願いを実現したくなる

35

## 介護過程の実践的展開について

### ねらい

- 利用者の課題を介護の立場から系統的に判断し解決するためには、利用者を「知る」ことから始まる。
- 「利用者への関心」が前提になれば利用者の情報は、「情報収集作業」になってしまう。
- 「介護過程を展開する」ことが目的ではなく、利用者との関わりから、本人の思いや願いを実現できること、この思考に基づく実践過程が介護の専門性であること、介護福祉職としての楽しさややりがいにつながるものであることを介護過程の展開を通して伝える必要がある。

36

介護実習指導のためのガイドラインより

### 実習施設が取り組むべき内容及び留意点



- 実習生が受け持ち利用者を決定する際には、職員間で利用者の状態を把握した上で、候補者をあげておく。
- 実習受入チーム全体が利用者を知っている。
- フェイスシート等には最新の情報が記載されている。
- ※個別介護計画を策定する上で、それぞれの専門職（多職種）の視点で、※個別介護計画へのアドバイスをもらえる機会をつくる。中間カンファレンス等に多職種の出席が考えられる。

●障害者総合支援法においては、以下のように置き換えられます  
※個別介護計画＝個別支援計画

37

- ※個別介護計画実施に費用がかかる時には、個人的に使うものなのか、他の入居者へ波及するのか等の効果を考え、利用者本人もしくは実習施設の交流費等から支出することが考えられる。利用者家族への連絡、実習施設の交流費支出のための計画書の作成等、関連して必要となることについても併せて指導を行う。
- 目標に対する評価と計画の修正の必要性をアドバイスできる。
- 実習指導者が実習終了後の継続性を考えておく。

●障害者総合支援法においては、以下のように置き換えられます  
※個別介護計画＝個別支援計画

38

介護実習指導のためのガイドラインより



## 養成校が取り組むべき内容及び留意点

- 利用者の情報を知る機会であることを認識し、個人情報保護法等に関する概要、守るべきルールについて実習生に指導するとともに、実習施設には「秘密保持に関する誓約書」等において養成校及び実習生の姿勢を示す。

39

### 3

「介護実習」の教育に含むべき事項

## ②多職種協働の実践

40

## 多職種協働の実践について

ねらい

- 異なる専門性をもつ多職種が、それぞれの職種の能力を活用して対象者の生活支援を行うことで、より質の高いケアにつながるということを体験を通して理解を深める。
- また、この過程において、それぞれの職種の専門性を理解するとともに、介護福祉士の専門性をより深く学習する機会とする必要がある。

41



## 養成校が取り組むべき内容及び留意点

- 事前学習で様々な専門職について調べ、多職種協働の意義と目的について学ぶ。
- 実習懇談会や実習に関する要項等で、実習生が多職種協働についての学びができるよう実習施設には多職種協働についての実際を示す。その際にはできる限り具体的にねらいや内容について説明を行うようにする。
- サービス担当者会議（ケアカンファレンス）に参加する各専門職の専門性について理解しておく。
- 事前学習として様々なサービス担当者会議（ケアカンファレンス）のそれぞれの目的を把握する。

42



## 実習施設が取り組むべき内容及び留意点

- 実習施設で働いている様々な職種（看護・栄養・リハビリ等）の業務に同席するなどして、他職種がどのような役割を持っているのかを学ぶ機会をつくる。実習指導者等から、役割や連携方法等、介護職として説明を加える。
- 多職種が参加するサービス担当者会議（ケアカンファレン）に実習生も同席し、一人の利用者にそれぞれの職種がどのように関わっているのかを学ぶ機会をつくる。その際、利用者が一番近い専門職として利用者の代弁者として、どのような姿勢で介護福祉士が発言しているのかを説明する機会が必要である。

43



- その他実習施設で行っている多職種協働の方法（各種委員会やパソコンでの情報共有等）があれば説明を行い、様々な面で協働していく必要性があることを学ぶ機会をつくる。
- 介護福祉士が統一したケアを行うために行っているケースカンファレンス（介護職間の会議）に実習生を参加させ、利用者を観察する様々な視点やケアの統一方法について学ぶ機会が必要。
- 介護過程を展開するために実習生が収集した利用者情報の妥当性や介護の方向性、支援内容の適否について検討するカンファレンスを実施する。その際、できる限り複数の職員（介護福祉士及び他の専門職）に参加してもらい、実習生がより介護過程について学びを深めることができる機会をつくる。

44

## 実習施設に期待されていること

- 実習生が、施設に従事する様々な専門職の業務に同席し、役割や連携方法を学ぶ。
- サービス担当者会議（ケアカンファレンス）に実習生も同席し、一人の利用者に多職種がどのように関わっているかを学ぶ。
- サービス担当者会議（ケアカンファレンス）を通して介護福祉士の専門性を示し、学生に伝えることができる。

45

### 3

「介護実習」の教育に含むべき事項

## ③地域における生活支援の実践

46

## 地域における生活支援の実践について

### ねらい

- 施設で生活している人も地域の住民であることを認識し、地域と実習施設がどのように支え合っているのかを学ぶ。
- そのためには実習施設のある地域の特性やその地域ならではの文化や行事を知ること、介護福祉士の大切な役割の一つであることを理解しておくことが必要。
- 施設が地域の拠点になるために介護福祉士が地域の課題にどのように取り組んでいるかを実習を通して学べるよう工夫する。

47



## 実習施設が取り組むべき内容及び留意点

- 通所サービスやショートステイの送迎を利用し、実習施設周辺の地域環境や資源について説明する。
- 利用者が地域資源をどのように活用し生活しているかをケアマネジャーのケアプラン等を通して理解する機会を持つ。
- 利用者が施設に入所することで地域とのつながりが途切れないように介護福祉士がどのような役割を担っているのかを学ぶ機会をもつ。

48

- 利用者が参加している地域で開催される行事やイベントに、実習生を同行させ広い視点での生活支援技術を学ぶ機会を持つ。
- 実習施設で開催される行事やイベントに地域の方の参加を呼びかけ、企画や運営に実習生も参加する機会をもち、そこで介護福祉士が専門性をどのように発揮しているかを学ぶ機会を持つ。
- 施設を地域に開放する、介護福祉士が地域に出向き講座を行う、災害時における地域での役割など、施設が地域にとって社会資源であることを学ぶ機会を持つ。
- 施設が地域の拠点になるために介護福祉士が地域の課題にどのように取り組んでいるのか、実習を通して学ぶ機会が必要。

49





## 養成校が取り組むべき内容及び留意点。

- 施設や介護福祉士が地域の一員として行動することで、利用者の生活の幅が広がることを伝える。
- 実習施設周辺の地域環境や資源、文化や歴史を事前に学習しておく。
- 送迎や介護福祉士が地域に出向いて活動している場面に実習生も同行できるように働きかける。
- 実習終了後は、必ず実習報告会などを通して実習生と情報共有を行う。

## 4

### グループワーク



## 発表とまとめ

52

おわりに

研修アンケートご協力をお願い

53

## 2つのアンケート調査への回答をお願いします

### ●調査1:研修アンケート

研修参加者を対象に、研修内容に関するアンケート調査を実施しております。参加された方は、必ずご回答いただきますようお願いいたします。その際必ず個人メールアドレスをご登録いただきますようお願いいたします。(調査2で使用いたします。)

なお、アンケート調査はWebアンケートとなっております。お手持ちのパソコンもしくはスマートフォンから以下のURLにアクセスし、回答をお願いします。

アンケートURL:  
<https://forms.gle/JNpN1SDUr6iLXBVr7>

QRコード:



回答期限:  
**研修参加後1週間以内**

### ●調査2:効果検証アンケート

本研修を受けて、介護実習指導の体制や実施方法等にどのような変化があったかなど、効果検証を目的としたアンケート調査を実施します。

参加された方は、上記「調査1」で登録していただいたメールアドレス宛に、令和2年1月～2月にWebアンケートURLリンクを送付させていただきますので、必ずご回答いただきますようご協力をお願いいたします。

54

研修アンケートを  
受付にご提出くださいますよう  
ご協力をお願いいたします

お疲れ様でした  
気をつけてお帰りください

54



## ■ 第3章

# 「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」 の講師養成

---



## 1. 講師養成研修の実施（報告）

都道府県において実習指導者講習修了者や養成校の実習指導担当教員等を対象とする「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の講師を養成するため、大阪および東京の2か所において講師養成研修を実施した。

「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」（第3章で詳説）を実施する際の研修内容の理解を深めるとともに、研修の取り回し方や留意点等を伝えるための伝達研修であり、第2章に掲載した「カリキュラム対応 介護実習指導研修プログラム」のパワーポイントを使用して研修を実施した。なお、研修講師は本調査研究作業部会の委員が務めた。

講師養成研修には45都道府県から参加があり、受講者の合計は89名、内訳として介護実習指導者48名、養成校の教諭・教員31名、その他10名の参加があった。

### 大阪会場 実施概要

日 時	令和元年10月18日（金）11：00～16：30		
場 所	新大阪丸ビル新館506号室		
受講者	合 計	52名	
	所属内訳	介護実習指導者	28名
		養成校の教諭・教員	18名
		その他	6名
	都道府県	北海道 岩手県 秋田県 群馬県 東京都 富山県 石川県 岐阜県 愛知県 三重県	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県 島根県 岡山県 広島県 山口県
		徳島県 香川県 愛媛県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県	
担当講師 五十音順・敬称略	鈴木 幹治 本名 靖 水谷なおみ 吉岡 俊昭	三重県立伊賀白鳳高等学校 社会福祉法人本庄ひまわり福祉会 日本福祉大学 トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校	

## 東京会場 実施概要

日 時	令和元年 10 月 19 日（土） 11：00～16：30		
場 所	TKP 九段下神保町ビジネスセンター4 階 カンファレンスルーム 4A		
受講者	合 計	37 名	
	所属内訳	介護実習指導者	20 名
		養成校の教諭・教員	13 名
	その他	4 名	
都道府県内訳	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県	栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県 富山県	石川県 福井県 山梨県 長野県 静岡県 愛知県 鳥取県 長崎県
担当講師 五十音順・敬称略	鈴木 幹治 高岡 理恵	三重県立伊賀白鳳高等学校 華頂短期大学	





## 2. 講師養成研修受講者へのアンケート

研修の理解度等を把握するとともに、研修や介護実習に対する意見を把握し、研修資料のブラッシュアップ等を図ることを目的に、講師養成研修受講者へのアンケートを実施した。

### (1) 調査概要

調査日	大阪研修：令和元（2019）年10月18日（金） 東京研修：令和元（2019）年10月19日（土）
対象者	新カリキュラム対応 介護実習指導研修 講師養成研修受講者全員 大阪・東京会場：合計89名
回収数	88票（回収率98.9%）
調査方法	研修後に調査票を配布し、その場で記載・回収

## (2) 調査票

### 新カリキュラム対応 介護実習指導研修 講師養成研修受講調査

■大阪会場 令和元年 10 月 18 日（金） ■東京会場 令和元年 10 月 19 日（土）  
公益社団法人日本介護福祉士会

問 1 最初にあなたご自身についてお教えてください。

性別と年齢	1. 男性      2. 女性	満 (            ) 歳
介護福祉士 資格取得年	西暦・和暦 (            ) 年 ※どちらかに○をつけてください。	
資格取得方法 (1つに○)	1. 養成施設（専門学校）卒業 2. 養成施設（短大・大学）卒業 3. 実務3年の後、実技試験を受験し介護福祉士試験合格 4. 実務3年の後、介護技術講習を受講し介護福祉士試験合格（H17年度～） 5. NHK学園等の通信教育を修了後、介護福祉士試験合格 6. その他 (            ) → 福祉系高等学校を卒業していますか ( はい ・ いいえ )	
所属先	1. 介護福祉士実習指導者講習会の修了者であって、現に介護実習指導者として実習指導にあたる者 2. 介護実習に携わる介護福祉士養成施設等の教員、教諭	

<b>所属先で従事している施設・サービスの種類</b> 1. 入所・入居施設 2. 居宅サービス 3. 地域密着型サービス 4. その他	<b>所属先種別</b> 1. 高等学校 2. 専門学校 3. 短期大学 4. 4年生大学 5. その他 (            )
<b>介護実習指導者としての経験年数</b> (            ) 年	<b>介護福祉士養成施設等の教員、教諭としての経験年数</b> (            ) 年

**問2 本日の研修について、ご回答ください。**

**(1) 介護福祉士養成課程における教育内容の見直しに伴い、介護実習にも新たに【教育に含むべき事項】が追加されたことをご存知でしたか。**

知っていた ・ 部分的に知っていた ・ 聞いたことがある程度 ・ 知らなかった

**(2) 介護福祉士養成課程見直しの全体像について、理解できましたか。**

【内容について】 よく理解できた ・ 理解できた ・ あまり理解できなかった ・ 理解できなかった

※参考になったこと、良かった内容がありますか

[ ]

※わかりにくかったこと、より詳しく知りたい内容がありますか

[ ]

**(3) 介護実習を受け入れる体制づくりについて、理解できましたか。**

【内容について】 よく理解できた ・ 理解できた ・ あまり理解できなかった ・ 理解できなかった

※参考になったこと、良かった内容がありますか

[ ]

※わかりにくかったこと、より詳しく知りたい内容がありますか

[ ]

**(4) 新カリキュラム対応：介護過程の実践的展開について、理解できましたか。**

【内容について】 よく理解できた ・ 理解できた ・ あまり理解できなかった ・ 理解できなかった

※参考になったこと、良かった内容がありますか

[ ]

※わかりにくかったこと、より詳しく知りたい内容がありますか

[ ]

**(5) 新カリキュラム対応：多職種協働の実践について、理解できましたか。**

【内容について】 よく理解できた ・ 理解できた ・ あまり理解できなかった ・ 理解できなかった

※参考になったこと、良かった内容はありますか

[ ]

※わかりにくかったこと、より詳しく知りたい内容はありますか

[ ]

**(6) 新カリキュラム対応：地域における生活支援の実践について、理解できましたか。**

【内容について】 よく理解できた ・ 理解できた ・ あまり理解できなかった ・ 理解できなかった

※参考になったこと、良かった内容はありますか

[ ]

※わかりにくかったこと、より詳しく知りたい内容はありますか

[ ]

**(7) 本日の研修を受講して、介護実習指導者は「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」を受講すべきと思われましたか。**

とても思う ・ 思う ・ あまり思わない ・ 思わない

**(8) 今後、「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」を実施するにあたり、疑問に思っていること、不安に思っていること、そのほか意見や要望はありますか。**

[ ]

**(9) その他、本研修や、介護実習指導者等に関するご意見等がございましたらご記入ください。**

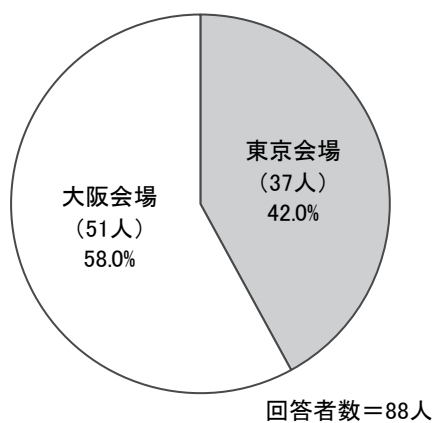
[ ]

ご協力をありがとうございました。本アンケートを受付にご提出ください。

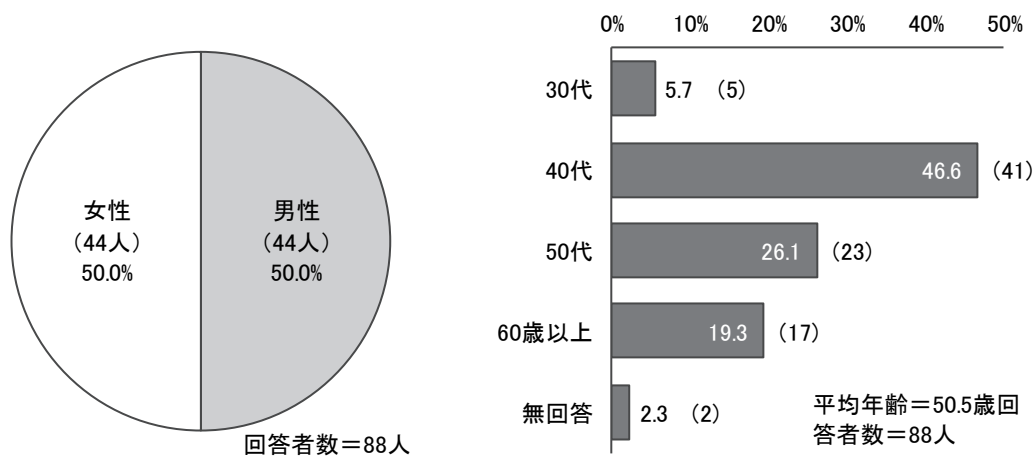
### (3) 集計結果

※以下、( ) は回答者実数

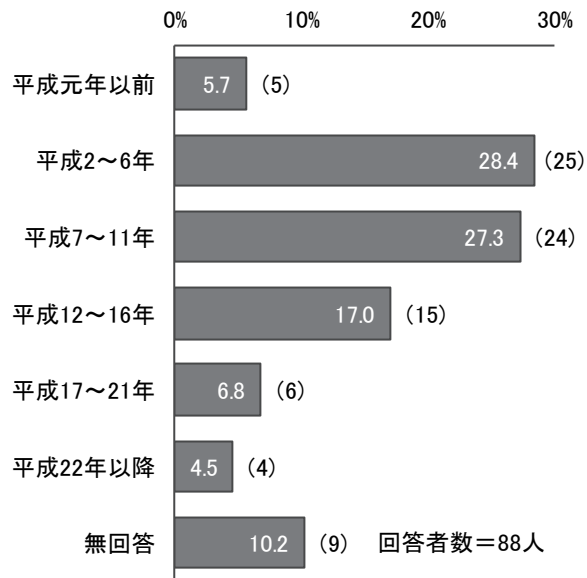
#### ① 受講の研修会場



#### ② 受講者の性別と年齢

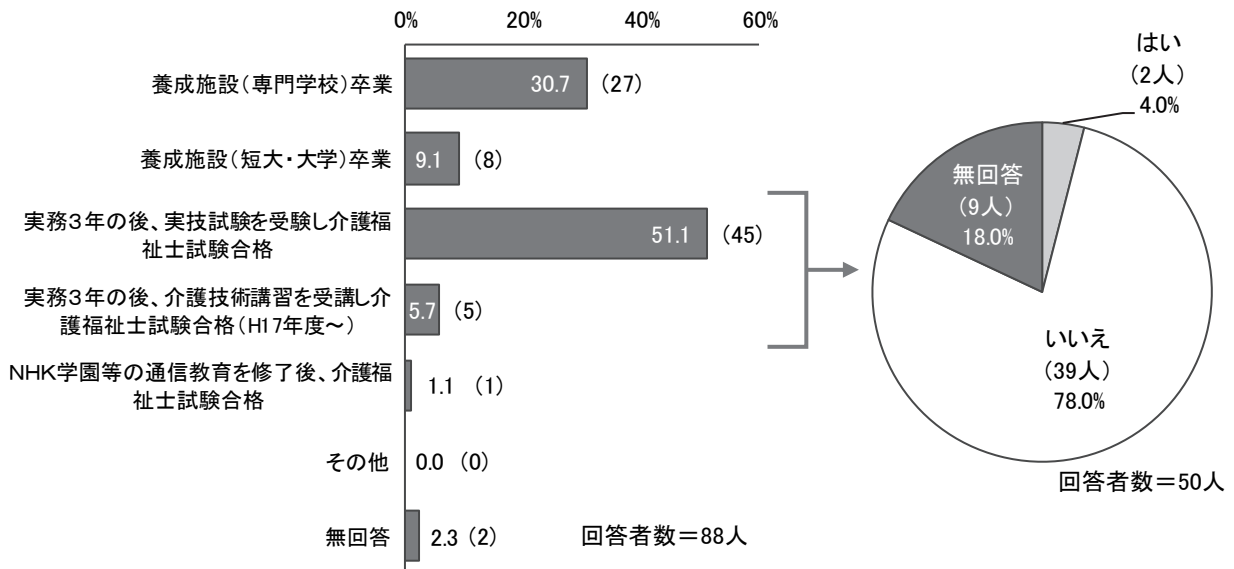


### ③介護福祉士資格取得年

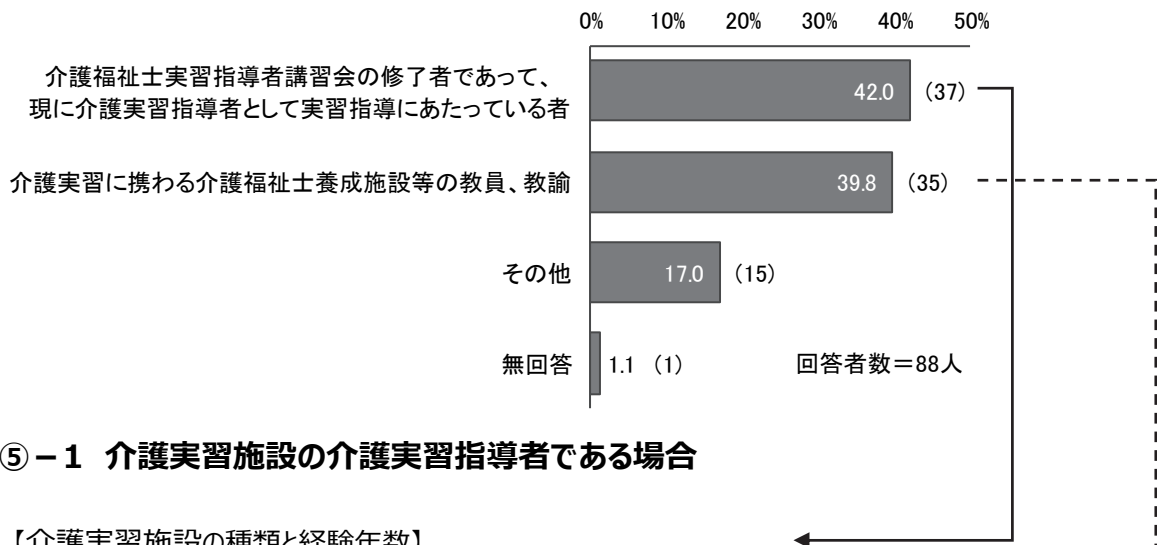


### ④資格取得方法

【資格取得方法】 【実務3年後取得の場合、福祉系高等学校を卒業しているか】

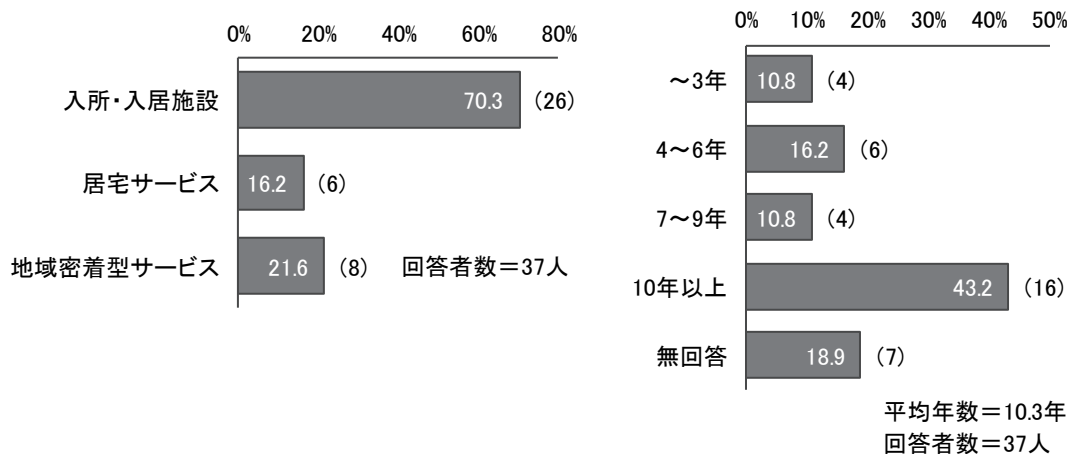


## ⑤ 介護実習に関する受講者の立場



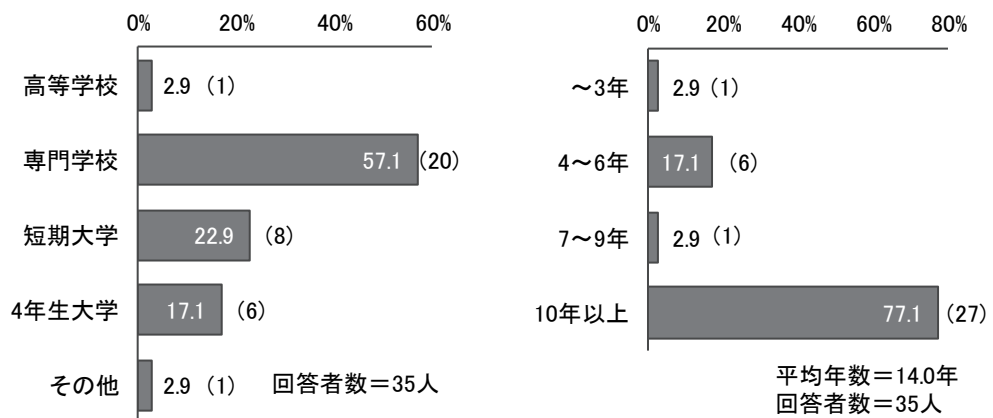
### ⑤-1 介護実習施設の介護実習指導者である場合

【介護実習施設の種類の経験年数】



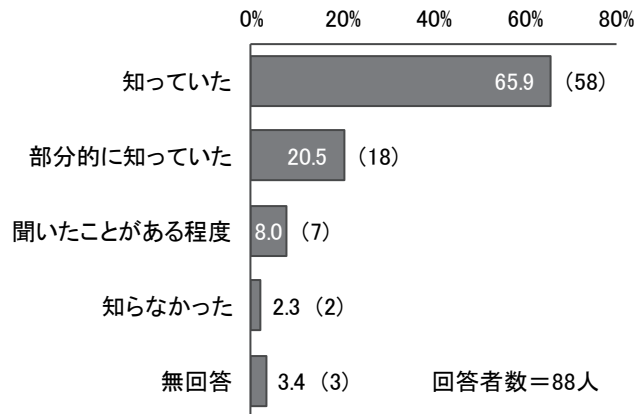
### ⑤-2 介護福祉士養成施設等の教員、教諭である場合

【所属先種別と経験年数】



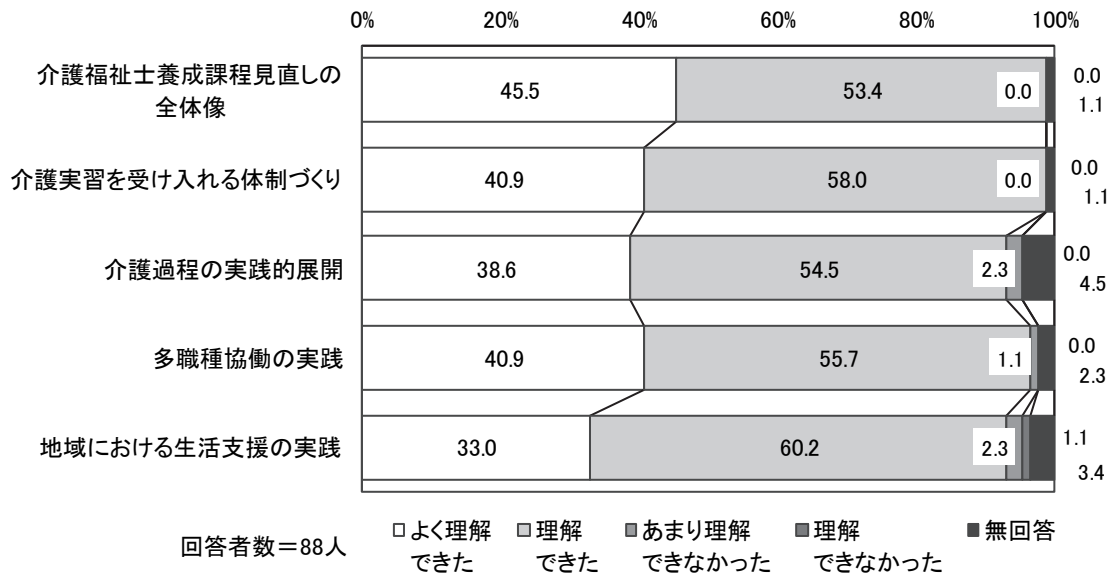
### ⑥【教育に含むべき事項】が新カリキュラムの介護実習に追加されたことの認知

介護福祉士養成課程における教育内容の見直しに伴い、介護実習にも新たに【教育に含むべき事項】が追加されたことをご存知でしたか。



### ⑦講師養成研修プログラムに関する理解度

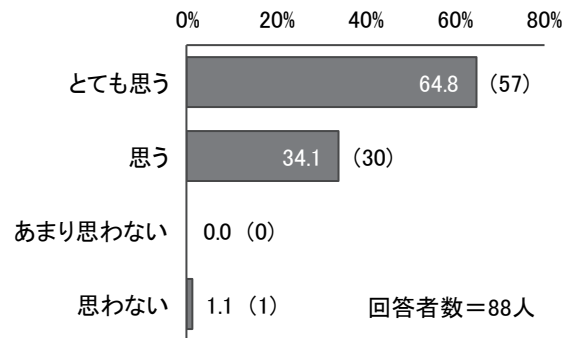
それぞれの内容について、理解できましたか。





### ⑧「新カリキュラム対応介護実習指導研修」の受講

本日の研修を受講して、介護実習指導者は「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」を受講すべきと思われましたか。



## (4) 研修へのご意見・ご要望等

### ①介護福祉士養成課程見直しの全体像－参考になったこと・良かった内容

#### ●参考になったこと・良かった内容 キーワード

・理解できた	・確認できた	・わかりやすかった
・見直しの背景	・見直しのポイント	・新カリのポイント
・求められる介護福祉士像 など		

- ◆ 「地域」「チーム」というキーワードを基に構成されており、よく理解することができた。
- ◆ 介護人材に求められる機能、役割、キャリアパスについて理解できた。
- ◆ 介護福祉士養成課題見直しの全体像。「介護実習」の教育に含むべき事項。研修の展開方法について。
- ◆ 確認できました。
- ◆ 実際の研修企画を理解できました。
- ◆ 社会保障審議会福祉部会厚労省ホームページをいつも見ていたので。
- ◆ 視野を広げるための研修取り組み、スキルアップの理想過程の再確認。
- ◆ 資料をもとにわかりやすく説明していただけたので、よく理解できました。
- ◆ 全体像は良く理解はできました。
- ◆ 大切なポイントを何回かくり返し教えていただいたので、伝える側になった時（講師）のイメージもできました。
- ◆ たくさんの事例が聞けたのと、教えてもらえたこと。
- ◆ 多職種協働の実践。地域における生活支援の実践などの養成校の視点。
- ◆ 地域における生活支援の実践の具体的内容がわかった。見直しのポイントはわかりやすかった。
- ◆ 伝えるべきこと。教えるべきことが明確になりました。
- ◆ 内容はよく理解できたが…。研修をするにあたり、まんじゅう→富士山型の表をまずは理解させることからスタートする必要がある、求められる介護福祉士像自体の説明が必要なので頭痛がする。
- ◆ 見直しの理由と伝えるべき内容。
- ◆ 養成校の先生（講師の方）の熱い思い。
- ◆ 具体的でよく理解できました。
- ◆ 介護職が苦手としているマネジメントについて、時間をとったことはとても良いと感じた。

- ◆ カリキュラム変更内容のポイントを振り返ることができ、又、業務に活かせる部分もあり、参考になりました。実際に講義する上での話すポイントも盛りこまれておりわかりやすいと思いました。
- ◆ 教育内容の見直し、概要が理解できた。
- ◆ 講義のポイントをわかりやすく教えていただくことで理解しやすかった。しっかり勉強します。
- ◆ 実習指導者および介護事業所が介護福祉士をリーダーとして育成する視点、取り組みが必要。各介護福祉士自身も責務、期待される実力を持つ必要性がある。
- ◆ 資料のつくられ方（pp と話のポイントの解説）と伝え方。
- ◆ 新カリキュラムにより、介護福祉士として今の現状にあうような指導ができるようにしてほしいということ。
- ◆ 新カリのポイント。
- ◆ チームマネジメント能力を見直す、地域での生活を支える実践力を見直す、というポイントが理解できた。
- ◆ 入門研修は知らなかったのが良かった。
- ◆ 背景とつながりが、自分で読むだけでは不明確だった部分の理解ができました。
- ◆ 背景について、報告書では読み取れなかった部分や意向の確認ができた。
- ◆ 個別支援計画と施設サービス計画の関係性がよくわかっていないので、介護現場の意識を変える必要がある。
- ◆ 求められる介護福祉士像が改正され、具体的にどんなことが求められているのが、よくわかりました。
- ◆ 求められる介護福祉士像、よく理解できた。

## ②介護福祉士養成課程見直しの全体像－わかりにくかったこと・詳しく知りたい内容

### ●わかりにくかったこと・詳しく知りたい内容 キーワード

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| ・見直しの詳細      | ・教育内容           |
| ・認定介護福祉士との関係 | ・求められる介護福祉士像 など |

- ◆ 介護福祉士のキャリアアップ上位に「認定介護福祉士」ではなく専門やマネジメントとなっているが…。認定はどこに当たりますか？
- ◆ 自身の中で教育内容についての知識が足りないと感じた。
- ◆ 新カリキュラムで追加されたマネジメント科目の具体的内容。
- ◆ 見直しの詳細部分は個人学習して補います。
- ◆ 早口で聞きとれない所があった。
- ◆ 求められる介護福祉士像について、もっと詳細に知りたい。

### ③介護実習を受け入れる体制づくり－参考になったこと・良かった内容

#### ●参考になったこと・良かった内容 キーワード

・ 具体的事例	・ 受入れチーム	・ 実習先の役割
・ チームに関する再確認	・ チームの重要性	など

- ◆ 明確なビジョンやプランの共有・学校と自施設、多職種や職種間連携、ご家族や地域とのつながりなど。
- ◆ 3つのポイントについて理解できた。
- ◆ 今まで、実習指導者チームに他職種、利用者を入れるのは考えていなかった。より良い実習にするよう、広めていきたい。
- ◆ 受入れチームに近いものは自職場ではできているので良かった。
- ◆ 概ねわかりました。
- ◆ 具体的な取り組みを知り、参考にできると思う。
- ◆ 施設さんとの研修会で具体的に説明できると思った。
- ◆ できている事業所ではなく、できていない事業所にあわせて、丁寧に話し、伝えたいと思いました。
- ◆ 必要性はとてもよくわかる。養成校の先生が、実習受入れチームをつくりましょうというのは、大変だろうと思う。
- ◆ 受入れチームに他職種もまきこんでいくこと。
- ◆ お話にあった通り、事例をあげるのが効果的ですね。楽しく、有意義な事例が聞けました。
- ◆ 学生を受け入れるにおいて、チームで受け入れることで、皆で育成していくこと。
- ◆ 具体例が多く報告がありよかった。
- ◆ 施設も地域の中の1つという理解ができた。チームづくりの必要性。
- ◆ 実習先の役割がわかった。
- ◆ 実習生の理解につながりやすいしかけづくり、工夫について参考になりました。
- ◆ 実習におけるチームの考え方。
- ◆ 事例がたくさんあり、よくわかりました。
- ◆ チームに関する再確認になりました。
- ◆ チームの重要性。
- ◆ ポイントについてなんとなくわかった。

#### ④介護実習を受け入れる体制づくり－わかりにくかったこと・詳しく知りたい内容

##### ●わかりにくかったこと・詳しく知りたい内容 キーワード

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| ・ 具体的事例    | ・ 受入れチームは必須なのか  |
| ・ 研修の時間が短い | ・ 現実的に可能なモデル など |

- ◆ 受入れチームはおすすめ程度か、つくってくださいねというやや強いものか？
- ◆ スライドに重複するものが見られるため、同じ話を何度もして飽きさせないように、例題を複数用意しておく必要があると感じた。
- ◆ 利用者の役割をどうつくるか、知りたい。
- ◆ 教授してもらう時間が足りない。2時間設定で話すとしたら具体的事例(話すべき)をもっと伝えてほしい。
- ◆ 介養協で実習のあり方をどう考えているのか伝えてほしかった。
- ◆ カリキュラム作成に携わったことや教育者としての思いや理想は理解できたが、反面学校の立場が色濃く出て、実際の期待感が現場に対してハードルの高さを感じさせることもあるかと感じた。
- ◆ 実習受入れチームなど先生の事例について、とても参考になったのですが、現実的に可能なモデルなどを例示してもらえると助かります。
- ◆ 実習前の連絡会では指導法についてかなり細かく伝えているが、その後は施設間の課題となり、実習がはじまって直接現場に伝えることもある。
- ◆ 資料の振り返り、想起がバタつき、逆にわかりづらかった。
- ◆ 誰を対象にして話しているかわからない。養成校の教員もいると思いますが、日本介護福祉士会としての講師養成ですね。
- ◆ 養成学校側の要求、あるべき論であった。しかし、新カリ実習指導者研修開催において、成人教育(レディネスも重要)、現場の現状は捨ておけない。→受入先のチーム構築の問題を踏まえなければ、結局は実のある内容の研修にならず(反発になってしまう)、実習生の学びの充実につながらないのではないのでしょうか。
- ◆ 養成校側も施設側も、現状を踏まえてできていない部分や改善点に取り組まないといけないと感じた。改革が必要。
- ◆ 養成校ともう少しコラボした研修になればと思った。
- ◆ やってみると出てくるかと思います。

## ⑤介護過程の実践的展開－参考になったこと・良かった内容

### ●参考になったこと・良かった内容 キーワード

- |           |                       |
|-----------|-----------------------|
| ・ 具体的事例   | ・ ケアプランと介護計画の違い       |
| ・ チームへの伝達 | ・ 学校でどのように勉強しているのか など |

- ◆ 介護過程を実践できる力を持つことの大切さを改めて学んだ。
- ◆ 学校の中でどのように勉強しているのかも少し見えた気がした。「介護過程を理解し展開、説明できることとは」が見えました。
- ◆ ケアプラン、介護計画の違いを現場レベルで周知させることは、現場の質の向上につながる点は納得できました。
- ◆ ケアプランと個別介護計画の違いをきちんと伝えます。
- ◆ ケアプランとの関係がわかりました。
- ◆ 介護過程のあるべき姿。
- ◆ 体験話は面白い。
- ◆ チームマネジメントが科目に入るのはすごく良いと思います。
- ◆ 介護過程について、再確認できた。様々な事例を聞いて良かったです。
- ◆ 具体的な場面、事例を多くあげることで、受講者はイメージしやすくなることを再認識しました。
- ◆ ケアマネジメントと介護過程の専門性について。
- ◆ 思考過程ではなく、実践の過程が重要であるということ。
- ◆ 思考ではなく、実践の過程。
- ◆ しっかり個別介護計画を立てさせる。ここをもっと強く言って行きたい。
- ◆ 実例を入れることで講義内容が受講生に入りやすくなる。
- ◆ チームへの伝達。
- ◆ グループワークの方法等。

## ⑥介護過程の実践的展開－わかりにくかったこと・詳しく知りたい内容

### ●わかりにくかったこと・詳しく知りたい内容 キーワード

- |                      |             |            |
|----------------------|-------------|------------|
| ・ 具体的事例              | ・ 評価        | ・ 研修の時間が短い |
| ・ 介護計画を作成していない施設への対応 | ・ 思考過程と実践過程 | など         |

- ◆ 教授してもらった時間が足りない。2時間設定で話すとしたら具体的事例(話すべき)をもっと伝えてほしい。
- ◆ 学生が気づくことへの支援。

- ◆ ケアプランと介護計画の関係や介護計画を作成していない施設が実際にはあるので、悩みが薄まった。
- ◆ 現状、施設では、施設サービス計画書はありますが、個別支援計画書は作成されていません。
- ◆ 実践的に展開できる→実践過程の意味は理解できますが、思考しながら検証することを含め思考過程と認識していました。学生に対し、思考過程と実践過程の使い分けができるか伝わるか難しさを感じました。
- ◆ 評価の仕方について詳しく知りたかった。
- ◆ 現場に落とす時の言葉になやむ。
- ◆ 現場ではなく、介護実践の場、生活の場ですよね。とても気になります。

## ⑦多職種協働の実践－参考になったこと・良かった内容

### ●参考になったこと・良かった内容 キーワード

- |                 |            |
|-----------------|------------|
| ・連携における介護福祉士の役割 | ・他職種の業務を知る |
| ・カンファレンスへの参加    | ・具体的事例 など  |

- ◆ 具体的に例を出してくれたので県にもって帰って指導しやすかったです。
- ◆ さらに理解を深めることができた。
- ◆ 実習中にどのようなかたちで体験できるかを考えていきたい。
- ◆ 介護職員以外と連携しなければいけない。
- ◆ カンファレンスを通しての学びを深める。
- ◆ 具体的展開について理解できました。
- ◆ 柔軟な発想で他職種を体験させていただくことも学びにつながることを再認識できました。
- ◆ 多職種協働のためには、他職種業務を知る必要があるということ。
- ◆ 中間カンファ等に他職種の介入があると良い。
- ◆ まずは、カンファレンスへの参加（段取り）をしようと思う。
- ◆ 連携における介護福祉士の役割。
- ◆ いろんな職種と関わりを持つことで新しいアイデアも生まれ、学生にとっても考えることにつながると思う。
- ◆ お金のかかる支援について、それが必要かどうかを考えさせることも大事だという視点。
- ◆ 介護の様々な視点の中に入ってくるもの。実際に多くの研修科目にこのタイトルがあります。

## ⑧多職種協働の実践－わかりにくかったこと・詳しく知りたい内容

### ●わかりにくかったこと・詳しく知りたい内容 キーワード

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| ・教授してもらった時間が足りない | ・どうチームを形成していくか |
| ・スケジュール、組立て      | ・実習報告会 など      |

- ◆ 教授してもらった時間が足りない。2時間設定で話すとしたら具体的事例(話すべき)をもっと伝えてほしい。
- ◆ 実際、具体的に、どう実習生に関わり、スケジュールを組立たいけばいいのか、実習指導者に育成指導すればいいか、見えづらかった。
- ◆ 実際に実習先と実習指導者が、教員とどうチームを形成していくかもっと詳しく教えてほしかった。
- ◆ 実習報告会があまりない？

## ⑨地域における生活支援の実践－参考になったこと・良かった内容

### ●参考になったこと・良かった内容 キーワード

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| ・地域のつながりの必要性     | ・地域に出て行く      |
| ・施設は地域の中のサービスの1つ | ・地域の中にある施設 など |

- ◆ 施設で生活することも地域の中で暮らしていることに気づき、地域に出て行くことを考えるのも必要。
- ◆ 地域における生活支援の実践についての考え方が自分の中で明確になった。
- ◆ 老健なのであてはまりやすかった。
- ◆ 色々なことに参加してもらおう。
- ◆ 施設の工夫で新カリ以前に実習内容に組み入れていただいているところもありました。多くの施設へ広げる工夫が参考になりました。
- ◆ 施設は地域の中のサービスの1つということ。
- ◆ 地域のつながりの必要性。
- ◆ 地域の中にある施設であることという視点。
- ◆ 地域生活支援について、養成校との相談もしたい。
- ◆ 4)、5) 含めて上記の内容に加えて、認知症介護実践者、リーダー研修等にもこの視点の科目があります。



## ⑩地域における生活支援の実践－わかりにくかったこと・詳しく知りたい内容

### ●わかりにくかったこと・詳しく知りたい内容 キーワード

・ 具体的事例	・ 地域とは	・ 指導が難しい
・ 実践事例	・ 地域資源を活用	
・ 研修の時間が短い など		

- ◆ もう少し事例が出てきたら教えてください。
- ◆ 介養協で考えている地域、各学校の考える地域を教えてください。
- ◆ 教授してもらった時間が足りない。2時間設定で話すとしたら具体的事例(話すべき)をもっと伝えてほしい。
- ◆ 具体的にどう説明するのか、事例を検討する。
- ◆ 現実的に現場サイドでこのニーズを実行できるか？施設への負担を考えてみました！実習の受け入れがなくなるかも？
- ◆ 施設実習の中で知る(学び)内容なのか？
- ◆ 施設の実習指導者が多い中、このテーマを考えること、そして実習で指導することは難しさを感じます。
- ◆ 実習の中でどのように取り入れていくかの説明について、講義を行うまでに深めようと思いました。
- ◆ 実践事例を多く紹介してもらえると、これからの参考になると思う。
- ◆ 事例をたくさん知りたい。
- ◆ 先生の学校側から実習先に依頼している事項があれば教えてください。
- ◆ 地域貢献は施設によって違いがあるのか…。(受講生がイメージできるか不安…)
- ◆ 理解できますが、地域資源を活用することを、うまくできている施設は、多くありません。

## (5) 研修を実施するにあたっての不安や課題、ご意見・ご要望等

今後、「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」を実施するにあたり、疑問に思っていること、不安に思っていること、そのほか意見や要望はありますか。

その他、本研修や、介護実習指導者等に関するご意見等がございましたらご記入ください。

※上記の2つの問に対する自由記載を統合し、キーワード別に分類して以下に掲載している。

### ① 研修実施の課題 (9 件)

#### ● 主な意見

- ・平成 19 年改正前のカリキュラムで学んだ人への指導が難しい
- ・各学校で実習のあり方が様々で指導が難しい
- ・各県での研修内容はバラつきが生じてしまうのではないか
- ・現場で働いている職員への指導（研修）も必要 など

- ◆ 旧カリでの実習指導者講習を受けた人も多いため、その人たち全員への指導は難しいなと思いました。
- ◆ 養成校も協力するというテキストになっているということだが、養成校は理解しているのか。実習指導研修を行うにあたり、介養協の考えている地域と合っているのか？各学校で実習のあり方がまちまちなため、県で指導者への指導は難しい。もう少し養成校で足並み、記録用紙、目的を揃えてほしい。
- ◆ 養成施設、(養成校)によって施設で行う実習時間が異なるため、学べる内容(量、質)に差が出てくる。
- ◆ 県に持ち帰りどのように展開していくか。
- ◆ 各都道府県研修状況をきき、テキスト作成を行ってはどうか。実習Ⅰ指導者は3年以上ではなく、講習会を受けるようにしないと実習の流れがわからず、実習Ⅰ、実習Ⅱが連携しないのではないかと思います。
- ◆ 今回の講師研修を受講した上で、全国で同じ内容の研修を！という思いで企画された本研修、であるとは思いますが、各県での伝達内容はバラつきが大きくなってしまっているのではないかと感じましたが、自分自身でよく消化してから一生懸命伝えたいと思います。今回、大変な役割を担った講師の先生方ありがとうございました。
- ◆ 介護現場で働いている職員への指導(研修)機会も必要であると考え(指導者研修とは別に)。
- ◆ 実習指導者が養成教育に望むことを知りたいです。
- ◆ 日介発の研修なので、講師選定を十分考えてほしい。

## ②実習施設に課題がある（9件）

### ●主な意見

- ・実習施設が研修内容を指導できるのか不安
- ・実習施設での実習生の受入れ体制が整っていない
- ・実習指導者には、指導者としての教育が必要
- ・現場の介護職の質の向上が必要 など

- ◆ 研修の内容はもっともだと思うが、実際の現場が研修内容を実施できるのか疑問です。
- ◆ 本研修は必要だと思いますが、現場の介護福祉士の質の向上に働きかける何かが必要だと思います。実習指導者が、教育を受けていないケースが多いです。
- ◆ 実習現場の受け入れのことも考慮してみると、この内容で良いのか疑問である。
- ◆ 養成校のカリキュラムに合わせ、実習にも教育に含む事項が追加された、より科学的な実習になっていくであろう。一方、実習先の施設・事業所が「ついていけない」「理解できていない」「指導できない」ところが現状である。
- ◆ 現場の介護福祉士と養成校側には実際多少の差があると思います。理想に対して現状の現場サイドとしてどこまでできるのか不安であり悩む。
- ◆ 本研修に限らず、国等が目指す方向に現場の職員がついていけない。国家資格である介護福祉士が、同じ思いやレベルがある程度確保されるよう、また、職能団体としての入会率向上と一緒に頑張りたいと思います。盛り上がるよう頑張りたいです。
- ◆ 実際、施設での実習生の受入れ体制が整っておらず、今後の大きな課題だと考えることができた。
- ◆ 日勤がパートさんだけの施設は多い。指導していただけるのならパートさんでもよいのですが、パートさんの方が不安で指導を避けたり、指導できる職員が来るまでの空白の時間があります。
- ◆ お話しの中でもありましたが…施設の全職員の対応、共有。

### ③実習指導者養成に課題がある（8件）

#### ●主な意見

- ・ 介護実習指導者養成の時間数・内容の充実が必要
- ・ 介護過程の指導の強化が必要
- ・ カリキュラムの変更がなくてもフォローアップは必要
- ・ 介護福祉士の資格を持っている人にも必要な研修
- ・ 実習生が減り、実習指導者講習会への趣味・関心が低下 など

- ◆ 実習生が減少しているため、実習指導者講習会への趣味、関心が低下していることを感じています。何か”仕掛け”をつくらないと受講生が増えないのではないかと不安。
- ◆ 実習指導の中の介護過程の部分については、他のプログラムでもよいので周知および、フォローを強化した方がよいのではと思います。
- ◆ 介護過程を学んでない経験での資格者は、実習指導者講習会の事前学習を必須にしてほしい。
- ◆ カリキュラムの変更がなくてもフォローアップは必要だと考えています。今後ご指導よろしくお願いします。
- ◆ 看護は専門性・養成力が高い40日間、240時間。4日では介護実習指導者は教育できているか疑問を感じます。他専門職より時間数が少ない、実習指導者は更新制にすることも必要ではないか。3年ではどうか、5年以上。
- ◆ 現在、病院で介護しているが、看護の実習指導は、時間が長く、より詳細に行っている。内容と共に時間数を増やし、限られた指導者が的確に実習指導できる方が、将来的に良いのではないかと感じる。
- ◆ 本研修は、介護福祉士の資格を持っている方が受けていただくようにしてもよいのかと講義内容を聞いていて思いました。
- ◆ 介護実習指導者研修が、もっと進化していき、介護職員、自施設の指導者となる研修としての位置づけになってほしい。

### ④わからなかったこと、もっと知りたいこと（7件）

#### ●主な意見

- ・ 研修講師を行う際のポイント
- ・ ガイドラインの活用方法・場面
- ・ 新カリキュラムの詳細（詳しい質問をされた時、対応ができるか不安）
- ・ 今後の実習指導者養成研修と本研修内容との関係 など

- ◆ 短時間の研修だったので、説明をしてもらいながら研修講師を行う際のポイントも同時に教えてもらえればありがたかったです。

- ◆ 質問しそびれてしまいましたが、ガイドラインは必要に応じて適宜ピックアップして使用するというかたちでよろしいのか、ご確認させていただきたいと思います。
- ◆ 新カリキュラムについて、指導者には説明を行いたいが、詳しい質問をされた時が少し不安。
- ◆ 実習を受け入れている施設（特に実習Ⅱ）の指導者に受講を必須にするのか、受講を今後しなくても実習受け入れを継続して良いのか、それだけが疑問です。
- ◆ 養成校と施設側、両方で介護福祉士を育てる、という意見はよく理解しています。ただ、初めて行うこの研修においては、まずは施設側への理解…を深めると考えてしまいます。継続的に行う内容と思いましたので、実施しながらすすめていければと思います。
- ◆ 研修の内容は良くわかった。現実の実習生の理解の低さについて、悩む。もっと前提の全体像に時間をさく必要があると思う。
- ◆ 来年の実習指導者は本内容を入れるべきですね。

## ⑤グループワーク（4件）

### ●主な意見

- ・グループワークの進め方が不安
- ・グループワークのまとめ方が不安 など

- ◆ グループワークをどうするか考えています。認知症介護実践者研修をイメージしてつくってみたいです。
- ◆ グループワークの進め方。
- ◆ グループワークのまとめを担当するにあたって、多少不安もありますがやっています。
- ◆ グループワーク心配です。

## ⑥養成校と実習施設の連携（4件）

### ●主な意見

- ・養成校と実習施設の温度差
- ・連携がうまくできていないことが多い など

- ◆ 養成校と施設の温度差等、連携を深めていく方法等について（実習施設連絡会等の全体ではなく個別の施設に対して）。
- ◆ 養成校と実習受け入れ側に温度差があるように思います。何よりもまずここの連携が必要と考えます。

- ◆ 実習指導者と実習担当教員との連携がうまくできていないことが多いように思います。そのあたりを職能団体として、どう改善し、そのきっかけをつくることができるのかということが、自分たちの課題になると思います。
- ◆ 教員とのやりとり。

## ⑦資料やパワーポイント（4件）

### ●主な意見

- ・ 資料としてガイドラインはあったほうがよい
- ・ 実習指導者の具体的工夫、コラムの強化
- ・ 実習指導事例集、エピソード集のような文献、資料がほしい など

- ◆ 介護実習指導のためのガイドラインが受講生に配布できないのはいかがなものかと思えます。ダウンロードでできると言われましたが研修後にする方は少ないかと思えます。
- ◆ 実習指導者の具体的工夫、コラムの強化。
- ◆ 実習指導事例集、エピソード集のような文献、資料がほしい。本日、吉岡先生がお話くださったような実例が多く知りたい。
- ◆ パワーポイントの統一性がない。フォーマットを統一しないと見づらい。

## ⑧新カリキュラム（3件）

### ●主な意見

- ・ 新しいカリキュラムがよくわからない
- ・ 全員が新カリキュラムを理解すべき など

- ◆ 新しい介護福祉士にあったカリキュラムなので、必要と思う。
- ◆ どの部分が新しいカリキュラムですか？今までと何が違いますか？よくわかりません。ここで話されていることは講習会で話しています。
- ◆ 実習指導講習修了者（実際指導に当たっている方）全員が新カリキュラムを理解してほしい。

## ⑨都道府県研修の実施（2件）

### ●主な意見

・研修の実施時期への配慮が必要 など

- ◆ 研修の参加者が少ない。業務優先と人材不足の理由。これから教員の参加を募る予定。
- ◆ 養成施設の先生方は1月、2月、3月は入試等多忙。この時期に参加していただけるか時期は検討してほしい。

## ⑩介護実習指導者テキスト（2件）

### ●主な意見

・新カリキュラムに合わせたテキスト改訂を など

- ◆ 実習指導、平成19年から始まって、新カリキュラムとして始まりました。その間に何度か改正があり、医療的ケアが入ってきてもテキストも変わらず。今回の新カリキュラムという呼び方に違和感があります。毎年研修を県の中で企画して、行っていてテキストの足りない部分を伝えていました。もう少し早めにテキストを改正していただきます。フォローアップ研修はケアマネのように更新制にしないと、介護福祉士の質はあがりません。実習指導研修も実習Ⅰと実習Ⅱに分けて企画するべきだ。実習Ⅰが終わって実習Ⅱの指導をとるという制度にしないと4日間の時間では、実習Ⅰの方が来たら終わらない。更新制で修了証を発行すべき。会員も増えると思います。
- ◆ 日介の実習指導者養成テキストに「新カリキュラム対応」がいつから入りますか、できれば来年度からお願いしたい。

## ⑪本アンケート（2件）

### ●主な意見

・アンケートの結果を知りたい など

- ◆ 講師の強い思いは理解できますが、「国が求めている」ことを、そのまま事業所に望むことは、いかなるものか？アンケートの回答は、この研修の受講生に必ずいただけますように。
- ◆ 本日参加した者、（各都道府県の講師）のアンケートもあると良いと思いました。→事業の効果検証のため。

## ⑫その他

### ●主な意見

- ・ しっかり取り組みたい
- ・ 質疑応答が参考になった
- ・ 自身ももっと勉強をしたい など

- ◆ 実習指導者の方への説明会を実施しているが、中々理解してもらえない現実がある。要点をしっかりと伝えられるよう、自分自身の考え、理解を図りたい。
- ◆ グループワークのすすめ方まで詳細に教えていただきありがたい反面、ここまで時間を使う必要性はあったのでしょうか。様々な場面で実践され、すすめられてきた方々を感じていたので。先生の熱さに辛さを感じました。
- ◆ 現実、指導者の方は、実習以外にも重要な役割を担っています。この講習が始まり、実習指導者の方も熱心に指導をしてくださることが多いのですが、担う役割が多くバーンアウトしてしまう方も最近多いです。いい人ほど惜しいと思います。
- ◆ この研修を通し、介護福祉士としてこうしてほしい、こうなってほしいという目標が示されていると感じた。現場の実践者として専門性を高めてほしいと伝えられているのだと思う。
- ◆ 質疑応答がとても参考になりました。
- ◆ 自分がもっと勉強しなくてはいけないと思った。
- ◆ しっかりと準備して実施したいと思います。
- ◆ やって見ないとわかりません。
- ◆ プログラム内容まで出ているので、特に不安はありません。
- ◆ 全体を通して、新カリ内容と、専門職の育成業務責務を伝えることができるよう（自らの責務が果たせるように）。
- ◆ ありがとうございます。養成校と施設と協力の上、本研修を進めたいと思います。
- ◆ 昨年度、プレ研修を受けていますので今回のお話もよくわかりました。
- ◆ 受講し、改めて、確認できてよかったです。
- ◆ 高岡先生、鈴木先生、貴重な資料、ご講義ありがとうございました。
- ◆ 事務局講師の皆様ありがとうございました。
- ◆ 本日はありがとうございました。
- ◆ ありません。



## **(7) 研修アンケート結果のポイント**

### **①介護実習に「教育に含むべき事項が追加された」ことの認知度**

講師養成研修受講者において、介護実習に教育に含むべき事項が追加されたことを「知っていた」と回答したのは58名(65.9%)である。そのうち、教諭・教員は31名(91.1%)、介護実習指導者は20名(57.1%)であり、介護実習指導者に介護福祉士養成課程の変更内容を知らない割合が高かった。

介護実習を実りあるものにするには、介護実習指導者に対して介護福祉士養成課程の教育内容の変更、特に介護実習に「教育に含むべき事項」が追加されたことを周知していく必要がある。

### **②介護福祉士養成課程見直しの全体像の理解**

介護福祉士養成課程見直しの全体像については、「よく理解できた」45.5%、「理解できた」53.4%であり、理解できなかったという回答は0である。

見直しの背景、見直しのポイント、新カリのポイントがわかり、求められる介護福祉士像が参考になったという意見がある一方で、見直しや教育内容の詳細、求められる介護福祉士像をより詳しく知りたかったという意見もあった。また、都道府県研修において、詳細を質問されて対応できるか不安という意見もあげられた。

### **③介護実習を受け入れる体制づくりの理解**

介護実習を受け入れる体制づくりは、「よく理解できた」40.9%、「理解できた」58.0%であり、理解できなかったという回答は0である。

具体的事例などを通して受入れチームの必要性・重要性、実習先の役割の理解ができたという意見に加え、実際にチームとして対応しているという回答もあり、必要性の認識はほぼ共有できていた。しかし、実際のモデルなどの例示を知りたかったという要望もあった。

### **④介護過程の実践的展開の理解**

介護過程の実践的展開は、「よく理解できた」38.6%、「理解できた」54.5%であり、「あまり理解できなかった」という回答が2.3%である。

ケアプランと個別介護計画の違いの再確認、学校でどのように勉強しているのかなどへの理解が進んだという意見がある一方で、個別介護計画を作成していない施設があり、対応などに苦慮するという意見があげられた。介護過程の実践的展開を指導するにあたっての実習施設側の課題としても、同様の意見が複数示されている。

### ⑤多職種協働の実践の理解

多職種協働の実践は、「よく理解できた」40.9%、「理解できた」55.7%であり、「あまり理解できなかつた」という回答が1.1%である。

事例をもとに実習中にカンファレンスなどを通じて理解を深めることが改めて認識されたが、実習生にどのように対応していくかを具体的に知りたいという声があげられた。

### ⑥地域における生活支援の実践の理解

地域における生活支援の実践は、「よく理解できた」33.0%、「理解できた」60.2%、「あまり理解できなかつた」「理解できなかつた」が4.4%であり、他に比べて理解度が低い結果となった。

具体的な事例を知りたい、地域とはどの範囲か、現実的に実習施設で指導ができるのか（対応できるのか）などの課題が指摘された。

### ⑦「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の必要性

新カリキュラムに対応するための介護実習指導研修が必要であることについては、講師養成研修受講者の64.8%が「とてもそう思う」、34.1%が「そう思う」と回答しており、「思わない」は1.1%である。

講師養成研修受講生の多くが、研修の必要性を認識している結果となった。

### ⑧「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」を実施する上での課題

講師養成研修の受講者から共通してあげられたのは、介護過程の実践的展開、多職種連携の実践、地域における生活支援の実践を指導するにあたり、具体的な取り組みや好事例などから自施設や学校で展開できるヒントを得たいという意見である。「介護実習指導のためのガイドライン」（平成31年3月、公益社団法人日本

介護福祉士会)の事例の活用とともに、新たな取り組み事例の発掘や共有が望まれる。

また、講師養成研修の時間が短くこれで十分なのか、都道府県のばらつきが生じないかなどの懸念も出された。都道府県で継続して展開するためには、研修の質の担保に向けた仕組み・取り組みが課題である。



## ■ 第4章

都道府県における  
「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」  
の実施

---



## 1. 都道府県における介護実習指導研修の実施（報告）

新カリキュラムに対応した介護実習指導を展開・推進していくため、第3章において報告した講師養成研修を修了した講師により、介護実習指導者をはじめとする関係者に対する「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」を実施した。

沖縄を除く46都道府県において実施が決定し、令和元（2019）年11月より順次開催されていたが、新型コロナウイルス感染症に関する政府等の対応方針を踏まえて、令和2（2020）年2月28日以降に予定していた6県については開催を中止とせざるを得なかった。

結果として、開催は40都道府県、受講者合計は1,341名となった。令和元年11月～令和2年2月という限定された期間に40都道府県、1,341名の受講者を出せたことは、都道府県介護福祉士会の積極的な取り組みの成果である。

### 都道府県における研修の実施（開催順）

都道府県	実施日	会場	受講者 数合計	受講者内訳		
				介護実習 指導者	教員・ 教諭	その他
山形県	令和元年11月22日（金）	山形県 産業創造支援センター	23	23	0	0
京都府	令和元年11月25日（月）	京都社会福祉会館 2階 第1会議室	23	18	4	1
香川県	令和元年12月7日（土）	香川県青年センター 大会議室	26	18	8	0
北海道	令和元年12月8日（日）	北海道立道民活動センター 「かでの2.7」5階510会議室	36	27	9	0
大分県	令和元年12月17日（火）	大分県社会福祉介護研修 センター 小ホール	23	23	0	0
鳥取県	令和元年12月18日（水）	県立福祉人材研修センター 中研修室	13	13	0	0
和歌山県	令和元年12月21日（土）	和歌山ビッグ愛 201	23	23	0	0
島根県	令和元年12月22日（日）	トリニティカレッジ 出雲医療福祉	31	31	0	0
福島県	令和元年12月27日（金）	郡山市中央公民館 第5・6講義室	43	42	1	0
宮崎県	令和2年1月13日（月）	宮崎県福祉総合センター 人材研修館 4階大研修室	71	67	4	0
岐阜県	令和2年1月16日（木）	ワークプラザ岐阜	25	21	4	0
三重県	令和2年1月17日（金）	三重県社会福祉会館 3階講堂	45	41	4	0

都道府県	実施日	会場	受講者 数合計	受講者内訳		
				介護実習 指導者	教員・ 教諭	その他
山梨県	令和2年1月18日(土)	山梨県福祉プラザ 4階大会議室	27	26	1	0
佐賀県	令和2年1月18日(土)	アバンセ	40	37	1	2
熊本県	令和2年1月18日(土)	熊本市流通情報会館	34	21	13	0
福岡県	令和2年1月22日(水)	クローバープラザ セミナーAB	39	39	0	0
岩手県	令和2年1月23日(木)	ふれあいランド岩手 2階研修室	39	38	1	0
宮城県	令和2年1月23日(木)	戦災復興記念館 4階第2会議室	32	32	0	0
栃木県	令和2年1月26日(日)	とちぎ健康の森 教室A	44	39	3	2
富山県	令和2年1月28日(火)	サンシップとやま 602~604号室	57	49	5	3
徳島県	令和2年1月30日(木)	健祥会プレゼンテーション	28	26	1	1
奈良県	令和2年2月1日(土)	當麻文化会館	11	11	0	0
鹿児島県	令和2年2月8日(土)	鹿児島県社会福祉センター 7階大会議室	31	28	3	0
青森県	令和2年2月9日(日)	県民福祉プラザ 中研修室(4階)	39	33	6	0
長崎県	令和2年2月9日(日)	諫早市社会福祉会館 多目的ホール	43	43	0	0
群馬県	令和2年2月11日(火)	群馬県 社会福祉総合センター	39	36	3	0
神奈川県	令和2年2月11日(火)	ウィリング横浜	21	18	3	0
広島県	令和2年2月11日(火)	広島県社会福祉会館 講堂(2階)	37	33	2	2
兵庫県	令和2年2月12日(水)	兵庫県福祉センター	39	38	1	0
山口県	令和2年2月13日(木)	山口県セミナーパーク-社会 福祉研修棟 社会福祉研修室	58	56	2	0
東京都	令和2年2月16日(日)	貸教室・貸会議室 内海 別館内海ビル 101会議室	40	36	4	0
大阪府	令和2年2月21日(金)	大阪府社会福祉会館 会議室 403	17	17	0	0
長野県	令和2年2月21日(金)	J A長野県ビル 12階A	35	34	1	0
石川県	令和2年2月22日(土)	石川県地場産業振興センタ ー 本館3階第4研修室	19	16	3	0
茨城県	令和2年2月22日(土)	茨城県総合福祉会館	11	8	3	0



都道府県	実施日	会場	受講者 数合計	受講者内訳		
				介護実習 指導者	教員・ 教諭	その他
秋田県	令和2年2月23日(日)	日本赤十字秋田短期大学	39	39	0	0
愛知県	令和2年2月24日(月)	桜華会館	17	10	7	0
福井県	令和2年2月25日(火)	サンドーム福井 103・104 研修室	50	43	6	1
滋賀県	令和2年2月26日(水)	滋賀県立長寿社会福祉 センター 2階第1研修室	55	55	0	0
高知県	令和2年2月27日(木)	高知県立ふくし交流プラザ 5階研修室A	18	17	1	0
岡山県	令和2年2月28日(金)	きらめきプラザ	1,341	1,225	104	12
新潟県	令和2年2月29日(土)	新潟ユニゾンプラザ 中研修室				
静岡県	令和2年2月29日(土)	静岡県総合社会福祉会館 シズウエル703				
千葉県	令和2年3月7日(土)	千葉県社会福祉センター				
埼玉県	令和2年3月7日(土)	秋草学園福祉教育				
愛媛県	令和2年3月20日(金)	聖カタリナ大学一号館 3階				
実施：40 都道府県						

## 2. 研修受講者へのアンケート

研修の理解度、研修や介護実習に対する意見を把握し、研修のブラッシュアップ等を図ることを目的に、研修受講者へのアンケートを実施した。

### (1) 調査概要

対象者	都道府県における介護実習指導研修
回収数	767名（研修修了者は1,341名、回答率57.2%）
調査方法	それぞれの都道府県における介護実習指導研修の実施日から1週間以内に、ウェブフォームに各自がアクセスし、回答するように依頼をした。
留意事項	明らかに重複回答であると認められた回答は、1つを残し削除して集計している。

## (2) 調査票

### 新カリキュラム対応 介護実習指導研修 受講調査

公益社団法人日本介護福祉士会

●●●●都道府県介護福祉士会

問1 最初にあなたご自身についてお教えてください。

性別と年齢	1. 男性      2. 女性	満 (      ) 歳
介護福祉士資格取得年	西暦 (      ) 年 ※どちらかに○をつけてください。	
資格取得方法 (1つに○)	1. 養成施設（専門学校）卒業 2. 養成施設（短大・大学）卒業 3. 実務3年の後、実技試験を受験し介護福祉士試験合格 4. 実務3年の後、介護技術講習を受講し介護福祉士試験合格（H17年度～） 5. NHK学園等の通信教育を修了後、介護福祉士試験合格 6. その他 (      ) → 福祉系高等学校を卒業していますか ( はい ・ いいえ )	
所属先	1. 介護福祉士実習指導者講習会の修了者であって、現に介護実習指導者として実習指導にあたっている者	2. 介護実習に携わる介護福祉士、養成施設等の教員、教諭
		3. その他 (      )

所属先で従事している施設・サービスの種類	所属先種別
1. 入所・入居施設 2. 居宅サービス 3. 地域密着型サービス 4. その他	1. 高等学校 2. 専門学校 3. 短期大学 4. 4年生大学 5. その他 (      )
介護実習指導者としての経験年数 (      ) 年	介護福祉士養成施設等の教員、教諭としての経験年数 (      ) 年

問2 本日の研修について、ご回答ください。

(1) 介護福祉士養成課程における教育内容の見直しに伴い、介護実習にも新たに【教育に含むべき事項】が追加されたことをご存知でしたか。

知っていた ・ 部分的に知っていた ・ 聞いたことがある程度 ・ 知らなかった

**(2) 介護福祉士養成課程見直しの全体像について、理解できましたか。**

【内容について】 よく理解できた ・ 理解できた ・ あまり理解できなかった ・ 理解できなかった

※参考になったこと、良かった内容がありますか

[ ]

※わかりにくかったこと、より詳しく知りたい内容がありますか

[ ]

**(3) 介護実習を受け入れる体制づくりについて、理解できましたか。**

【内容について】 よく理解できた ・ 理解できた ・ あまり理解できなかった ・ 理解できなかった

※参考になったこと、良かった内容がありますか

[ ]

※わかりにくかったこと、より詳しく知りたい内容がありますか

[ ]

**(4) 新カリキュラム対応：介護過程の実践的展開について、理解できましたか。**

【内容について】 よく理解できた ・ 理解できた ・ あまり理解できなかった ・ 理解できなかった

※参考になったこと、良かった内容がありますか

[ ]

※わかりにくかったこと、より詳しく知りたい内容がありますか

[ ]

**(5) 新カリキュラム対応：多職種協働の実践について、理解できましたか。**

【内容について】 よく理解できた ・ 理解できた ・ あまり理解できなかった ・ 理解できなかった

※参考になったこと、良かった内容がありますか

( )

※わかりにくかったこと、より詳しく知りたい内容がありますか

( )

**(6) 新カリキュラム対応：地域における生活支援の実践について、理解できましたか。**

【内容について】 よく理解できた ・ 理解できた ・ あまり理解できなかった ・ 理解できなかった

※参考になったこと、良かった内容がありますか

( )

※わかりにくかったこと、より詳しく知りたい内容がありますか

( )

**(7) 新カリキュラムで提示された新しい介護実習指導の内容について、貴事業所・養成校において介護実習指導をするにあたり、最も取り組み（指導）が難しいと感じる内容はどれですか。**

ア：介護過程の実践的展開

イ：多職種協働の実践

ウ：地域における生活支援の実践

※1：養成校の場合は、受入れ実習施設との連携などを含んでいます

**(8) 介護実習で取り組むべき新カリキュラム対応の内容を、貴事業所・養成校の介護実習において指導するためには、どのような課題がありますか。**

ア：介護過程の実践的展開を指導する上での課題

( )

イ：多職種協働の実践を指導する上での課題

( )

ウ：地域における生活支援の実践を指導する上での課題

( )

**(9) 本日の研修を受講して、介護実習指導者は「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」を受講すべきと思われましたか。**

とても思う ・ 思う ・ あまり思わない ・ 思わない

**(10) 本研修のプログラム全体について、満足していますか。**

とても満足 ・ 満足 ・ あまり満足していない ・ 満足していない

**(11) 本研修は実習指導者として役立つ内容であったと思いますか。**

とても思う ・ 思う ・ あまり思わない ・ 思わない

**(12) その他、本研修や、介護実習指導者等に関するご意見等がございましたらご記入ください。**

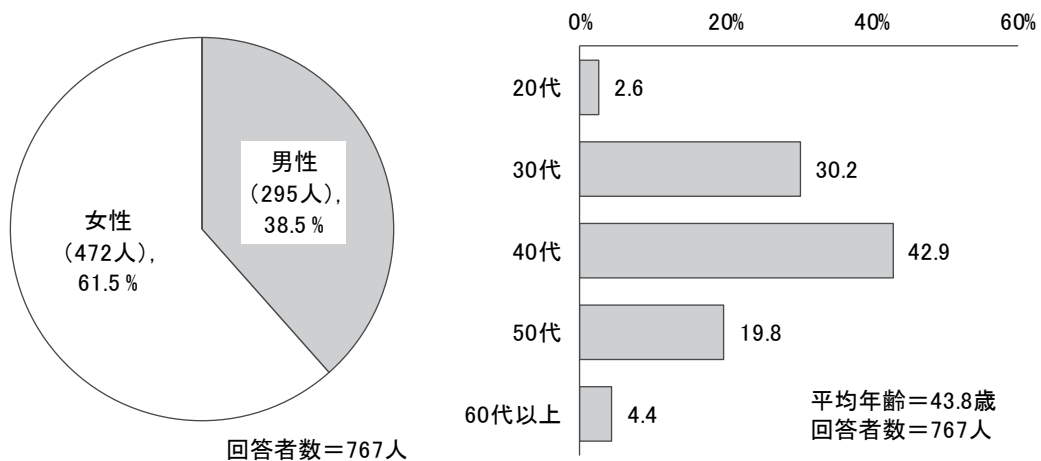
( )

ご協力ありがとうございました。

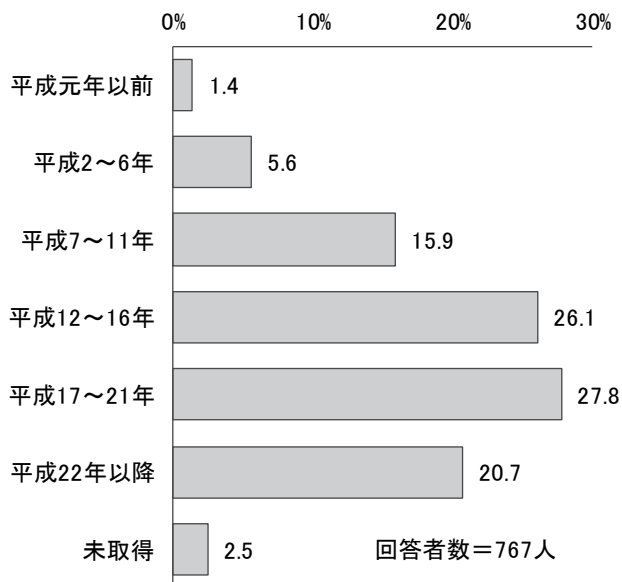
### (3) 集計結果

※以下、( ) は回答者実数

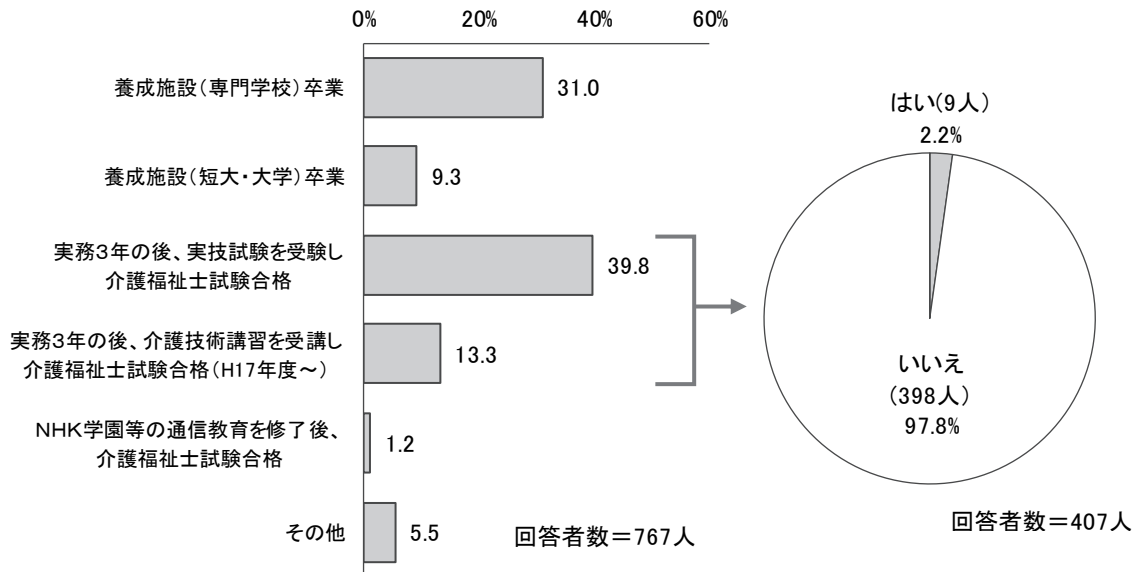
#### ①受講者の性別と年齢



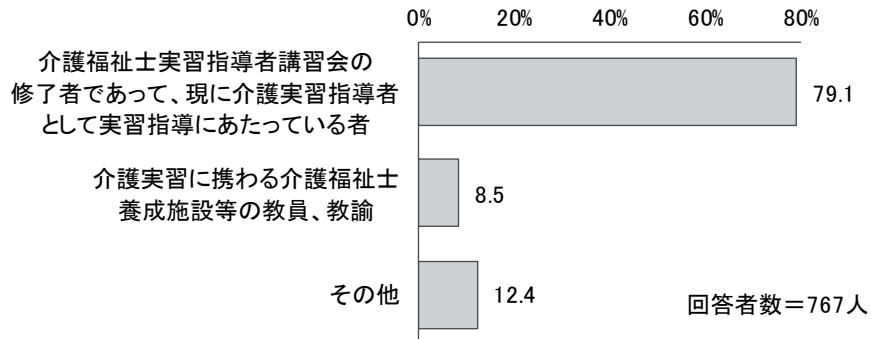
#### ②介護福祉士資格取得年



### ③資格取得方法



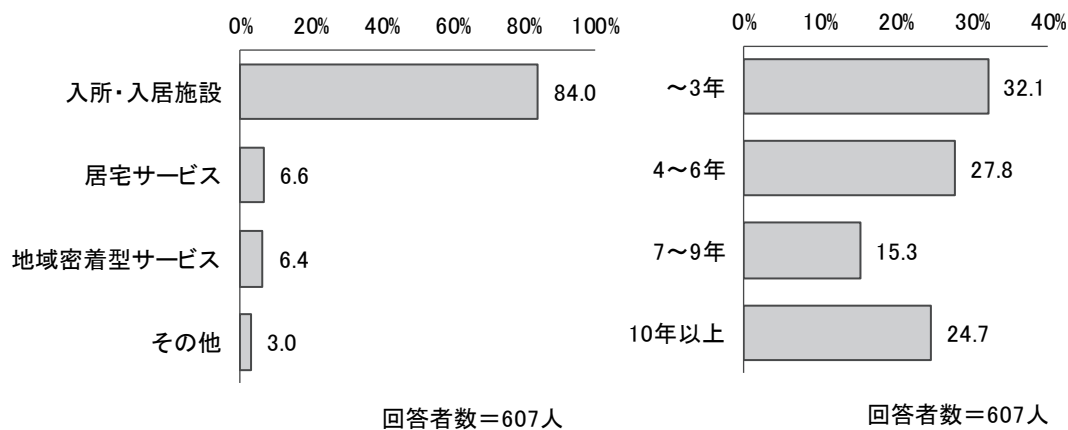
### ④介護実習に関する受講者の立場





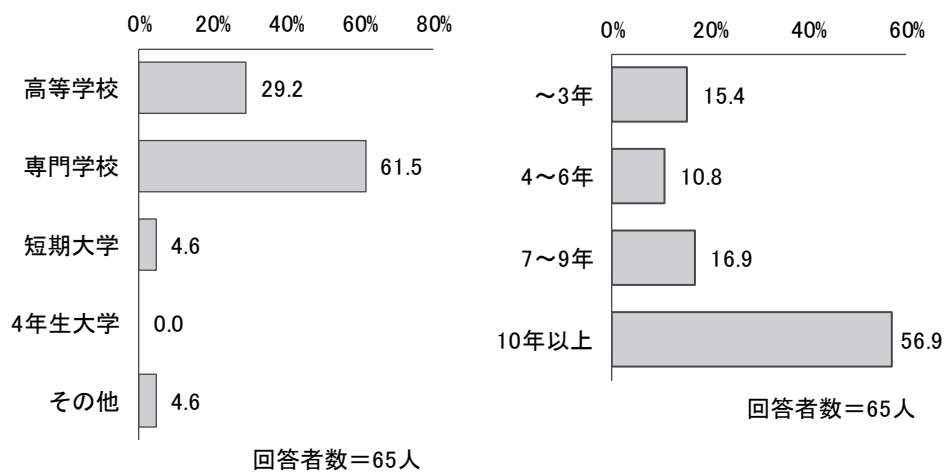
#### ④-1 介護実習施設の介護実習指導者である場合

【介護実習施設の種類の経験年数】



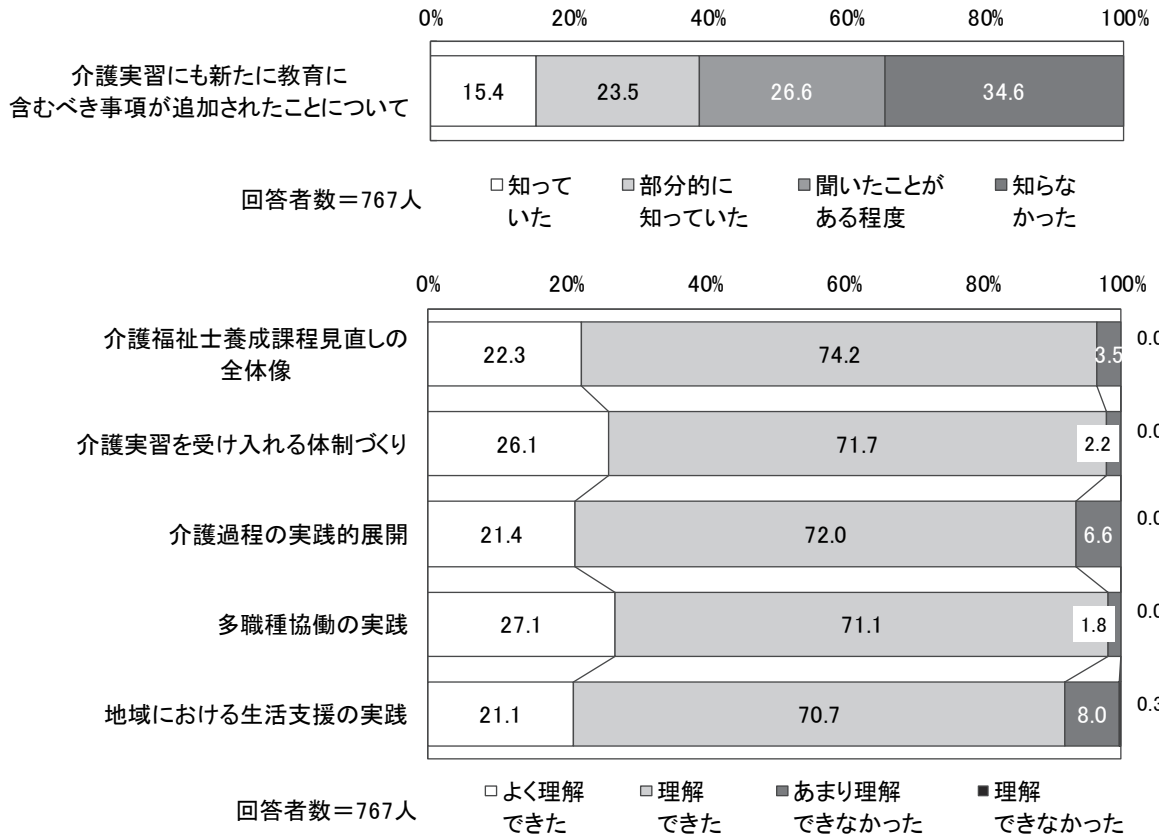
#### ④-2 介護福祉士養成施設等の教員、教諭である場合

【所属先種別と経験年数】



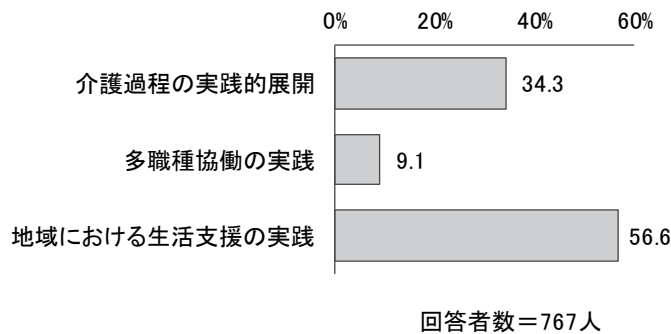
### ⑤「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」プログラムに関する理解度

それぞれの内容について、理解できましたか。



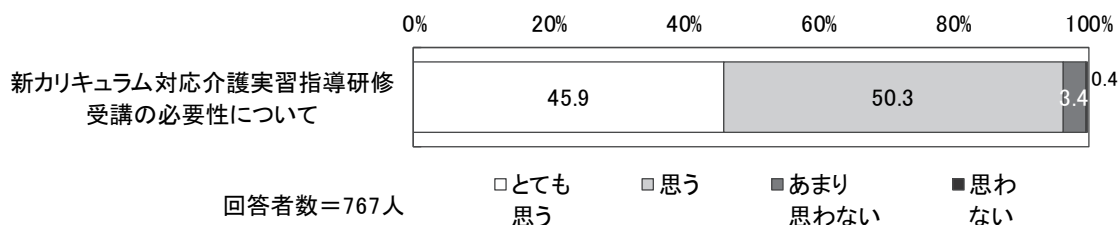
### ⑥新カリキュラムで取り組み（指導）が難しいと感じる内容

新カリキュラムで提示された新しい介護実習指導の内容について、貴事業所・養成校において介護実習指導をするにあたり、最も取り組み（指導）が難しいと感じる内容はどれですか。



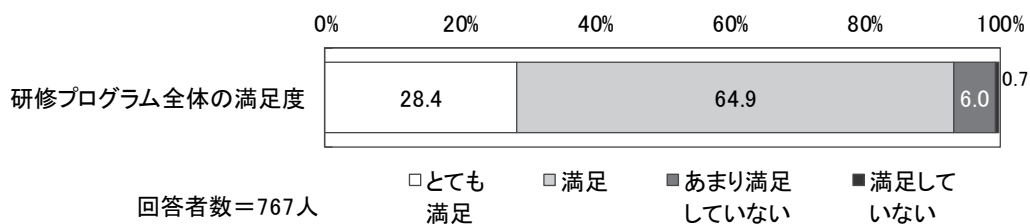
### ⑦「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の受講

本日の研修を受講して、介護実習指導者は「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」を受講すべきと思いましたか。



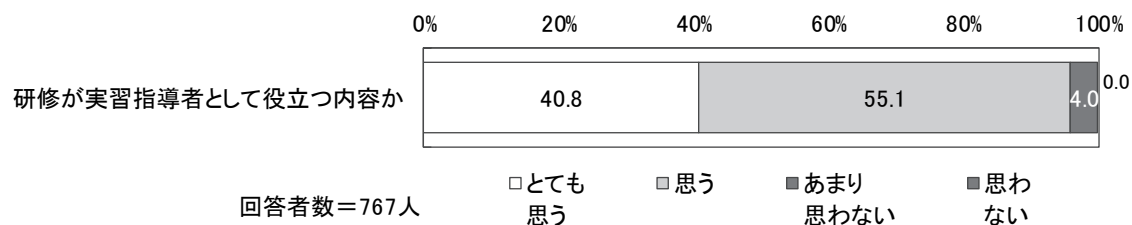
### ⑧研修プログラム全体の満足度

本研修のプログラム全体について、満足していますか。



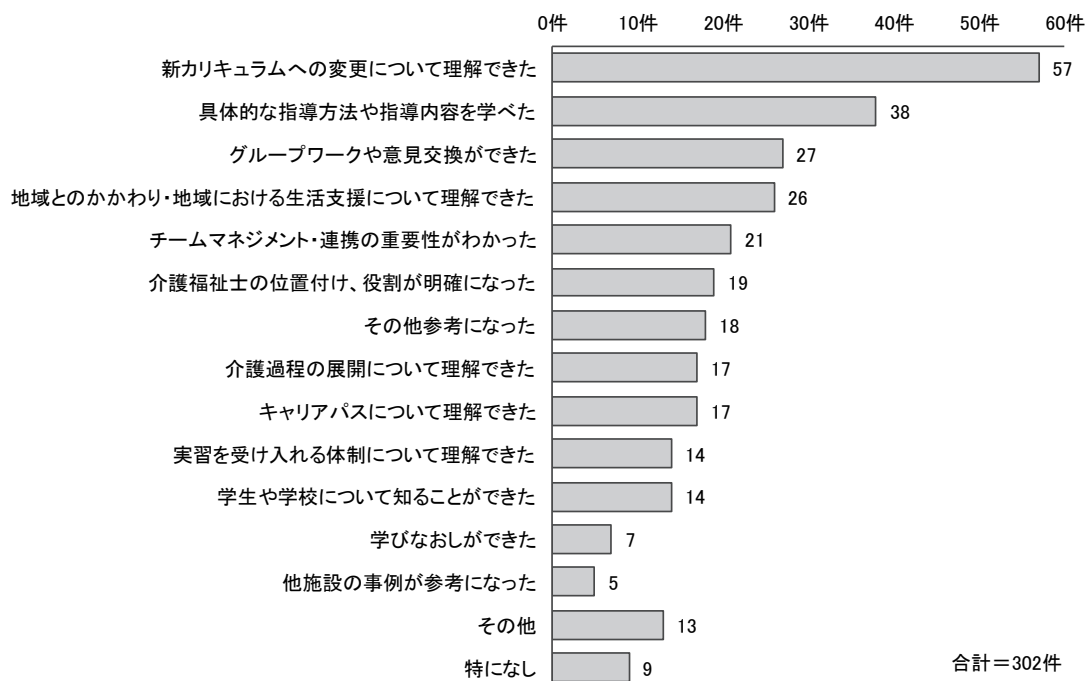
### ⑨研修は役立つ内容か

本研修は実習指導者として役立つ内容であったと思いますか。

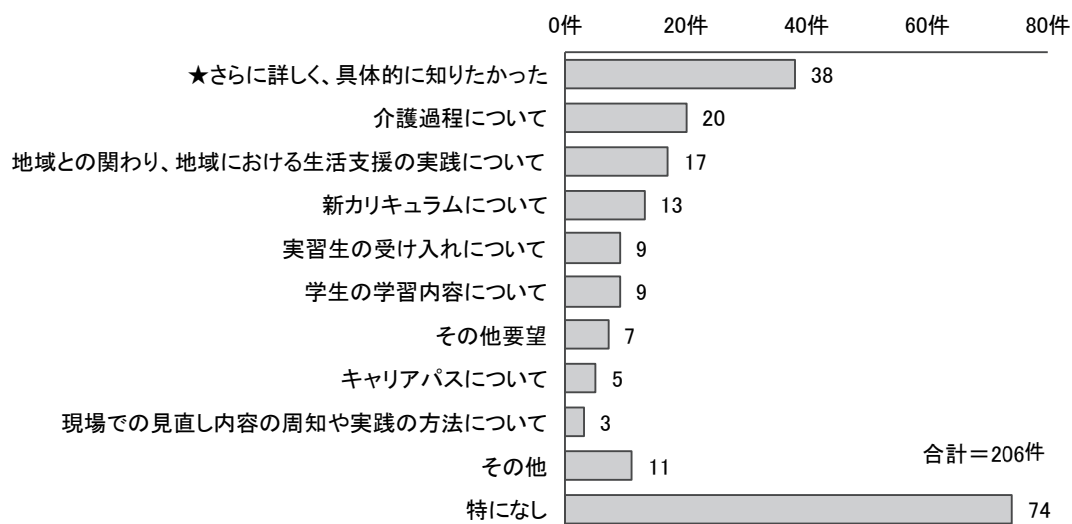


## (4) 研修へのご意見・ご要望等

### ① 養成課程見直しの全体像について 参考になったこと・良かったこと



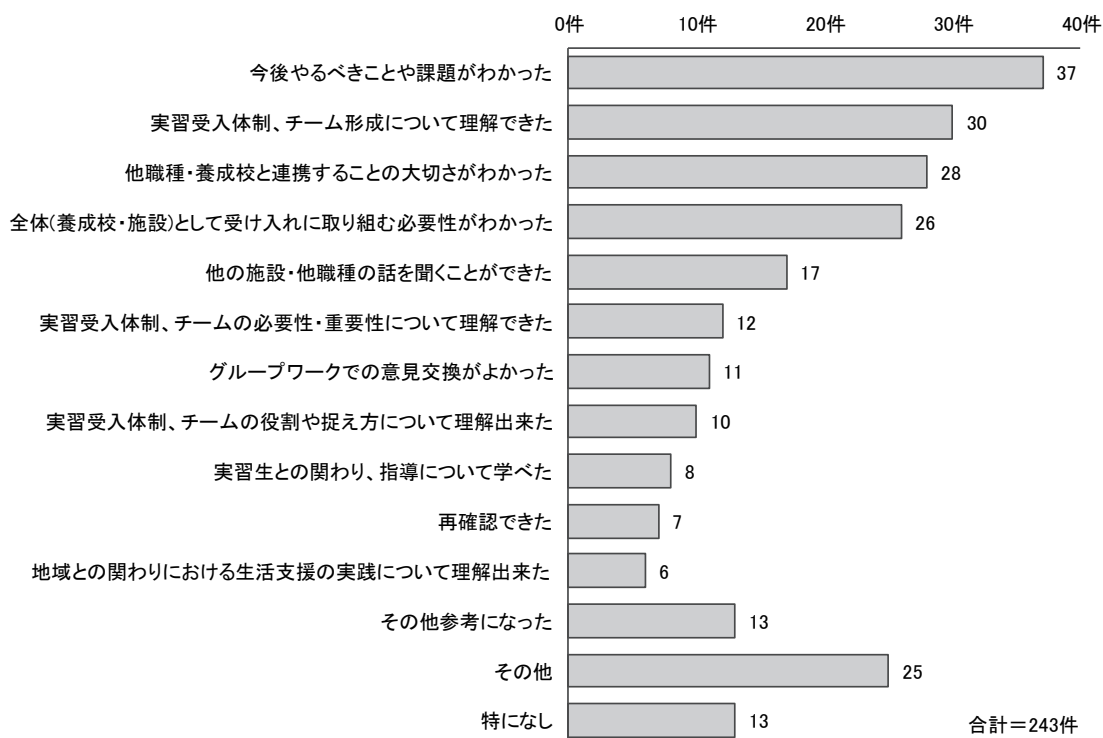
### ② 養成課程見直しの全体像について わかりにくかったこと・より詳しく知りたい内容



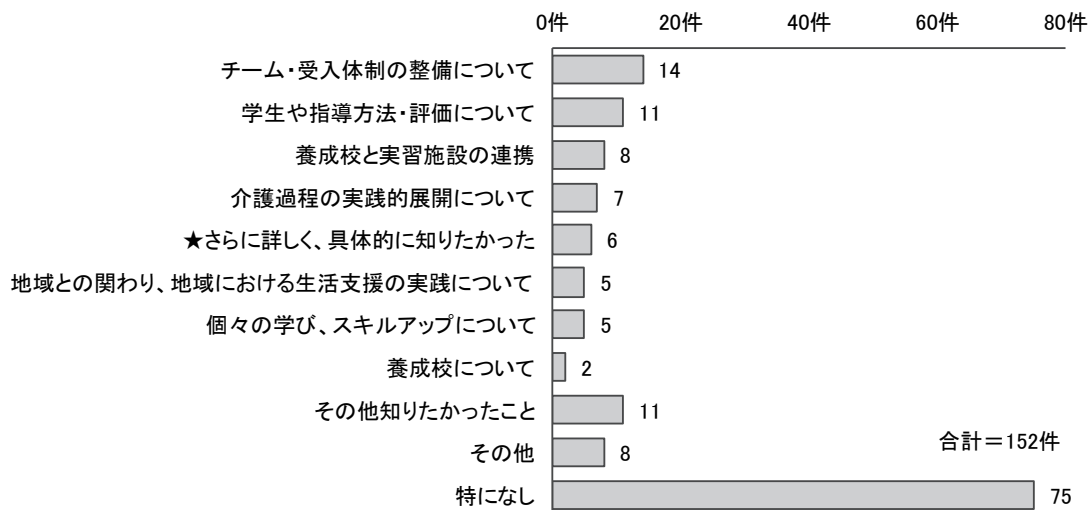
**【養成課程見直しの全体像について、★さらに詳しく、具体的に知りたかった内容】**

- ◆ 「リーダーシップやフォローシップ」について学ぶ時間が増えたが、具体的にはどのような内容なのか。チーム運営の基本とはどのようなことを学ぶのでしょうか。
- ◆ マニュアルづくりなど具体的な指導方法を確立すること。
- ◆ 医療的ケアに関しての内容には全く触れられなかったので、知りたかった。
- ◆ 介護総合演習の内容（具体的な内容を知りたかった）。
- ◆ 介護福祉士養成の基本的体系の4領域をもっと詳しく知りたかった。
- ◆ 海外からの実習生への対応について、より詳しく知りたいと思いました。
- ◆ 具体的な取り組み方や、何を組み込むべきかを知りたい。
- ◆ 実習生への評価を如何に公平に、評価のポイントをどこに置くのかをもっと知りたいと思ったのでこの点を聞きたくなった。
- ◆ 他職種との協働について。
- ◆ 認知症ケアの理解と実践について。
- ◆ 養成課程での教育内容見直し点を、介護実習において効果的に指導する方法。
- ◆ 養生校の先生の話が聞けるとよい。

### ③介護実習受入れ体制づくりについて 参考になったこと・良かったこと



### ④介護実習受入れ体制づくりについて わかりにくかったこと・より詳しく知りたい内容

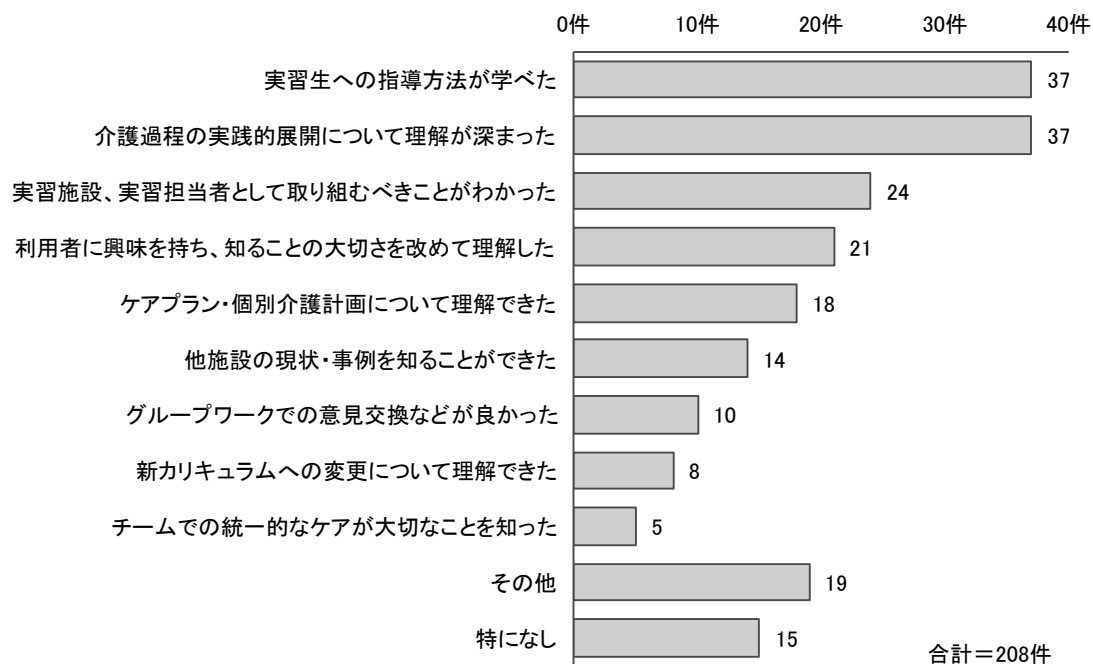


【介護実習受入れ体制づくりについて、★さらに詳しく、具体的に知りたかった内容】

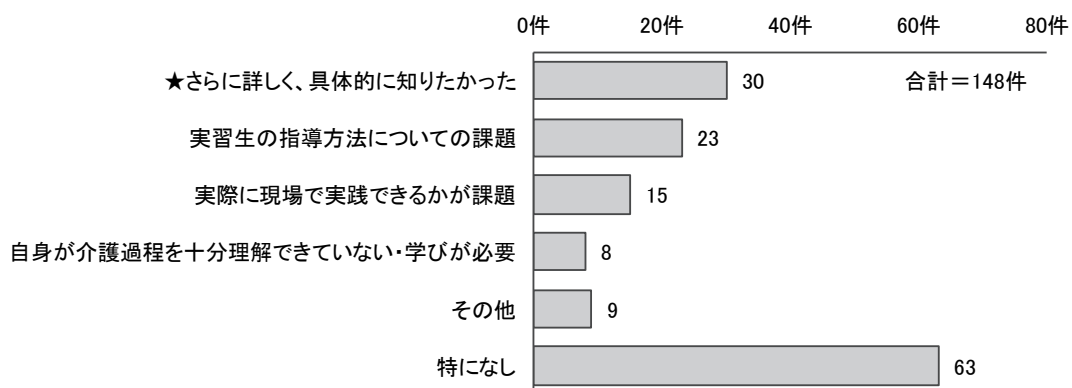
- ◆ 参考になる具体的な事例。
- ◆ マニュアル作成の内容などをもう少し詳しく知りたい。

- ◆ 具体的な対応の仕方がわからなかった。理由は、研修参加者が、実習指導をすでにしている人と、これから実習指導をする予定の人が混在しており、スタートラインが違っていたため、実践につなげられる内容が少なかった。
- ◆ 具体的な例をあげてもらいたい。
- ◆ 今までのカリキュラムとの明確な違いと対応策。
- ◆ 新カリキュラムとなって、新たに加わった内容、解釈等も昔とは違ってきているのであれば細かく知りたい。

### ⑤介護過程の実践的展開について 参考になったこと・良かったこと



### ⑥介護過程の実践的展開について わかりにくかったこと・より詳しく知りたい内容

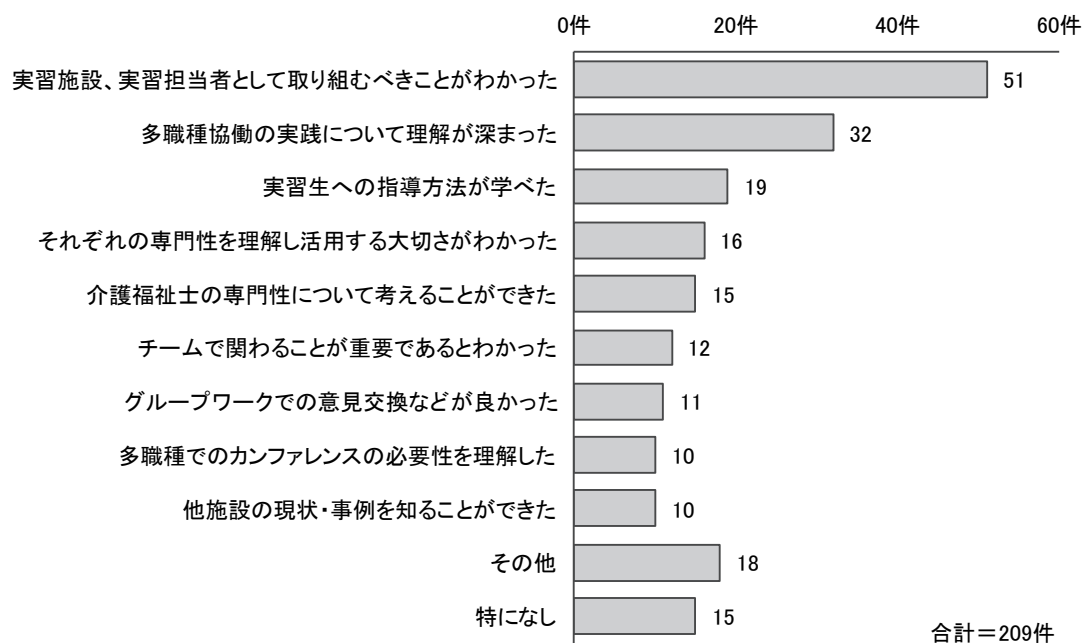


#### 【介護過程の実践的展開について、★さらに詳しく、具体的に知りたかった内容】

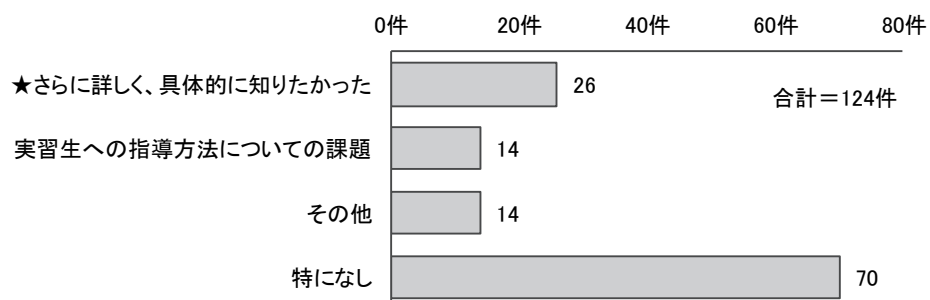
- ◆ 介護過程の目的についてもっと詳しく知りたいです。
- ◆ 介護専門職のチーム連携の事例が具体的に知りたかった。
- ◆ 学生自身の理解度がどのくらいなのかも知りたい。
- ◆ 具体的にどんな実習計画を立てればよいか具体的に教えてほしい。
- ◆ 個人情報について、指導が足りないのではないかな。
- ◆ 参考になったが、全体像としてまだしっくりこない。
- ◆ これまでも取り組んできている。現場の課題を明確にし、改善点を教えてほしい。



### ⑦多職種協働の実践について 参考になったこと・良かったこと



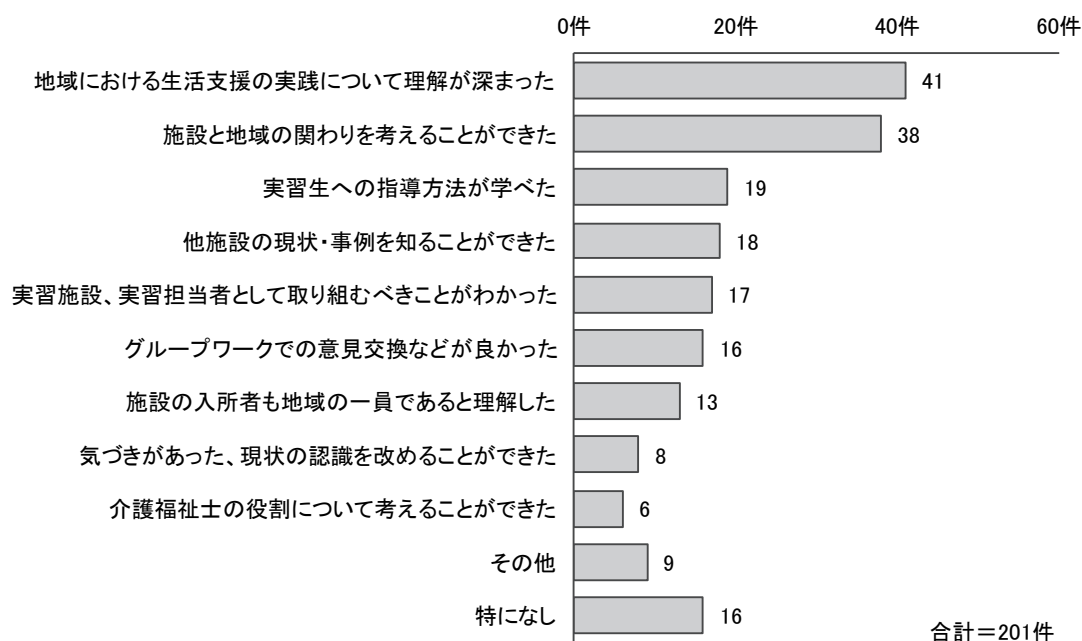
### ⑧多職種協働の実践について わかりにくかったこと・より詳しく知りたい内容



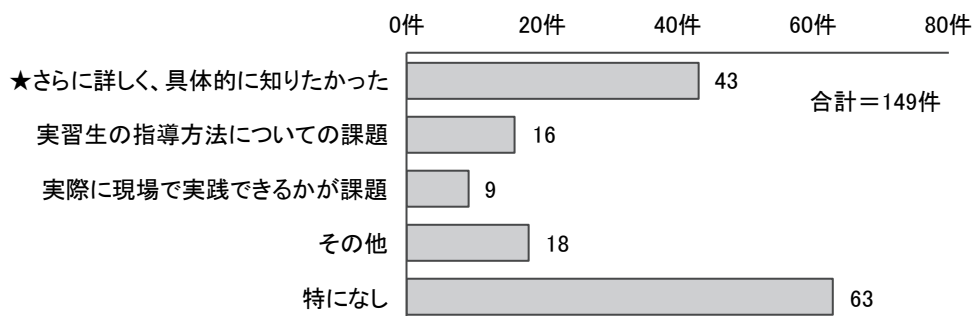
#### 【多職種協働の実践について、★さらに詳しく、具体的に知りたかった内容】

- ◆ どのように他職種と協働していくのか、もっと詳しく知りたいです。
- ◆ 他職種への働きかけが難しく、他の施設の事例を踏まえ講義をしてほしい。
- ◆ 具体的な連携マニュアル。
- ◆ 多職種協働と多職種連携の違いを詳しく知りたかった。
- ◆ 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働で、介護過程について、もっと深く知りたいと思いました。
- ◆ 多職種のなかでの実際的なかわり。
- ◆ カンファレンスでの介護福祉士の専門性や役割を詳しく知りたい。
- ◆ 介護福祉士の領域とは、どういうことまでなのか。

### ⑨地域における生活支援の実践について 参考になったこと・良かったこと



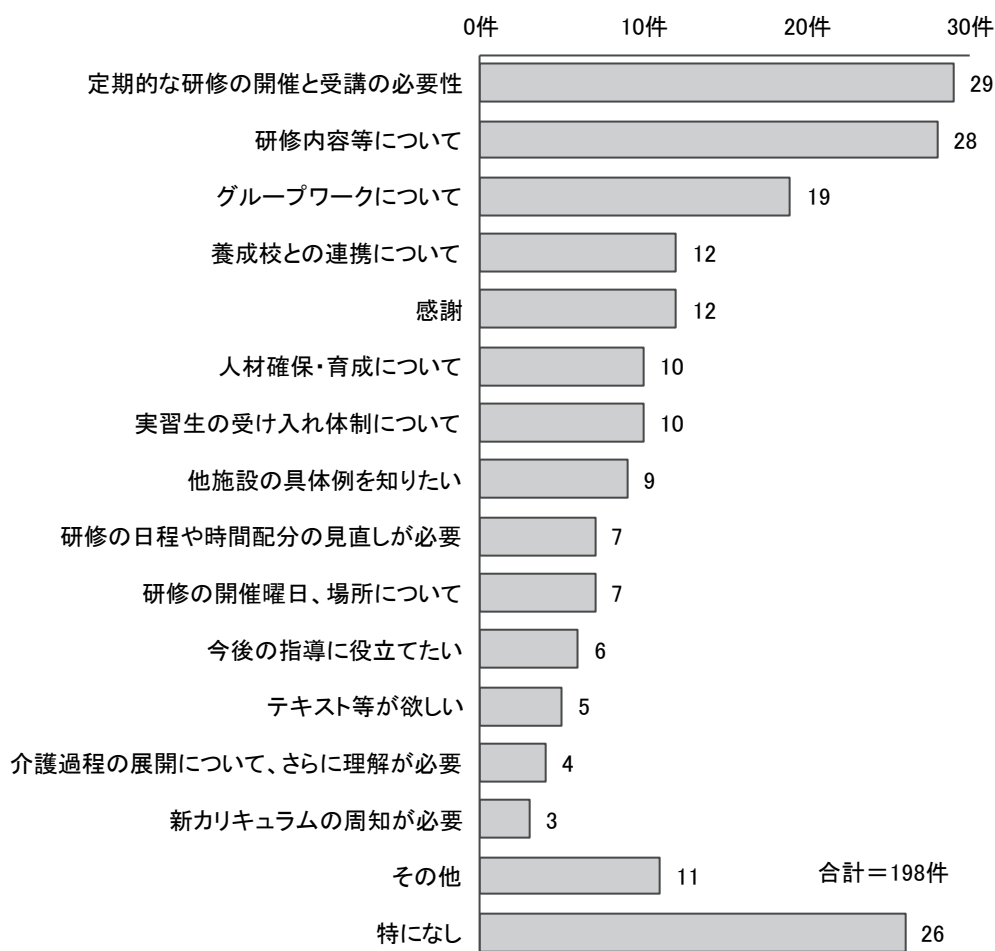
### ⑩地域における生活支援の実践について わかりにくかったこと・より詳しく知りたい内容



#### 【地域における生活支援の実践について、★さらに詳しく、具体的に知りたかった内容】

- ◆ 「地域における生活支援」あるいは「地域」の定義。
- ◆ 介護福祉士が地域の課題にどのように取り組んでいるか、内容を詳しく知りたい。
- ◆ 今回の研修内容で、一番悩んでいる内容であった。他県の取り組み事例など、実際の状況を知りたかった。
- ◆ 施設の種類による地域連携のあり方。重度利用者と地域社会の関わり。
- ◆ 地域と実習施設がどのように支えあっているのか、詳しく知りたいと思いました。
- ◆ 地域のイベント参加以外の実践の具体的ななもの。
- ◆ 特養の入所者はあまり地域に関わるのが少ないから、どのように取り組むべきかわからない。

## ⑪本研修や、介護実習指導者等に関するご意見等



### ●定期的な研修の開催と受講の必要性（29件）

- ◆ このような研修を定期的で開催し、情報交換ができるとよい。
- ◆ 今回の、充実した研修内容は、指導者にぜひ受講していただきたいと感じた。介護実習Ⅱを受け入れ、指導する施設は、指導者の受講を義務づけてはどうか。
- ◆ 定期的に講義があると指導者のレベルアップになって良い。

### ●研修内容等について（28件）

- ◆ 外国人に対する指導方法も教えてほしい。指導者はストレス気味。
- ◆ 現場と職場の管理者とのギャップ、現場と日介のギャップ、現場と国のギャップ。これらのさまざまなギャップを埋める研修を考案してほしい。
- ◆ 今回の研修は、実習生だけでなく、新卒や途中で入職してくる人の指導にも活かせると思いました。

- ◆ 新カリ研修ではあったが、介護実習指導者講習取得後の“振り返り”の機会にもなり、自身再考させられる研修であった。

#### ●グループワークについて（19件）

- ◆ グループワークで他施設で行われている実習の受け入れについて話を聞くことができ参考になった。
- ◆ グループワークの中で、他者の意見を聞き、情報交換できた事は良かった。
- ◆ 実習指導者同士で話をする機会はあまりないため、交流を持てる点も良かった。

#### ●養成校との連携について（12件）

- ◆ 職場に養成校の卒業者がいないので、養成校での教え方や流れを知りたい。
- ◆ 養成校の先生方と連携をより密にしていきたい。

#### ●感謝（12件）

- ◆ ポイントを丁寧に教えていただき、有意義な研修となり良かったです。
- ◆ 講師の方がわかりやすく、丁寧に研修を進めてくれていた。

#### ●人材確保・育成について（10件）

- ◆ 介護士不足が深刻化しており、一人でも多く人材確保ができるよう、上手く指導できればと思います。
- ◆ 貴重な人材を育成するためにも、養成校と実習施設が共通の見解をもって、実習生をフォローできる体制づくりが重要だと思う。
- ◆ 養成校と実習施設は、連携を図り学生を育てていかないと介護が成り立たなくなる。まずは人材を集めるところからの苦労がある。人とかかわる仕事の楽しさを発信できたらと施設として前向きに学生を受け入れていきたい。

#### ●実習生の受入れ体制について（10件）

- ◆ 研修1-1等受け入れる施設の方は必ず必要と思いました。職種によっても、受け入れる内容ができることとできないことが、あるようです。
- ◆ 実習を受け入れる施設が、介護過程に基づいた内容での実習ができるのだろうか。
- ◆ 積極的に指導者を増やしていく必要性を感じた。施設職員全員が指導者資格を持つことが理想。

●他施設的具体例を知りたい（9件）

- ◆ 他の施設の実習生の受け入れの流れ等、話が聞きたいと思った。
- ◆ 留学生や発達障害を抱えた実習生が増えています。どのように対応されているのかなど、情報を共有できれば。

●研修の日程や時間配分の見直しが必要（7件）

- ◆ カリキュラムの見直し内容の説明を2日間に分けるなど、もう少し時間をかけて丁寧に行って良いのではないか。
- ◆ 研修内容と時間の割当のバランスが良くないと感じました。時間が余ってしまった印象があったため、特にグループワークの時間設定について検討が必要かと感じました。

●研修の開催曜日、場所について（7件）

- ◆ 開催日を平日にお願いしたい。今回、祝日であったので調整が難しかった。
- ◆ 研修時期、時間設定、研修施設が良くないと感じました。

●今後の指導に役立てたい（6件）

- ◆ とても参考になる講習でした。今後の実習指導に役立てて行きたいと思います。
- ◆ 実習指導に関する研修でしたが、職員指導にもつながることも多々あったので参考になりました。

●テキスト等がほしい（5件）

- ◆ テキストがあればわかりやすかったと思うが、パワーポイントだけの講義はわかりにくい。

●介護過程の展開について、さらに理解が必要（4件）

- ◆ 介護過程の展開について、さらに理解を深める必要があると感じた。
- ◆ 介護過程の展開を知らない現場職員が多いため、そのような指導者に実習指導ができるのか疑問に思う。

●新カリキュラムの周知が必要（3件）

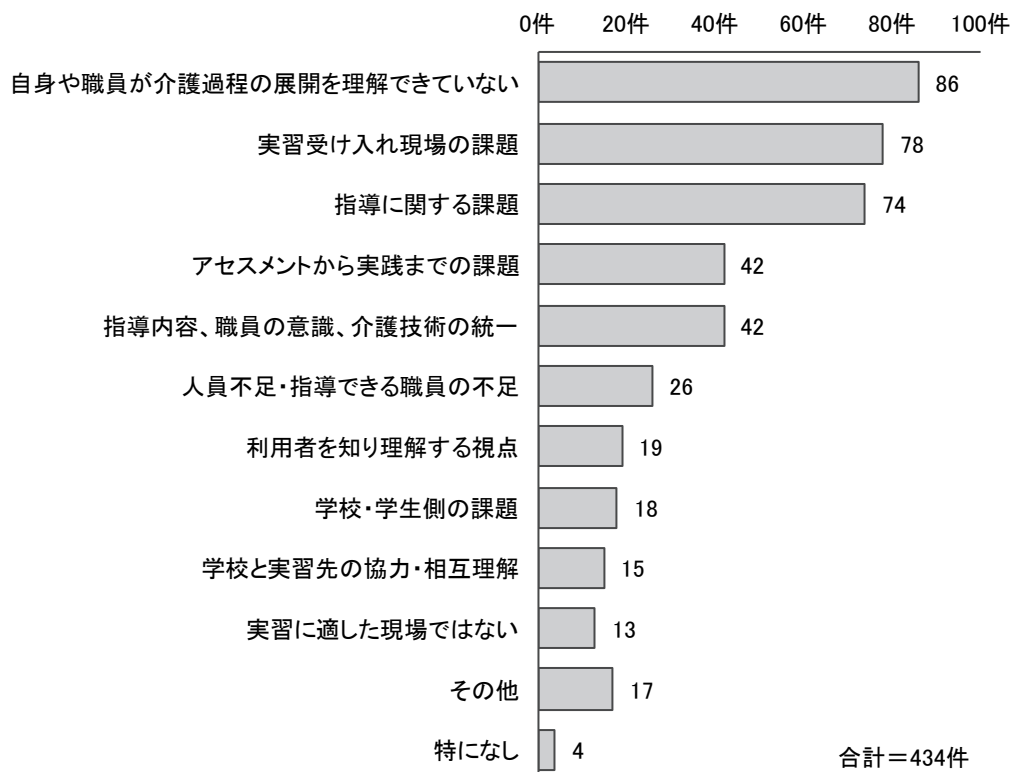
- ◆ 新カリキュラムの周知。

●その他（11件）

- ◆ 事前にどんなことが知りたいか、聞きたいかというアンケートをとるとよいかと思います。
- ◆ 小さな施設等はなかなか実習生に来てもらえる機会がない。
- ◆ 指導者の質の向上と同時に、各施設の経営者の質やモラル、倫理観の向上。

## (5) 介護実習指導の課題

### ①実習指導の課題：ア:介護過程の実践的展開を指導する上での課題



#### ●自身や職員が介護過程の展開を理解できていない（86件）

- ◆ 介護過程の目的やねらいを理解している職員が少ないため、適切なアドバイスがしにくい。職員によって差がある。
- ◆ 介護過程や展開について、全ての職員が理解できていないということ。
- ◆ 介護過程を経験していない職員が多いため、理解していない職員も多い。また、偏った考えになる傾向にある。
- ◆ 介護過程を知らない職員が多いので勉強会必要。
- ◆ 介護職員が、介護過程について十分理解していない。そもそも、ケアプランと介護計画の区別ができない。
- ◆ 現在、職員への学習機会の確保。
- ◆ 施設従事者の一部にケアプランと介護計画を混同されている方もいるため、学生が混乱することがあります。
- ◆ 実習生を受け持つ指導者とされる職員が、介護過程の展開を理解していないこと。
- ◆ 養成校を卒業した職員も少なく、実習を受けることも少ないので職員もなかなか教えられない。職員が介護過程を勉強する必要がある。

#### ●実習受け入れ現場の課題（78件）

- ◆ 1フロア1ユニットの構造のため、実習受け入れチームが利用者の状態を全て把握できない。
- ◆ 学生の個別介護計画に対する多職種でのカンファレンス開催は可能かどうか。
- ◆ 指導時間の確保が、十分に取れない。
- ◆ 施設全体での、人を大切に育てるというシステムや実習生への理解が乏しい。
- ◆ 実習指導者だけではなく、職員の方にも介護過程を勉強してもらう事が課題と思います。
- ◆ 実習生を受け入れるにあたり、チームづくりをしなければならない。
- ◆ 実習生個々の特性を理解して、適切にご利用者の選択に苦慮している。
- ◆ 受け入れにあたり組織的な基盤ができていない状況で、介護過程を実践することが難しい。
- ◆ 個別介護計画を立案し、介護福祉士だけでのカンファレンス、時間がないし業務が増える。
- ◆ 施設全職員の研修となると、シフト制なので全員が受講するのは時間を要する。

#### ●指導に関する課題（74件）

- ◆ どのように利用者への関心を持ってもらえるかの工夫。
- ◆ 介護の仕事の経験のない養成校の学生に介護過程を理解させること。
- ◆ 介護計画書がない中で、思考過程を説明していくことが難しい。説得力がない。
- ◆ 期間が短い場合、関わりが十分にできない。
- ◆ 最終実習で実施まで行う場合、1か月では短いと思う。
- ◆ 指導者の能力、利用者の重度化による実践の困難さ。
- ◆ 実習生が自ら考えられるように導くこと。
- ◆ 留学生への教授方法。
- ◆ 育成システムやマニュアルが不十分。

#### ●アセスメントから実践までの課題（42件）

- ◆ アセスメントができない、情報の持つ意味を考えることが難しい。
- ◆ アセスメント方法の均一化、定期的な評価の実施、利用者の同意を得るなど各過程の確実な施行ができるか。
- ◆ ケアマネが立案した個別内容と実践過程との違い。
- ◆ 介護実践における根拠の抽出方法。



- ◆ 根拠を言語化することなど、指導する側も苦手意識があること。
- ◆ 実習生の学びたいことと、利用者の選択が合わないこともあり、ひろがっていかない。
- ◆ 利用者の望む立案だけでなく、実践まで展開できるか。

#### ●指導内容、職員の意識、介護技術の統一（42件）

- ◆ 基本的な介護技術。どうしても、個人的な技術になり、統一した介護技術がなかなかできないのではないか。
- ◆ 介護職の利用者の状態についての把握が一致していないこと。
- ◆ 指導する内容を施設全体で統一すること。
- ◆ 実習チームをつくり統一した指導を実践したいが、受入れチーム全体の力量をどのように揃えていくか。
- ◆ 職員の実習生受け入れの意識統一。
- ◆ 様々なスキル経験者に、統一した内容を説明指導すること。

#### ●人員不足・指導できる職員の不足（26件）

- ◆ この受講者以外の職員への周知。職員の指導力。
- ◆ 介護過程の流れをわかっている職員が少ないので、実習生に満足した指導ができない。
- ◆ 指導できる実習担当者の人材不足。
- ◆ 人手不足で、実習生にしっかりと指導する時間がもてない。

#### ●利用者を知り理解する視点（19件）

- ◆ 利用者とのコミュニケーションが難しく、本人の思い等の把握が難しい。
- ◆ 利用者とのコミュニケーションや利用者の選択。
- ◆ 学生に利用者へどのように興味をもってもらうか。
- ◆ 入居者を選択し、その方にあったプランの実施。記録の書き方、コミュニケーションが取れずに苦戦していること。

#### ●学校・学生側の課題（18件）

- ◆ 介護過程の展開の実践的な深め方を、いかに養成校の授業でイメージできるか。
- ◆ 高校生の実習生受け入れは、1年生で初期の段階の実習であり、まだ学校で学んでいないことが多く、介護過程の実践的展開をするのは難しい。

- ◆ 学生もちゃんと理解して実習に取り組めればいいが、実習指導者任せになってしまうケースが多いと思う。学生の理解も合わせて向上させていてもらいたい。
- ◆ 留学生の語学力(語彙、読解、聴解)と勉強する意識の低さ。日本人学生の学力の低さと生活体験の乏しさが課題です。

#### ●学校と実習先の協力・相互理解 (15 件)

- ◆ まずは介護過程を指導者として把握し、実習生が学んでこられた内容を把握する必要が前提にある。
- ◆ 実習生や学校との密な話し合いと、他のスタッフへの伝達。
- ◆ 養成校の希望もあり、介護過程の展開に矛盾が生じることがある。
- ◆ 養成校の教員が学生、実習指導者と共に対象者の情報を共有できる環境づくり。

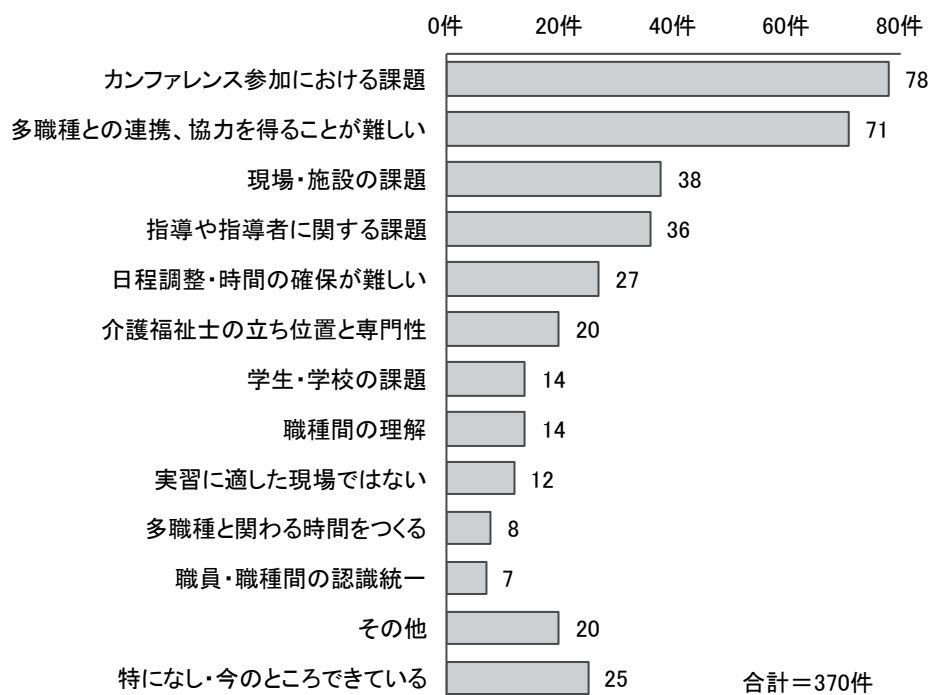
#### ●実習に適した現場ではない (13 件)

- ◆ ヘルパー事業なので実習生と一対一なので、チームでの体制づくりはできないようです。
- ◆ 医療型障害児入所施設では、第1段階実習(1年次・2年次)が多いので、介護過程の実践的展開ができない。
- ◆ 居宅サービスの事業所であり、長期の実習の受け入れはしていないため。
- ◆ グループホームは実習Iしか受け入れできない。

#### ●その他 (17 件)

- ◆ まずは実習生が実習に来ないので、どう指導していけばいいのか不安もある。
- ◆ 実習生が来るだけで褒められる時代に、求め過ぎとも感じました。
- ◆ 職員体制上の課題があり、新カリキュラムにそった現場実習の実践が、難しいように感じる。
- ◆ 実習生の確保。

## ②実習指導の課題：イ:多職種協働の実践を指導する上での課題



### ●カンファレンス参加における課題（78件）

- ◆ カンファレンスやサービス担当者会議など、多職種で検討する機会に参加が難しい。
- ◆ カンファレンスを多職種で開くための調整。
- ◆ グループワークで、サービス担当者会議等への参加は可能との声を得られたが、学生を参加させるための事前学習の工夫や実際の参加の仕方なども指導者と共に検討していく必要がある。
- ◆ ケアカンファレンスへの参加は難しい。どのようにして、専門性を伝えていけば良いのか。
- ◆ ケアカンファレンスや会議などの日時調整。
- ◆ ケースカンファレンスやサービス担当者会議に参加してもらう機会を多くつくるためのシステムづくり。
- ◆ 受け入れとカンファレンス開催のタイミング、家族等の理解。
- ◆ 短い実習期間内で担当者会議やケースカンファレンス等行うのは難しいと思った。

### ●多職種との連携、協力を得ることが難しい（71件）

- ◆ 事業所内での職種の専門性を理解し合える環境改善が必要。
- ◆ 職種により、介護福祉士実習に他職種の実習が必要であると理解してもらえない。

- ◆ 他職種からの話の際に、心にひびく、実体験を交えた話をしてほしいことを事前に共有すること。
- ◆ 多職種の職員の協力体制づくり。
- ◆ 多職種へのコンタクトをとるのに時間がかかる。
- ◆ 多職種への周知徹底。
- ◆ 別の職種の方に指導、説明のお願いがしにくい。
- ◆ 法人や事業所での協力体制。

#### ●現場・施設の課題（38件）

- ◆ 業務に追われ、間接的な委員会やパソコンでの情報共有等の説明ができていない。
- ◆ 現場が各職種の役割分担を理解しておく。
- ◆ 施設への協力を仰ぎ、実際の利用者事例から学生が体験できる仕組みづくり。
- ◆ 施設全体で実習生を指導していくという体制づくり。
- ◆ 全職種で実習生を育てる体制ができていない。

#### ●指導や指導者に関する課題（36件）

- ◆ 学生一人ひとりに合わせた指導方法の確立。
- ◆ 指導者の認識不足。
- ◆ 多職種での連携を更に密なものにし、個別性を持った指導が必要。
- ◆ 多職種との連携の実際を見てもらうが、専門の領域とは何かを伝えにくい。
- ◆ 多職種の役割や関係性をより丁寧に説明する必要があると感じた。

#### ●日程調整・時間の確保が難しい（27件）

- ◆ どのくらい多職種協働の時間、機会を持てるかが課題です。
- ◆ 他職種と関わる時間がとりにくい。

#### ●介護福祉士の立ち位置と専門性（20件）

- ◆ 介護士が一番立場が弱く、発言しても受け入れてもらえないことが多い。
- ◆ 介護職からの発言という意識が薄い。
- ◆ 専門職としての視点と責任の向上。
- ◆ 専門職の能力を理解しての支援。

●学生・学校の課題（14件）

- ◆ なかなかイメージすることが授業だけでは難しい。
- ◆ 学生が専門職の役割について知識不足。
- ◆ 実習生の位置付けの理解と個人情報。

●職種間の理解（14件）

- ◆ お互いが根拠を持って話ができているか。
- ◆ 互いの専門性の理解。
- ◆ 人間関係が悪いとうまく実践できない。

●実習に適した現場ではない（12件）

- ◆ グループホームなので他職種が少ない。
- ◆ 勤務している多職種が少ない。
- ◆ 老健、特養以外では多職種協働を幅広く指導する難しさ。

●多職種と関わる時間をつくる（8件）

- ◆ 学生には主に看護やリハとは関わっていただいておりますが、栄養課や事務課との関わりを増やして行きたいと思います。
- ◆ 職員が医療やソーシャルワーカーのことを伝えるのではなく、看護師・ソーシャルワーカーに学生がついて学ぶ時間がとれるといいと思います。
- ◆ 他の職種と関わる時間が少ないように感じる。

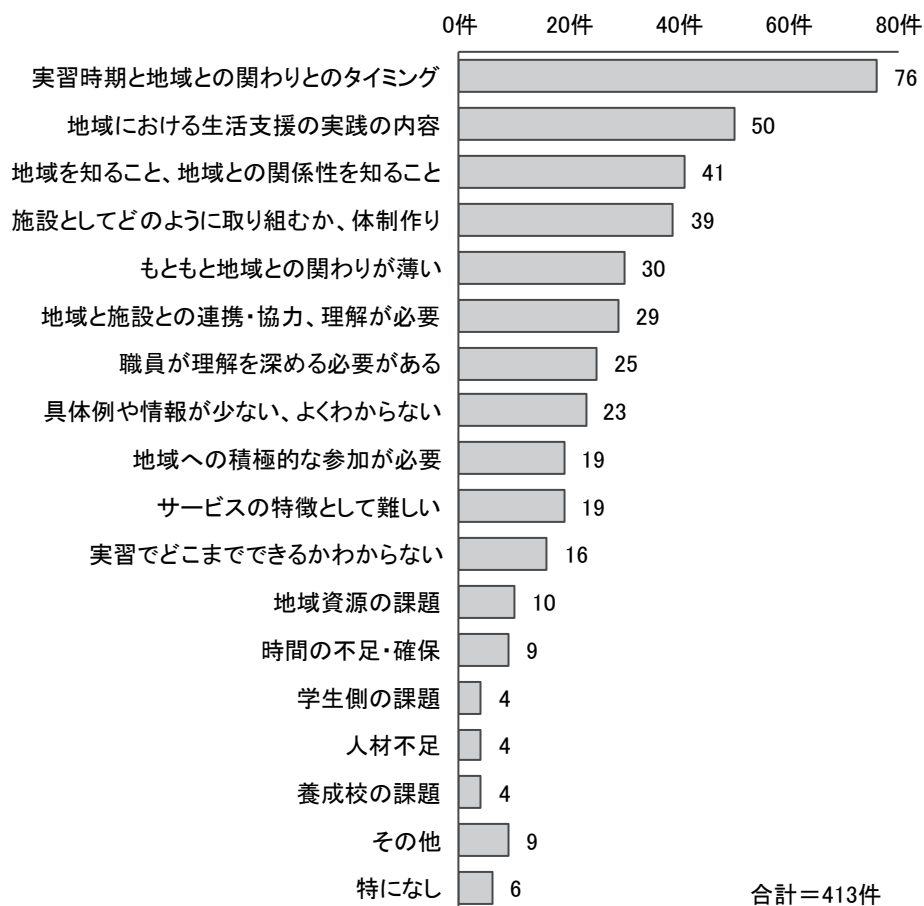
●職員・職種間の認識統一（7件）

- ◆ 各職種の受け入れに対する共通認識。
- ◆ 同一職種内でのレベルを一定に保っておかないと、担当者によって対応が変わると実習生に負担をかけてしまうこと。

●その他（20件）

- ◆ 実際に連携はされているが、記録としての表現力。
- ◆ 他職種だけでなく、家族との関わり方の実践。

### ③実習指導の課題：ウ：地域における生活支援の実践を指導する上での課題



#### ●実習時期と地域との関わりとのタイミング（76件）

- ◆ タイミングがあわなければ口頭や写真での説明になる。
- ◆ プログラムはあるが参加の難しさ。
- ◆ 外とのつながりが実習のタイミングと合うかどうか。
- ◆ 行事がある時に実習期間であれば、コミュニケーションがとれて地域ぐるみのつながりが理解しやすいと思います。
- ◆ 地域に関する支援活動をする時間帯や時期を実習期間と合わせるのが難しい。
- ◆ 時期によっては、地域との関わりが見られない場合もあり、他職種による説明になると思う。
- ◆ 実習と行事が重ならないことがあり、生活支援技術を学ぶ機会がない時がある。
- ◆ 実習の受け入れのタイミングで地域との活動の機会を提供することができるか。
- ◆ 実習中に行事や家族の面会などの機会がない場合がある。

#### ●地域における生活支援の実践の内容（50件）

- ◆ 地域の中の生活者という考え方を、現職員に周知し、取り組んでいくこと。
- ◆ 在宅と施設という法律的な概念と、施設入所者が地域で生活している人と捉える考え方の切り替え。
- ◆ 実習施設周辺の地域の特性を学習した上で実習に臨むこと。
- ◆ 誰もが地域を理解できるよう、マニュアルづくりなど、新たな取り組みが必要。
- ◆ 地域における生活支援を実践的に教えること。
- ◆ 利用者が地域とのつながりが切れないように、介護福祉士がどのような役割を担っているか。
- ◆ 利用者様を巻き込んだ地域との取り組みが少ない。実習生にイメージしにくいかもしれない。

#### ●地域を知ること、地域との関係性を知ること（41件）

- ◆ 地域をどれだけ知っているかで、指導が大きく変わると思います。
- ◆ 地域の課題を知る。施設全体で何ができるのか等の話の場。
- ◆ 地域と施設とのつながりについて、また、どのような課題に取り組んでいるか知ること。
- ◆ その地域の特性（文化や行事）を理解し、介護福祉士としてどのように関わりをもつか。
- ◆ 指導する以前に、施設がより地域の事を知ることから始めなければならないと思いました。
- ◆ 施設がどのように地域と関わっているのかについて。
- ◆ 実習施設のある地域の特性やその地域ならではの文化や行事を知ること。

#### ●施設としてどのように取り組むか、体制づくり（39件）

- ◆ できるだけ多く 施設をあげて地域行事に積極的に参加する方法。
- ◆ グループワークの際、施設の方針の壁があった。
- ◆ スタッフ自身が地域活動へ積極的に参加できる体制をつくること。
- ◆ 共生社会を意識した職員の認識向上。
- ◆ 業務として行うためには管理者等の理解、後押しが不可欠に思う。
- ◆ 施設管理者の理解を得ることが難しい。

●もともと地域との関わりが薄い（30件）

- ◆ 地域のつながりがやはり薄いとを感じる。実践として実習生に教えていくにはどうしていくかが課題。
- ◆ 地域交流がなく、外部とのつながりが少なすぎるので実習生に指導できない。
- ◆ 施設が地域から離れていることもあり、地域との結びつきがとても薄い。
- ◆ 施設が閉鎖的で、地域との関わりが薄い。
- ◆ 施設側が地域コミュニティに参加しにくい状況がある。

●地域と施設との連携・協力、理解が必要（29件）

- ◆ 地域の課題を一緒に考えるために、地域と事業所がもっと情報共有していくこと。
- ◆ 個人情報の保護の理解。生活支援の必要性の理解。受け入れてもらえる地域が少ない。
- ◆ 地域とのつながりを深めること。地域の中の住民であるという意識づくり。
- ◆ 施設と地域が両輪になる取り組みが必要。
- ◆ 地域にも私たち介護福祉士の仕事を知ってもらう努力をしていく。

●職員が理解を深める必要がある（25件）

- ◆ 地域の事を職員も理解できていない。
- ◆ 施設内で完結している介護職への指導。
- ◆ 自分たちが地域と関わっていると意識をすること。
- ◆ 施設の職員も理解を深め、実習生にしっかりと伝えられるようになることが必要だと思います。
- ◆ 職員が地域連携または協働に関心、意識が薄い。

●具体例や情報が少ない、よくわからない（23件）

- ◆ どのような方法で実践したら良いのかわかりにくい。ガイドライン等を示してもらいたいと感じた。
- ◆ 家族の了解を得る際の必要な書類など、見本や事例ケースがないのでわからない。
- ◆ 講義レベル、体験レベルなど、どこまで求めているか、わからない。
- ◆ 今何ができるか、明確でないのでわかりません。
- ◆ 施設で何をするのか明確にする。



●地域への積極的な参加が必要（19件）

- ◆ 外出やイベントへの参加等から考えていきたい。
- ◆ 地域活動への参加、地域特性を知るための調べ学習。
- ◆ ボランティア活動の積極的参加。
- ◆ 実際に地域資源と関わっている場への参加。

●サービスの特徴として難しい（19件）

- ◆ 居宅サービス事業所なので、長期の実習を受け入れていないため、そういった場面の経験が難しい。
- ◆ 特養の場合、介護職員が地域に出向いていくことが、職員不足のために実践できていない。
- ◆ 入所施設で、地域との直接的な関わりが少ない。
- ◆ 自職種では地域連携を行っていない。

●実習でどこまでできるかわからない（16件）

- ◆ どの程度実践できるのかわからない。
- ◆ 学生さんが、実習中にやるべきことが多いので、負担にならないかが心配である。
- ◆ 経験できるか難しい。
- ◆ 施設内で決められた時間、範囲、日程で学ぶのは限度がある。

●地域資源の課題（10件）

- ◆ インフォーマル資源の活用が少ない。
- ◆ 地域資源の調査。
- ◆ 施設内において地域資源とは何か考え、活用する。

●時間の不足・確保（9件）

- ◆ 地域に行ける時間の確保。
- ◆ 指導時間が十分に確保できない。
- ◆ 実習期間内に行えない場合のフォロー。

●学生側の課題（4件）

- ◆ 学生も実習先の地域を事前に調べておく必要があると思った。

●人材不足（4件）

- ◆ 人材確保ができないため行事が少ない。

●養成校の課題（4件）

- ◆ 養成校自体も地域にある学校として、学生、教員と地域に積極的に足を運ぶことが必要ではないかを感じる。

## **(6) 研修アンケート結果のポイント**

### **①介護実習に「教育に含むべき事項が追加された」ことの認知度**

講師養成研修受講者において、介護実習に教育に含むべき事項が追加されたことを「知っていた」は15.4%、「部分的に知っていた」は23.5%であり、「知らなかった」や「聞いたことがある程度」は合わせて6割を超えている。既述の講師養成研修受講者に比べると認知の割合は低い結果となった。

実習指導者を無作為に抽出した調査ではないため、本結果を実習指導者全体にあてはめることはできないが、意識をしてキャッチアップをしようとしている受講者においても「知らなかった」や「聞いたことがある程度」が多数を占めている。介護実習指導者にも新カリキュラムの周知は広がっているものの、介護実習指導を实りあるものにするには、介護実習指導者に対して介護福祉士養成課程の教育内容の変更、介護実習に「教育に含むべき事項」が追加されたことを周知していく必要がある。

### **②研修内容の理解度**

介護福祉士養成課程見直しの全体像、介護実習を受け入れる体制づくり、介護過程の実践的展開、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践については、いずれも「よく理解できた」は2割、「理解できた」は7割であり、9割以上の理解が得られている。

「あまり理解できなかった」は、地域における生活支援の実践において8.0%、介護過程の実践的展開において6.6%みられ、これら2つについては理解にやや課題が残された。

### **③介護過程の実践的展開**

介護過程の実践的展開は、実習生への指導方法を学べた、介護過程の実践的展開について理解が深まったとする意見があげられた。

課題としては、介護過程についてもっと詳しく知りたい、介護職のチームについて知りたい、介護過程の展開を理解できていない（自身や職員）などの基本的な課題とともに、指導できる職員が足りない、受け入れの基盤ができていないなどの体制上の課題が出されている。

#### ④多職種協働の実践

多職種協働の実践は、介護過程の実践的展開と同様に、実習生への指導方法を学べた、介護過程の実践的展開について理解が深まったとする意見とともに、介護福祉士の専門性について理解ができたなどの意見があげられた。

課題としては、時間的にカンファレンス等を開催しにくい、他の職種の協力を得る関わりが必要などの課題が出されている。多職種連携については、職場の環境(事業所の種類)に左右されるため、職場(事業所の種類)に応じた視点と対応が求められる。

#### ⑤地域における生活支援の実践

地域における生活支援の実践は、施設と地域との関わりを考えることができた、他施設の現状・事例を知ることができた、施設の入所者も地域の一員であると理解したなどの意見があげられた。

課題としては、実際にどのように取り組めばよいかわからない、施設の種類の違い、具体的事例を知りたいなどの課題があげられた。また、地域における生活支援の実践は、指導が難しいと感じる割合が5割を超えており、介護過程の実践的展開や多職種協働の実践に比べて指導が難しいという意見が多い。

#### ⑥「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」の必要性

新カリキュラム対応するための介護実習指導研修が必要であることについては、受講者の45.9%が「とてもそう思う」、50.3%が「そう思う」と回答しており、受講生の多くが研修の必要性を認識している結果となった。

#### ⑦研修について

研修について「とても満足」は28.4%、「満足」は64.9%である。また、実習指導者として役立つ研修であったかは「とても思う」40.8%、「思う」55.1%であった。

また、研修についての要望としては、定期的な研修の開催、留学生に対する指導のあり方、他施設の取り組みや事例を知りたい、介護過程についてさらなる理解が必要、新カリキュラムの周知が必要などの意見があげられた。

### 3. 研修受講者への効果検証等アンケート

受講者が研修を受けて具体的にどのような取り組みや介護実習指導等を行ったかを把握し、研修の効果等を検証するための効果検証等アンケートを実施した。

なお、平成30(2018)年度の介護実習指導者フォローアップ研修受講者にも調査協力を依頼し、効果の把握を行った。

#### (1) 調査概要

##### 調査の実施概要

対象者	A：「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」受講者 B：平成30(2018)年度介護実習指導者フォローアップ研修受講者
調査方法	・メールで調査回答を依頼(回答URLを案内)、回答者は回答URLにアクセスし、ウェブフォームを活用して回答。 ・調査期間中、1回リマインドメールを配信している。
留意事項	・明らかに重複回答であると認められた回答は、1つを残し削除して集計している。

##### 調査の実施状況

	A 「新カリキュラム対応 介護実習指導研修」 受講者	B 平成30(2018)年度 介護実習指導者 フォローアップ 研修受講者	A+B
対象数	1,341名	33名	1,374名
配信数	1,108名	33名	1,141名
回答数	653名	23名	676名
回答率	58.9%	69.7%	59.2%
調査期間	令和2年1月17日 ～3月13日	令和元年12月12日 ～12月23日	

## (2) 調査票

※本調査はウェブフォームによる実施であるが、調査票の見本はウェブフォームに移行する前の様式を掲載している

公益社団法人日本介護福祉士会

### 新カリキュラムに対応した介護実習の実施に関する調査

問1 最初にあなたご自身について教えてください。

性別と年齢	1. 男性      2. 女性	満 (            ) 歳
介護福祉士資格取得年	西暦・和暦 (            ) 年    ※どちらかに○をつけてください。	
資格取得方法 (1つに○)	1. 養成施設(専門学校)卒業 2. 養成施設(短大・大学)卒業 3. 実務3年の後、実技試験を受験し介護福祉士試験合格 4. 実務3年の後、介護技術講習を受講し介護福祉士試験合格(H17年度~) 5. NHK学園等の通信教育を修了後、介護福祉士試験合格 6. その他 (            ) → 福祉系高等学校を卒業していますか ( はい ・ いいえ )	
所属先	1. 介護福祉士実習指導者講習会の修了者であって、現に介護実習指導者として実習指導にあっている者 2. 介護実習に携わる介護福祉士養成施設等の教員、教諭 3. その他 (            )	
所属先で従事している施設・サービスの種類	所属先種別	
1. 入所・入居施設 2. 居宅サービス 3. 地域密着型サービス 4. その他	1. 高等学校 2. 専門学校 3. 短期大学 4. 4年生大学 5. その他 (            )	
介護実習指導者としての経験年数 (            ) 年	介護福祉士養成施設等の教員、教諭としての経験年数 (            ) 年	

**問2 研修の受講場所、時期をお聞かせください。**

**受講場所** ( ) 都 道 府 県

**受講時期** 1.2019年1月～2月(介護実習指導員フォローアップ研修 東京・大阪実施)  
2.2019年10月(介護実習指導 講師養成研修 東京・大阪実施)  
3.2019年11月 5.2020年1月  
4.2019年12月 6.2020年2月

**問3 研修受講後に取り組んだことには○、これから取り組む予定があることは△をつけてください。また、具体的な取り組み内容(予定)をお聞かせください。**

(1) 職場で研修内容を発表・報告した(情報の共有)

1.取り組んでいる(取り組んだ) 2.取り組む予定 3.取り組んでいない  
具体的に( )

(2) 新カリキュラムに対応した介護実習を行うための会議や検討を実施(設置も含む)した

1.取り組んでいる(取り組んだ) 2.取り組む予定 3.取り組んでいない  
具体的に( )

(3) 新カリキュラムをさらに深める学びに取り組んだ(学びの深化、疑問や課題の解決、勉強会の実施等)

1.取り組んでいる(取り組んだ) 2.取り組む予定 3.取り組んでいない  
具体的に( )

(4) 新カリキュラムに対応した介護実習のためのマニュアル(手引き)の変更・追加・作成を行った

1.取り組んでいる(取り組んだ) 2.取り組む予定 3.取り組んでいない  
具体的に( )

(5) 新カリキュラムに対応した介護実習に関する資料や教材を作成した

1.取り組んでいる(取り組んだ) 2.取り組む予定 3.取り組んでいない  
具体的に( )

(6) 新カリキュラムに対応した介護実習指導を行うためのスケジュールをたてた

1.取り組んでいる(取り組んだ) 2.取り組む予定 3.取り組んでいない  
具体的に( )





**問4 貴施設、貴校における新カリキュラムに対応した介護実習の実施状況についてお聞かせください。**

※介護実習に関し、新カリキュラムの全部ではなく一部についてのみ取り入れた場合も「実施」ととらえてください。

1. 新カリキュラム対応の介護実習指導について、実施予定はまだない（未定、指導者ではない）
2. 来年度（R2年4月）から新カリキュラムの内容を取り入れる予定をしている
3. 今年度（R2年3月）までに実施の予定があるが、本調査回答時点では実施していない
4. すでに実施した

→ **問4-1 具体的に取り入れた（取り入れる予定の）新カリキュラム内容はどれですか。（複数回答可）** ←

1. 介護過程の実践的展開
2. 多職種連携の実践
3. 地域生活の支援の実践
4. 未定

→ **問4-2 新カリキュラムに対応した介護実習を取り入れた（取り入れる予定の）実習生は以下のどれですか。（複数回答可）** ←

1. 専門学校
2. 短期大学
3. 4年制大学
4. 未定

→ **問4-3 新カリキュラムに対応した介護実習の指導・教授に、あなた自身はどの程度対応できましたか。**

	十分に指導・教授できた	ある程度は指導・教授できた	指導・教授は十分ではなかった	わからない判断できない
①新カリキュラムに対応した知識	4	3	2	1
②新カリキュラムに対応した実践力	4	3	2	1
③知識と技術を統合する力	4	3	2	1

→ **問4-4 新カリキュラムに対応した介護実習を行った実習生について、どのように判断しますか。複数の実習生がいる場合、総合的な判断としてご回答ください。**

	十分に修得できた	修得できた	あまり修得できていない	わからない判断できない
①新カリキュラムに対応した知識	4	3	2	1
②新カリキュラムに対応した実践力	4	3	2	1
③知識と技術を統合する力	4	3	2	1

↳ 問4-5 新カリキュラムに対応した介護実習の実施にあたり、研修内容は役立ちましたか。

	大変役立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった
①介護過程の実践的展開	4	3	2	1
②多職種連携の実践	4	3	2	1
③地域生活の支援の実践	4	3	2	1

問5 新カリキュラムに対応した介護実習の実施にあたり、①実習指導者、②実習施設、③養成校教諭・教員、④養成校 それぞれの課題と感ずることがあればお聞かせください。

①実習指導者の課題

( )

②実習施設の課題

( )

③養成校教諭・教員の課題

( )

④養成校の課題

( )

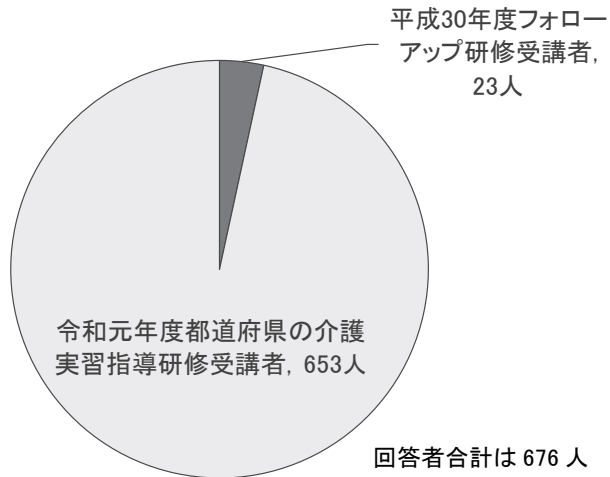
問6 新カリキュラムに対応した介護実習指導研修（介護実習指導者の養成研修）について、要望等があればお聞かせください。

( )

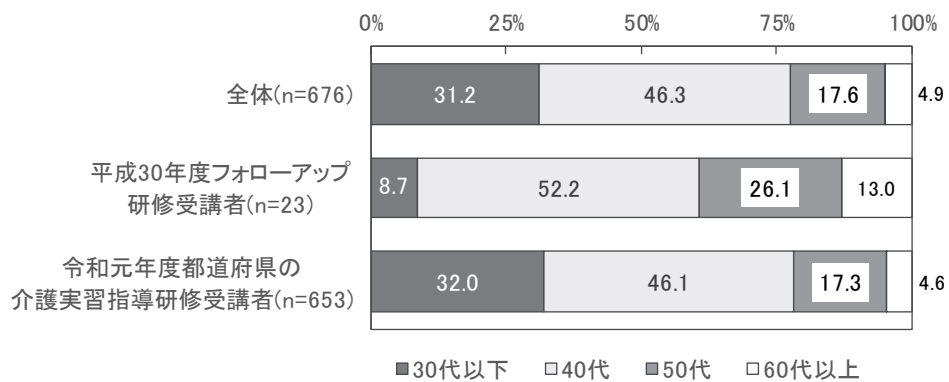
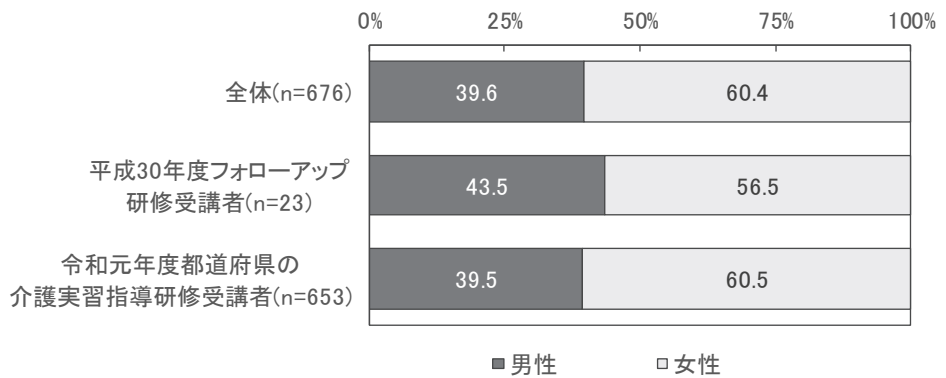
調査は以上です。ご協力をありがとうございました。

### (3) 集計結果

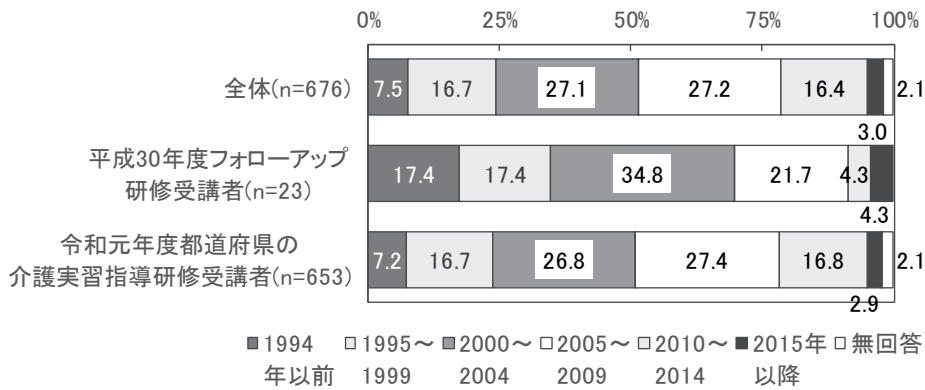
#### ①受講者の内訳



#### ②受講者の性別と年齢



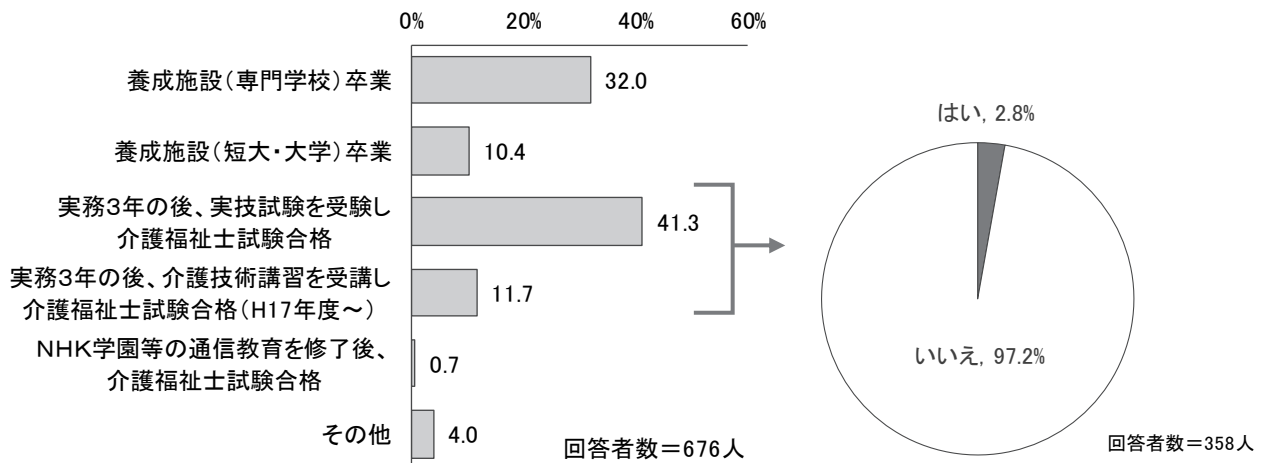
### ③介護福祉士資格取得年



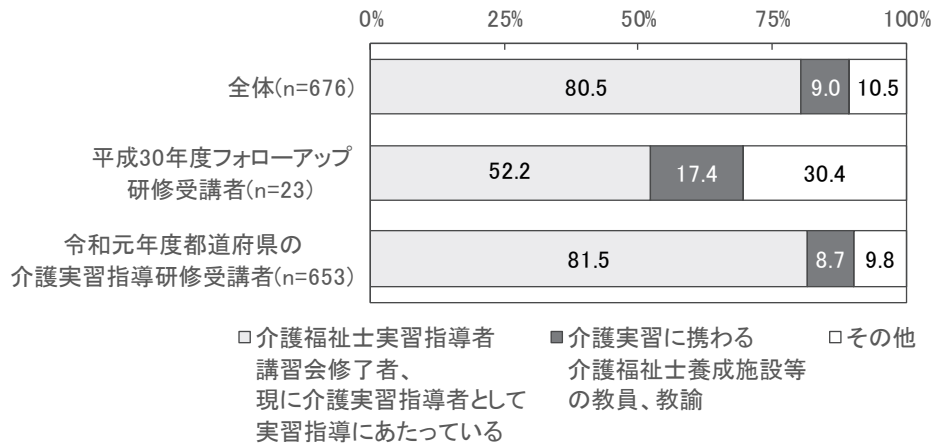
### ④資格取得方法

【資格取得方法】

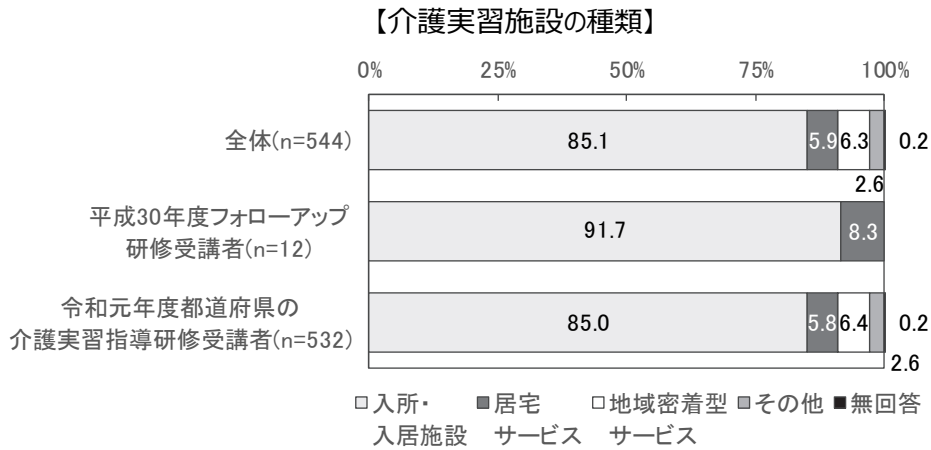
【実務3年後取得の場合、福祉系高等学校を卒業しているか】



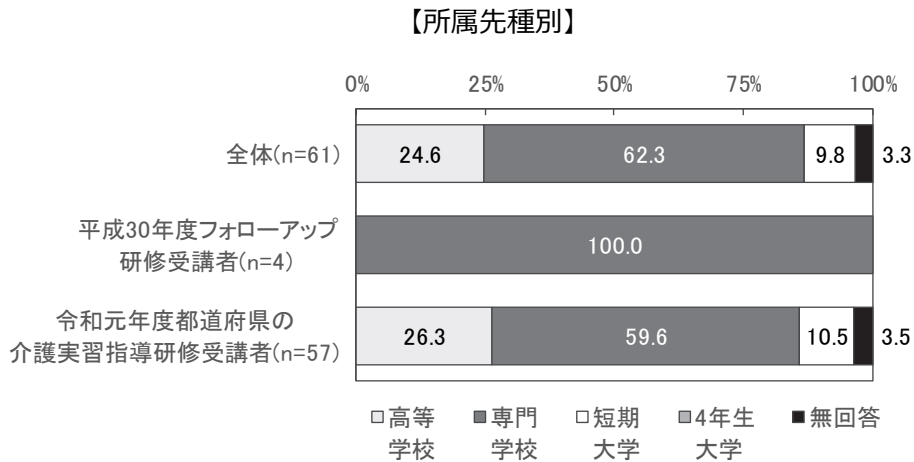
### ⑤ 介護実習に関する受講者の立場



#### ⑤-1 介護実習施設の介護実習指導者である場合



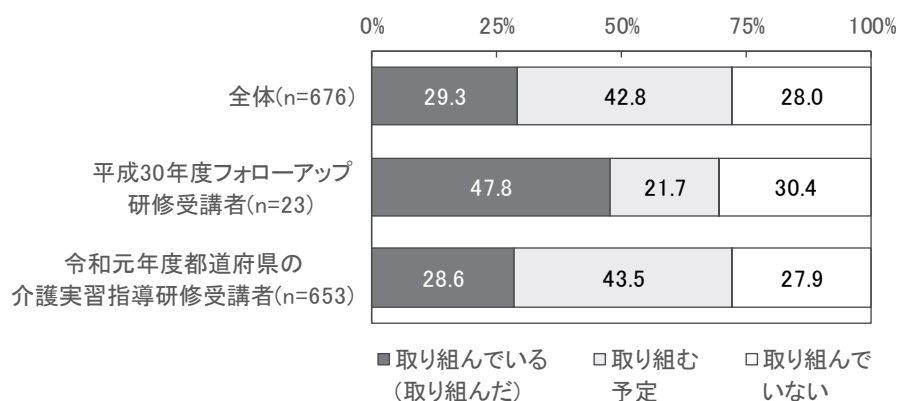
#### ⑤-2 介護福祉士養成施設等の教員、教諭である場合



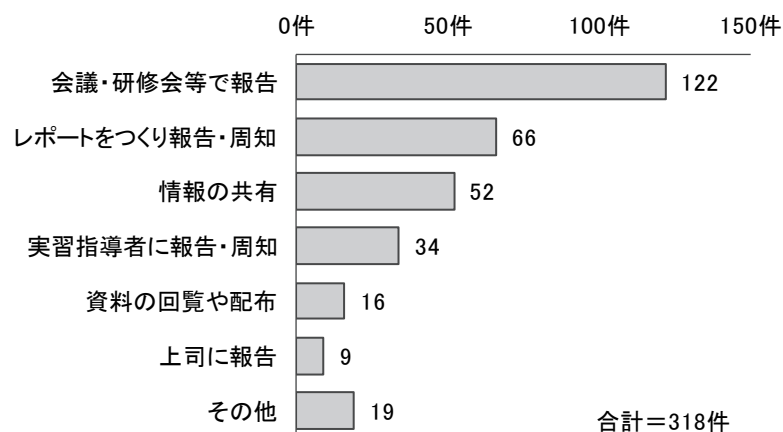
## ⑥研修受講後の取り組み

問3 研修受講後に取り組んだことをお聞かせください。

A：職場で研修内容を発表・報告（情報の共有）



【具体的取り組み—自由記載の集計と抜粋】



### ●会議・研修会等で報告（122件）

- ◆ 新カリキュラムに合わせ、マニュアル等を作成。実習指導者へ伝達講習を行う予定。
- ◆ 研修内容について会議にて報告し、新カリキュラムについて周知した。
- ◆ 施設内の勉強会にて報告をして周知させる。
- ◆ 施設内研修に組み込む予定。
- ◆ 実習施設との説明会に活用。

●レポートをつくり報告・周知（66件）

- ◆ レポートの作成や研修報告。
- ◆ 研修の復命書の提出と回覧。
- ◆ 研修報告書を作成し職場内へ周知、今後の実習プログラムの参考とした。
- ◆ 研修報告書提出、委員会の開催、周知。

●情報の共有（52件）

- ◆ 研修で使用した、資料を職場内で共有。マニュアルに反映する。
- ◆ 新カリキュラムで変更になったところを共有した。
- ◆ 介護リーダーに研修内容について周知。
- ◆ 実習指導担当他スタッフと他部署へ研修内容の伝達を行う。
- ◆ 多職種で、チームをつくられている運営メンバーへの伝達。

●実習指導者に報告・周知（34件）

- ◆ 法人の実習指導者部会で報告しています。
- ◆ 職場内で現任の実習指導者に伝達講習を行う予定。
- ◆ 過去に実習指導者講習を受講している同僚に新カリキュラムの内容を伝達。

●資料の回覧や配布（16件）

- ◆ カンファレンスで資料を配布し、実習生を受け入れる事前準備など、再度情報共有を行った。
- ◆ 研修終了後、全教員に資料の回覧と説明を行った。
- ◆ 資料を回覧し、伝達報告をした。

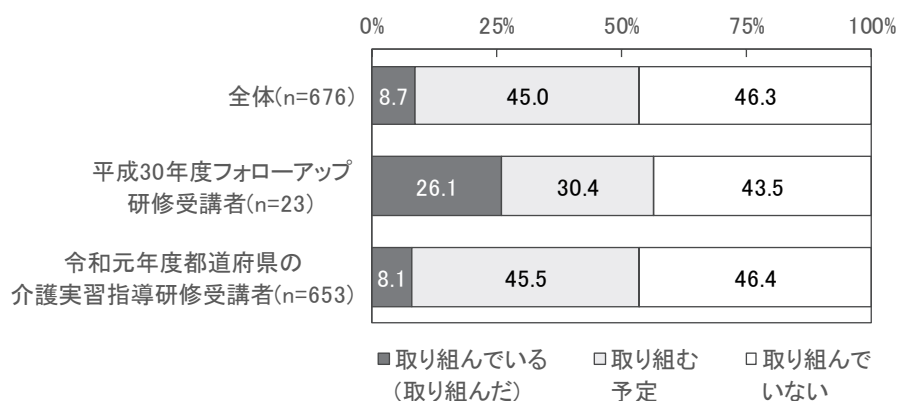
●上司に報告（9件）

- ◆ 勤務先の上司、施設長に研修内容の報告と資料の提示を行い、情報の共有を図った。
- ◆ カンファレンスへの参加や入所前後訪問などへの同行を上司に報告、依頼した。
- ◆ 研修内容について上司に報告。実習生の受け入れはここ数年ないため、職員の指導を行っていく予定。

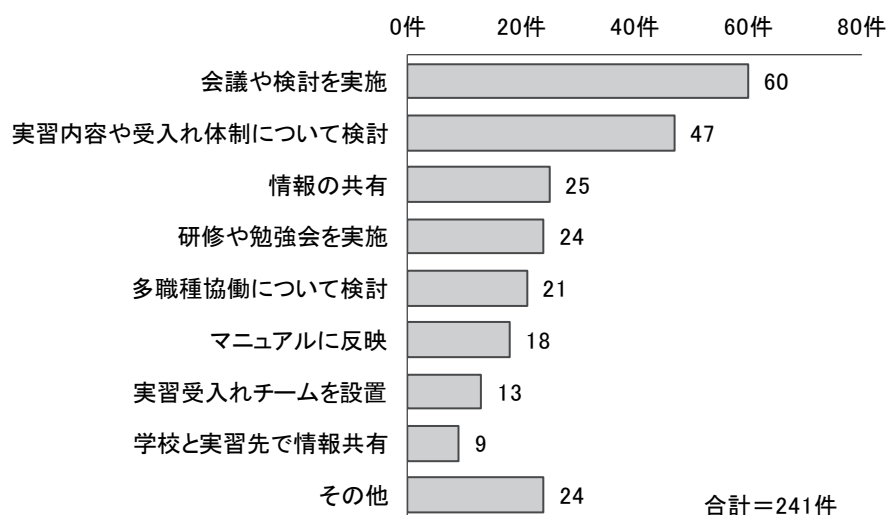
●その他（19件）

- ◆ 実習生受け入れがないため、簡単な報告のみ行った。
- ◆ 実習生受け入れ後に再度説明する予定。

B：新カリキュラムに対応した介護実習を行うための会議や検討を実施（設置も含む）



【具体的取り組み—自由記載の集計と抜粋】



●会議や検討を実施（60件）

- ◆ 実習指導者で検討会を実施。
- ◆ ユニットリーダー会議にて報告検討。
- ◆ 職員会議にて研修報告を行い、目的にそった対応ができるように話し合いを行う。
- ◆ シラバスへの反映。各科目の履修予定内容の確認と新規取り組みの提案と検討。

●実習内容や受入れ体制について検討（47件）

- ◆ 地域で行われている活動を見学に行き、指導者が地域を理解できる場を設けた。
- ◆ 地域支援の実践について、具体的な指導方法の検討。
- ◆ 実習スケジュールなどの見直し、内容を検討する予定。



### ●情報の共有（25件）

- ◆ 各ユニットリーダーを集めて、新カリキュラムを解説した。
- ◆ 実習指導者へ新カリキュラム、介護実習指導のためのガイドラインを印刷し配布した。指導表作成時、新カリキュラムを盛り込んだ指導表を作成した。職員全員に申し送った。
- ◆ 他の実習指導者と情報を共有できるように話し合いの場を設ける予定。

### ●研修や勉強会を実施（24件）

- ◆ 来年度の（非常勤講師を含む）科目担当教員が定まってから、伝達講習をする予定。
- ◆ 実習指導講習会を開催予定。
- ◆ 実習指導チームに対し実習指導勉強を行い、新カリキュラムの勉強会を行う。

### ●多職種協働について検討（21件）

- ◆ 介護カンファレンス、担当者会を実施するための準備を行う。
- ◆ 多職種共働の実際をみられるように各職種への連絡、調整。
- ◆ マニュアルを作成し、他職種にもカンファレンスに参加してもらえるよう取り組んでいく。

### ●マニュアルに反映（18件）

- ◆ 責任者連絡会議で報告、マニュアル委員会で協議、マニュアルの制定。
- ◆ 指導マニュアルの作成。
- ◆ 実習生受け入れ要領に新カリキュラム部分を見直し改訂予定。

### ●実習受け入れチームを設置（13件）

- ◆ 実習受け入れのチームを作成予定。
- ◆ 実習生受け入れのチームでの会議を行う。
- ◆ 実習受け入れチームをつくり、実習について共有していく。

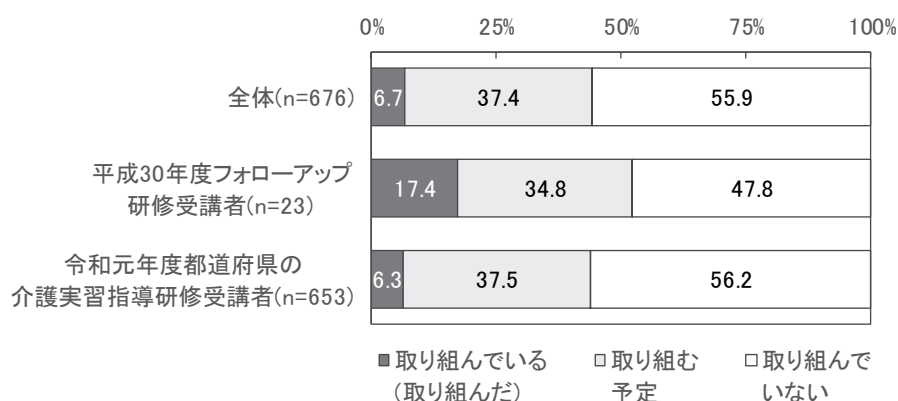
### ●学校と実習先で情報共有（9件）

- ◆ 介護実習施設との交流会を通して、介護実習の充実を図る。
- ◆ 受け入れている養成施設教員との内容の検討連絡会。

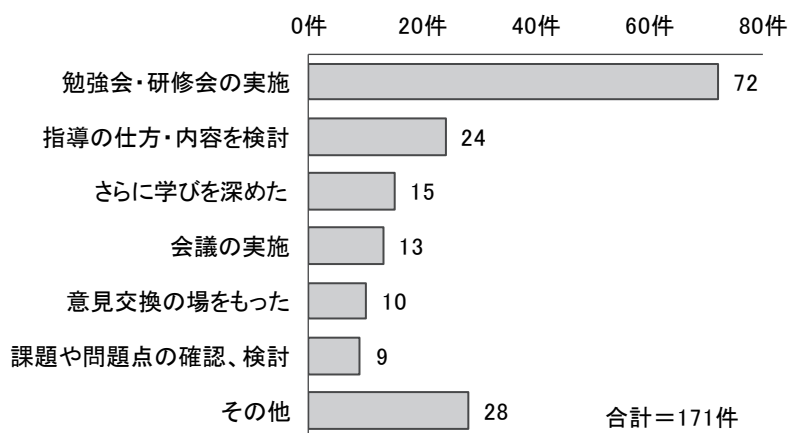
### ●その他（24件）

- ◆ 実習生が来ていないので、来た時にする予定。

C：新カリキュラムをさらに深める学びに取り組んだ（学びの深化、疑問や課題の解決、勉強会の実施等）



【具体的取り組み—自由記載の集計と抜粋】



●勉強会・研修会の実施（72件）

- ◆ かみ砕いた内容を勉強会にて周知する。
- ◆ 介護過程、計画についての研修会、多職種連携のための研修会。
- ◆ 実習指導者以外にも担当としてつける中堅クラスの職員に、対応を説明する機会を設ける。
- ◆ 2020年度に実習を担当する予定職員に、新カリキュラム課程を履修している学生であることを周知し、勉強会を予定。

●指導の仕方・内容を検討（24件）

- ◆ 実習が始まる前に、実習計画を含め新旧の違いが確認できる資料を作成し、実施しようと考えています。
- ◆ 実習生受け入れに際しての指導方法の統一、周知。

- ◆ 新カリキュラム導入に向けての概要説明・今後の進め方等の協議を始めている。
- ◆ 現在の介護計画を介護過程に取り入れ、実践していく。

#### ●さらに学びを深めた（15件）

- ◆ まずは個人的なレベルでの理解不足があるので、復習や情報収集などを通じて知識を深めていきたい。
- ◆ 全国大会に向けて取り組む予定。
- ◆ 研修の振り返り、ガイドラインの読み込み。
- ◆ 実習生が学校で学ぶ内容について介護職員で学ぶ機会を持つ。

#### ●会議の実施（13件）

- ◆ 疑問や課題の解決に向けての会議を行う。
- ◆ 教員会議。
- ◆ 実習指導者が中心となり、職員全体会議等で発表し、職員全体の認識を高める。
- ◆ ユニット会議等で発表し、質疑応答。

#### ●意見交換の場をもった（10件）

- ◆ 元々の実習指導者研修を終えた職員と話し合い、体制の見直し。
- ◆ 上司や他の指導者とも話し合いの場を設ける。
- ◆ リーダー会議で研修報告し、意見を出し合う。
- ◆ 教員との打ち合わせ。

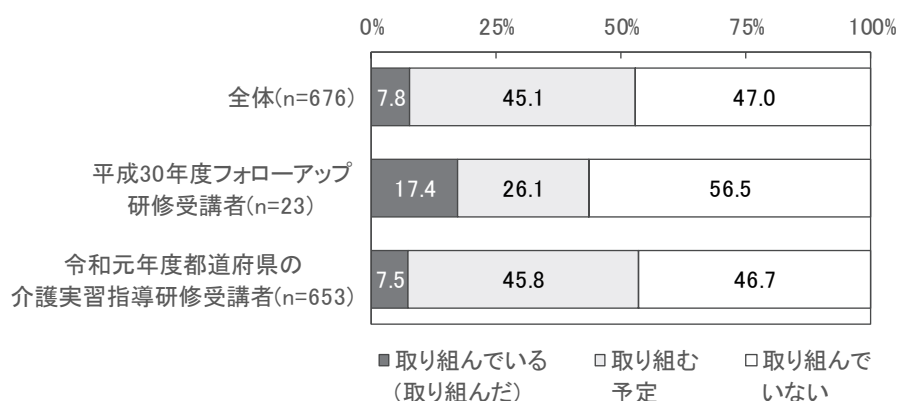
#### ●課題や問題点の確認、検討（9件）

- ◆ 実習生の指導が先日終わったばかりなので、実習生の記録や評価等を見ながら、課題の抽出と解決等に結び付けられたらと考える。
- ◆ 巡回指導時に課題の進捗や問題点を確認。
- ◆ 研修で学んだことを会議で報告し、受け入れの際の問題点、対応策を話し合う。
- ◆ 現在も実習生を受け入れているので、その際の不明点や改善点、課題を浮き彫りにして、より実習生の指導にマッチした取り組みを行う予定。

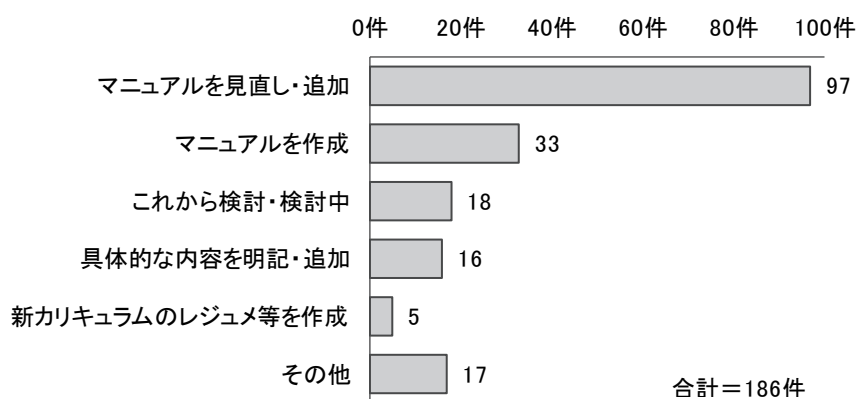
#### ●その他（28件）

- ◆ 勉強会の時間をつくるのが難しい。
- ◆ 施設指導者との連携の強化、記録の説明会等。
- ◆ 他校との連携。

D：新カリキュラムに対応した介護実習のためのマニュアル（手引き）の変更・追加・作成を行った



【具体的取り組み—自由記載の集計と抜粋】



● マニュアルを見直し・追加（97件）

- ◆ 養成校との内容の検討により、もともとあるマニュアルの改正。
- ◆ 現在のマニュアルを見直し、新カリキュラムにあったものを作成する。
- ◆ 実習施設への配布資料内容等の見直し。
- ◆ 本学独自で作成している「介護実習要綱」を新カリキュラムにそった内容に見直ししていく予定。

● マニュアルを作成（33件）

- ◆ 介護実習のためのマニュアルがなかった、作成途中。
- ◆ 実習の手引きを学校として作成済み。
- ◆ 今後、行う。改めて担当ユニットに理解できるマニュアルが必要と感じた。
- ◆ できれば他の施設等の手引きなど参考にし、作成していきたい。

●これから検討・検討中（18件）

- ◆ 現カリキュラムのテキストと新カリキュラムに準じたテキストの変更点を確認している。
- ◆ 再来年度に向けて、実習要綱一式の検討を来年度行う。
- ◆ 学校からの要望を踏まえて行う予定
- ◆ 介護実習マニュアルがあるのかまず確認する。あると思うが古いと思うのでマニュアルの更新、変更などを行う。

●具体的な内容を明記・追加（16件）

- ◆ 多職種の業務を体験できるようマニュアルの変更、追加。
- ◆ カンファレンス参加や地域における生活支援の場面への参加等を明記する予定。
- ◆ 介護福祉士として介護職のリーダーになりうる人材の育成という文言を入れた。
- ◆ 介護過程を実習生に指導するポイントなどを追加する予定。
- ◆ 高い倫理性の保持、虐待や拘束などの事例を取り入れる。

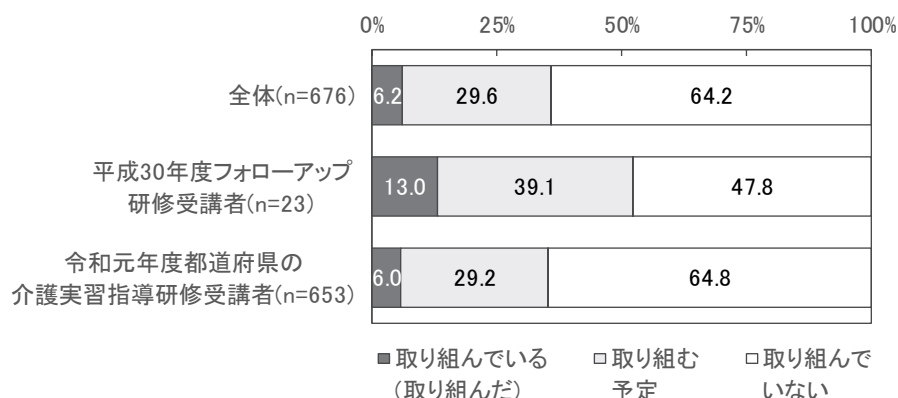
●新カリキュラムのレジユメ等を作成（5件）

- ◆ 介護職員に実習のポイントなど文書を作成して配布した。
- ◆ 新カリキュラムの詳細をまとめたレジユメを作成。

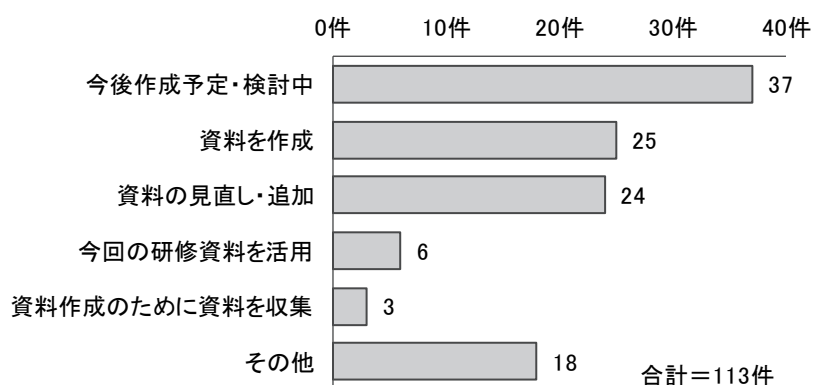
●その他（17件）

- ◆ 新カリキュラムとは言うが根本的には大きく変わらないので、現状のままで行う予定(もともと介護過程や実践など展開もしてきている)。
- ◆ すでにマニュアルを作成、運用している施設へ連絡を取り、参考とさせてもらう。
- ◆ もう少し整理してから進めたい。
- ◆ 来年度実習生を受け入れする際の準備として取り組む。

E：新カリキュラムに対応した介護実習に関する資料や教材を作成した



【具体的取り組み—自由記載の集計と抜粋】



●今後作成予定・検討中（37件）

- ◆ 3月に実習生受け入れがあるので、作成する予定です。
- ◆ 介護実習指導者で話し合いを設け具体的に決めていく。
- ◆ 2020年度中に、養成校と相談しながら資料の作成を検討。

●資料を作成（25件）

- ◆ 実習生に対し、一連の流れがわかる表を作成する予定。
- ◆ 以前使用していた実習生用の資料を研修後新たに作成した。
- ◆ 新カリキュラム対応の介護実習について変更点や施設がすべき事を資料として作成する。
- ◆ ICF分析表を書き込みタイプにして、コミュニケーションを取らなければ、表が完成しない物を作成しました。
- ◆ 介護過程と介護計画の策定や指導、実施のための資料や手引きの準備。また付帯事業所への実習生受け入れのマニュアルや資料の準備中。

●資料の見直し・追加（24件）

- ◆ 介護過程の様式変更。
- ◆ 現行用語への変更。
- ◆ テキストを変更した。
- ◆ 介護実習で使用する実習冊子に盛り込む予定。

●今回の研修資料を活用（6件）

- ◆ 今回研修でもらったレジュメを活用し作成。
- ◆ 実習指導の研修に数名参加しており、研修資料をもとに対応を考えている。

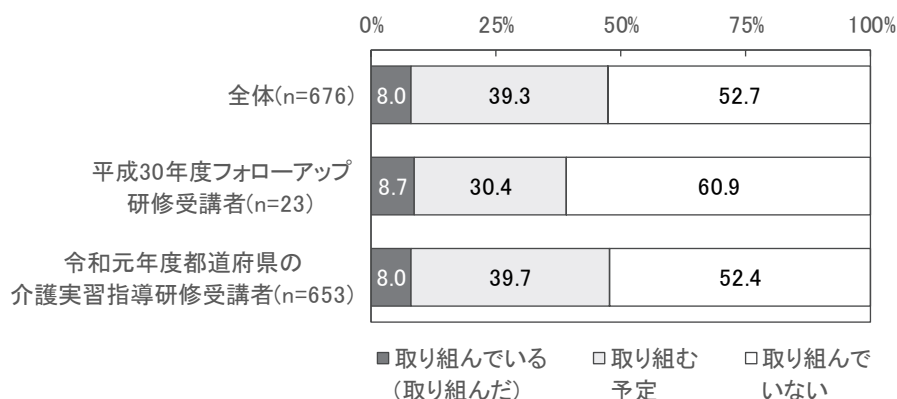
●資料作成のため資料を収集（3件）

- ◆ ネットから新しい指導要項をプリントしたが教材などはまだできていない。
- ◆ 介護実習指導者のためのガイドラインを参考に行っていきます。

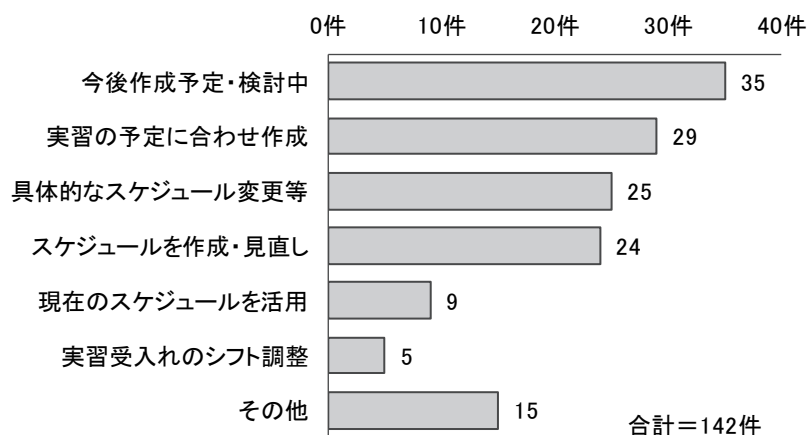
●その他（18件）

- ◆ 今までと大きく変更する必要はないと学校側から言われた。
- ◆ 自分が資料作成にかかわっていない。
- ◆ 今回の実習を経て検討する。

F：新カリキュラムに対応した介護実習指導を行うためのスケジュールをたてた



【具体的取り組み—自由記載の集計と抜粋】



●今後作成予定・検討中（35件）

- ◆ 介護実習Ⅰ・Ⅱの実習時期・日数の見直し後に取り組む予定。
- ◆ 時間内にどのように取り組めるか、担当スタッフと検討する。
- ◆ 来年度実習から取り組むためにできることを検討していく。スケジュールは、検討中である。

●実習の予定に合わせ作成（29件）

- ◆ オリエンテーション時に学生と相談。
- ◆ 介護実習受け入れ時に、スケジュールを作成しているので、今後も同様にしていく予定。
- ◆ 実習生受け入れの具体的なスケジュールが決まり次第、職種ごとの調整。
- ◆ 養成校の教師と一緒に検討しながら、作成したいと思っている。

●具体的なスケジュール変更等（25件）



- ◆ 1日の中で、通所送迎の付き添い、多職種職員とのコミュニケーションの時間を設ける。
- ◆ 介護過程の展開は時間を増やすようスケジュールを変更。
- ◆ 配属ユニット以外で実習を受ける機会を設けた。
- ◆ 前半中盤後半と時期に応じた実習内容を設定。
- ◆ 委員会やカンファレンスを追加する。機能訓練などの見学日を設ける。
- ◆ 地域における生活支援に関する内容追加に伴うスケジュール改変。

#### ●スケジュールを作成・見直し（24件）

- ◆ 他の専門職もわかりやすいスケジュールをつくる。
- ◆ 実習日程表をつくり変えた。
- ◆ 受入れチームで新スケジュールを作成する。
- ◆ 1日のスケジュール以外に時間別のスケジュールを作成。
- ◆ 養成校との連携を図りながら随時スケジュール作成。

#### ●現在のスケジュールを活用（9件）

- ◆ 何時も使っているスケジュール表を養成校と調整し、修正して行く。
- ◆ 年間受け入れ予定スケジュールを作成し、施設の年間行事と重なれば参加予定とする。
- ◆ 毎年、年度末に次年度のスケジュールは立てているので盛り込むのみ。

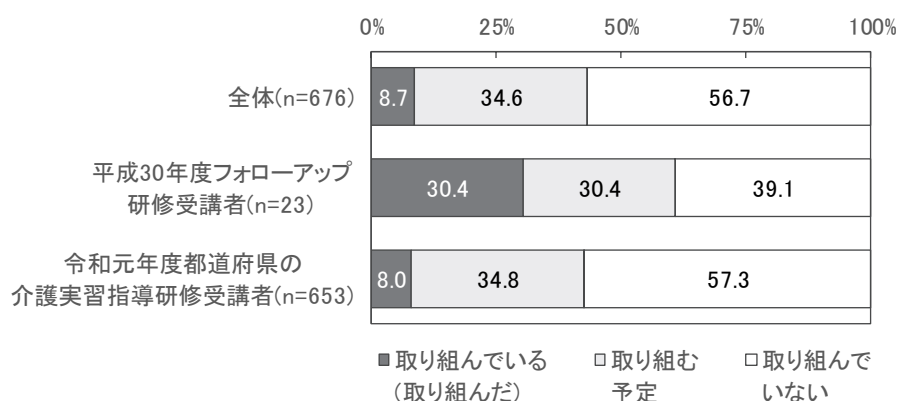
#### ●実習受け入れのシフト調整（5件）

- ◆ 指導にばらつきが出ないよう職員の振り分けと指導の統一を図る。
- ◆ 指導者と経験職員で組めるよう内容やフロアの検討。
- ◆ 多職種とのスケジュールの調整。

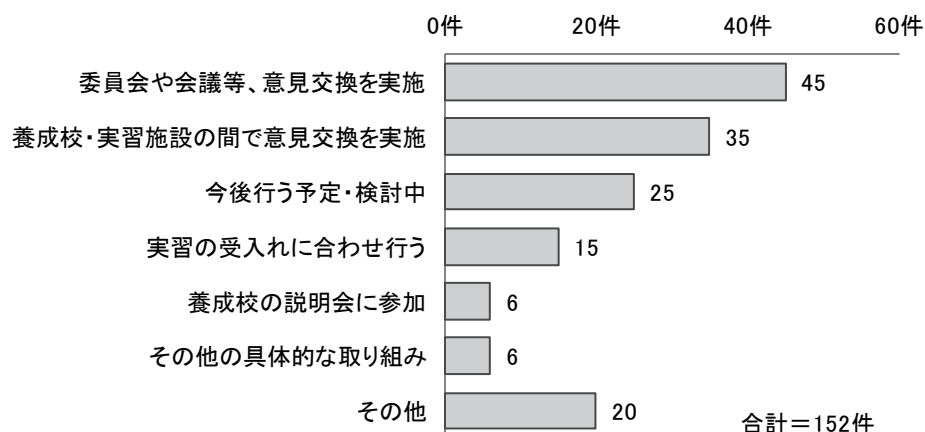
#### ●その他（15件）

- ◆ 実習時間の再確認と、実習場所の新規開拓。
- ◆ 話し合いをまずは行う。

G：養成校・実習施設の間で新カリキュラムに対応した介護実習指導を行うための話（会議）をした



【具体的取り組み—自由記載の集計と抜粋】



●委員会や会議等、意見交換を実施（45件）

- ◆ 毎年行っている実習指導者会において話し合いの時間を設ける予定。
- ◆ 教育委員会において指導マニュアルなどを作成予定。
- ◆ 取り組めていないが、会議等で話せる場を設けてもらう。

●養成校・実習施設の間で意見交換を実施（35件）

- ◆ 実習受け入れにあたり、養成校と話し合いする機会が設けられている。
- ◆ 学校側の担当と話し合い、内容の見直しを行った。
- ◆ 巡回指導時に確認する。
- ◆ 実習生の学校に出向き学校での授業の進め方や実習の進め方についての共有。
- ◆ 実習期間中のカンファレンスの時間に、先生のいる場で話し合う時間が取れればと考えている。

●今後行う予定・検討中（25件）

- ◆ カリキュラム見直し後、説明予定。
- ◆ 開催があれば参加予定。
- ◆ 今後求められてくる指導方法について関わる全職員の周知が必要と考えるため、提案中。

●実習の受け入れに合わせ行う（15件）

- ◆ 介護実習前に意見交換会を開く予定。
- ◆ 実習依頼前に、変更の概要、方針、変更・追加点等を指導者会議の中で説明する予定。
- ◆ 具体的な受け入れが決まってから、打ち合わせは行いたいと考えております。

●養成校の説明会に参加（6件）

- ◆ 養成校の実習振り返り会や実習説明会には必ず職員が参加している。
- ◆ 養成校の説明会に参加してすり合わせを行う。
- ◆ 養成校からの新カリキュラムの説明会があった。

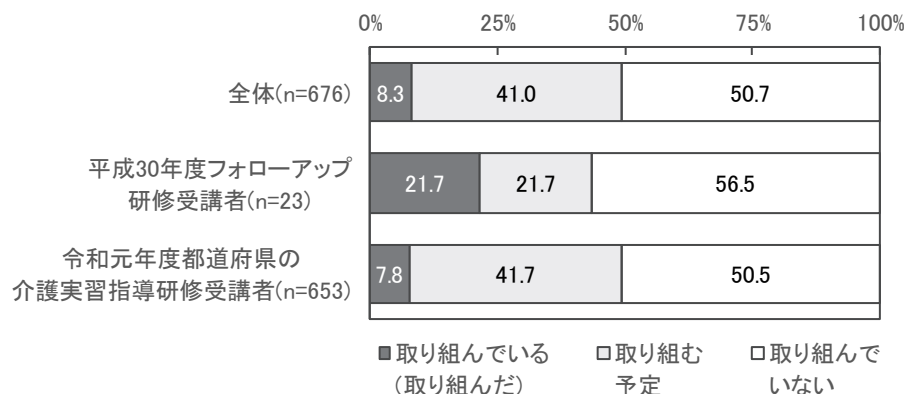
●その他の具体的な取り組み（6件）

- ◆ 実践に含むべき内容の伝達や調整など。
- ◆ 期間中の予定の説明を行い、要望の聞き取り。

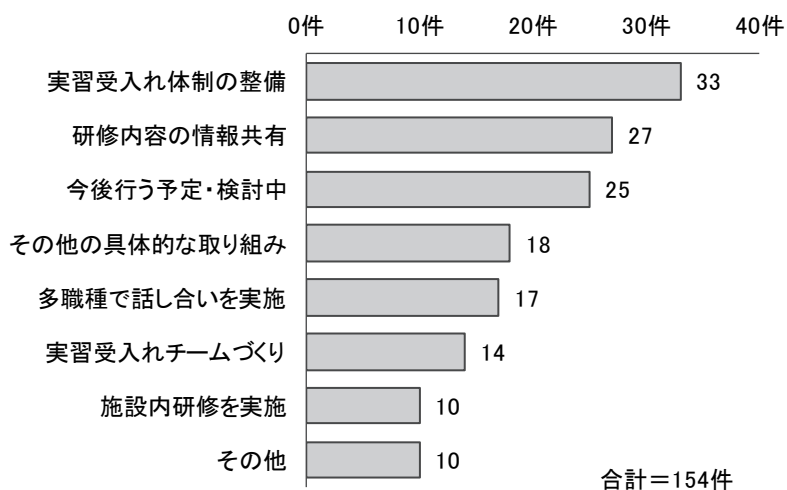
●その他（20件）

- ◆ 行いたいと思うが、現状取り組めていない。
- ◆ 学校から連絡があれば、参加をしています。
- ◆ 今年度は新カリキュラム対応ではないので、急いでいない様子があった。

H：介護実習の職場内の体制づくりについて、研修を反映した取り組みを行った



【具体的取り組み—自由記載の集計と抜粋】



●実習受入れ体制の整備（33件）

- ◆ 一定の技術指導の統一と職員の意識改革。
- ◆ 定期的の実習受け入れの会議や、職員を養成校に講師派遣し、体制改善に取り組んでいる。
- ◆ 学校ごとの実習指導者の担当制。
- ◆ 多職種連携について、日頃からスムーズに情報共有やチームケアができるよう連携の体制の見直しを行う。

●研修内容の情報共有（27件）

- ◆ 介護職員への落とし込み、また実習生に携わる職員とのミーティングを実施予定。
- ◆ 実習担当者を中心に各部署へ実習目的や実習内容を説明する。
- ◆ 職員の意識付けのため、指導の注意点や留意することを文書にして配布した。
- ◆ 介護実習指導研修受講者を増やし、情報共有者、協力者を増やす。

●今後行う予定・検討中（25件）

- ◆ 委員会設置の検討。
- ◆ 実習生が来るのが決まった時点で細かな話し合い情報交換と共有を行う。
- ◆ 3月の実習生受け入れ時から、研修を反映した実習指導が行えるようにしたい。

●その他の具体的な取り組み（18件）

- ◆ 実習生の指導表に介護過程の実践的展開、多職種との連携を取り入れ作成した。
- ◆ 幅広い年代を集めての委員会をつくった。
- ◆ リーダー教育に取り入れる。
- ◆ 人事異動などの課題もあるが、限られた職員のみが指導を行うのには勤務体制にも無理があるので、要件を満たした職員は指導者資格を取得していく。

●多職種で話し合いを実施（17件）

- ◆ 各職種との協力体制の強化を予定。
- ◆ 他職種にも共通認識を持ってもらい、実習生に声をかけてもらう。
- ◆ 多職種が集まる会議等で職場全体での取り組みと人材育成の重要性を伝える予定。

●実習受入れチームづくり（14件）

- ◆ 介護だけでなく、多職種の受入れチームの参加を求めた。
- ◆ 各担当で実習チームを作成する。
- ◆ 現状、指導者間の情報の共有があまりできていなかった。実習指導者会議の回数を増やし、チームとしての取り組みを始めたと思う。

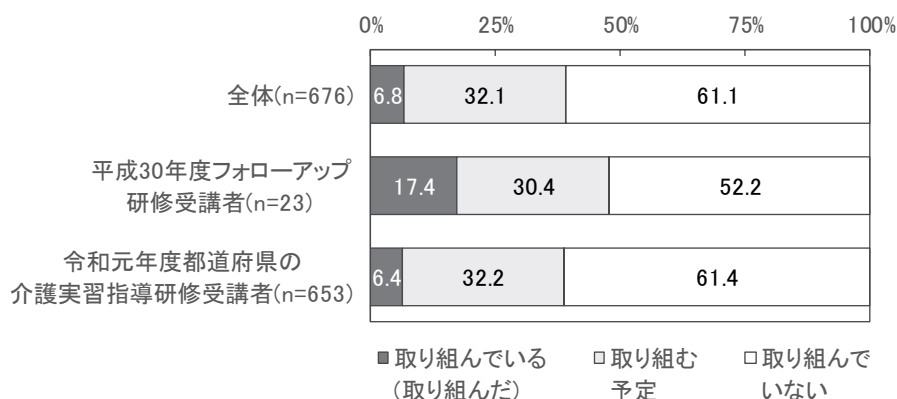
●施設内研修を実施（10件）

- ◆ 実習指導に必要な項目を内部研修会にて周知、マニュアルの変更を行う。
- ◆ まずは職場全体での人材育成制度の見直しや中堅職員のボトムアップなどの勉強会や研修制度の見直しを図っている。
- ◆ 職場会議内での研修会（勉強会）の実施。

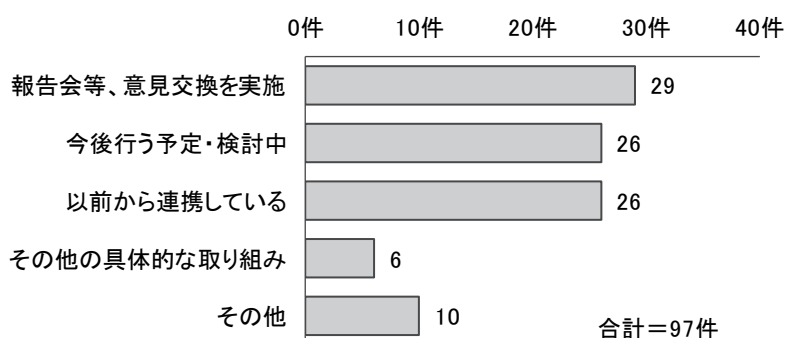
●その他（10件）

- ◆ 役割も明確になっておらず、指導者の育成がまだ追い付いていない。
- ◆ 予定ではあるが、研修を反映した取り組みをしていないのが現状です。

I：介護実習の連携体制づくり（実習施設・養成校の間）について、研修を反映した取り組みを行った



【具体的取り組み—自由記載の集計と抜粋】



●報告会等、意見交換を実施（29件）

- ◆ 意見交換会をはじめ、担当教諭との連絡を密にしている。
- ◆ 学校側開催の連携会参加。
- ◆ 実習期間中の教員巡回時の報告や相談など、しっかり話し合いができるような勤務体制づくり。

●今後行う予定・検討中（26件）

- ◆ 次年度、養成校からの依頼があれば、検討していきたい。
- ◆ 実習期間中のカンファレンスの場で、先生を交えて協議できればと考えています。
- ◆ 教員との目標合わせや関係づくりをしていきたい。

●以前から連携している（26件）

- ◆ 今までも細やかにしてきたことなので、継続して行っていく予定。
- ◆ 今まで以上に養成校との連携を図りたいと思っている。
- ◆ 講師派遣・養成校主催の研修への参加を協力している。

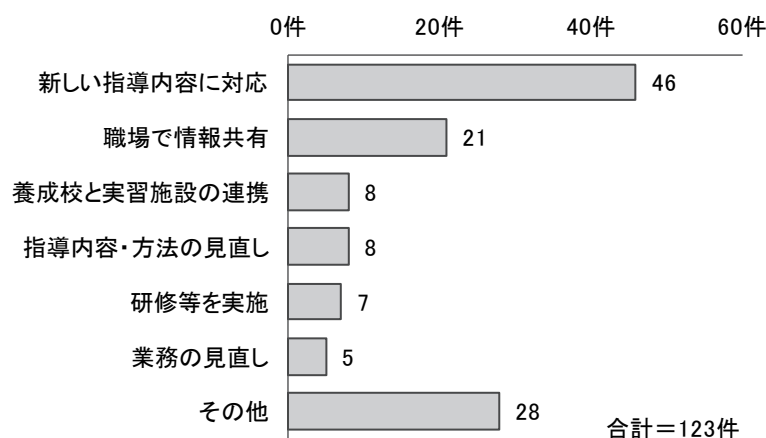
●その他の具体的な取り組み（6件）

- ◆ 実習計画に新カリキュラムを入れたことを、実習中の先生の訪問時に伝えた。
- ◆ 養成校からの提案に対しても、前向きに検討していきたい。
- ◆ できる限り学校でのカリキュラムにそった実習の進め方を考えている。
- ◆ 施設で作成した実習中に経験した技術の一覧表を学校側に渡します。

●その他（10件）

- ◆ これからはもう少し、何か聞きたいことがあればすぐに連絡し、対応していく。
- ◆ 養成校の先生にお伝えしました。日程が合えば可能です。

J：その他、新カリキュラムに対応した介護実習等を行うために、具体的に取組んだこと（取組む予定であること）をお聞かせください



#### 【具体的取組み—自由記載の抜粋】

##### ●新しい指導内容に対応（46件）

- ◆ 実習期間内でのカンファレンスや担当者会議を開催し、出席できるようにする。
- ◆ 実習受入れチームの構築と、チームでの実習への理解を深めていく。
- ◆ 学生が実習施設で行われる行事（地域住民も参加する催し・イベント等）に参加する。
- ◆ 新カリキュラム対応のより詳細なレジユメの作成。

##### ●職場で情報共有（21件）

- ◆ 職場内での伝達講習および実習受け入れのための会議を行う予定。
- ◆ 関わる職員に説明し理解と協力をしてもらう。
- ◆ 施設全体で実習生を育てる事の必要性を全職員へ伝え、介護人材の確保につながる事を意識してもらう。

##### ●養成校と実習施設の連携（8件）

- ◆ 実習施設の「実習受入れチーム」と養成校の「実習担当者=3領域の教員」との連携を模索中である。
- ◆ 介護福祉士会を通して現場と学校との連携。
- ◆ PC、ラインなどで常に担当教諭との連携ができるよう検討している。

##### ●指導内容・方法の見直し（8件）

- ◆ 医療職（主任看護師）の担当を配置して、学生の実践に対応する。



- ◆ 実習生の毎日の担当をなるべく統一して、実習生の教え方の混乱を防ぐ。
- ◆ 重度の認知症ゾーンに実習期間中に1日入ってみる(検討中)。

●研修等を実施(7件)

- ◆ 介護過程の勉強会を実施。今後も継続予定。
- ◆ 実習指導者と介護福祉士を集めて、研修と周知会を実施予定。

●業務の見直し(5件)

- ◆ 業務の見直し(会議開催や職員ミーティング参加が可能となるように)。
- ◆ 施設内での連携のあり方、また連携がとりやすいように組織図等の作成。

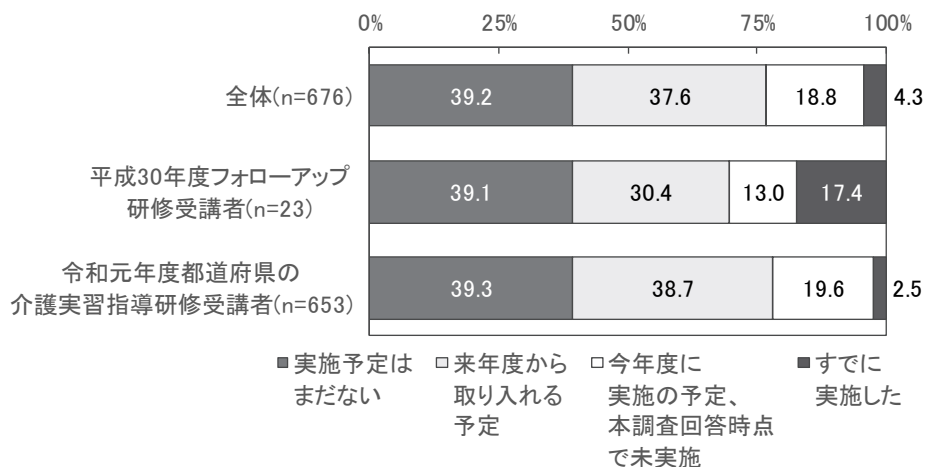
●その他(28件)

- ◆ 課題は明確だが会議の時間をつくるのが難しく、まずその時間をつくることに努めたい。
- ◆ 実習生の心のケア。
- ◆ 実習生を受け入れている施設へ連絡をして、参考とし、今後の取り組みに向けて始動したい。
- ◆ 内容によっては、居宅支援事業所へも協力を依頼したい。

## ⑦新カリキュラムに対応した介護実習の実施状況

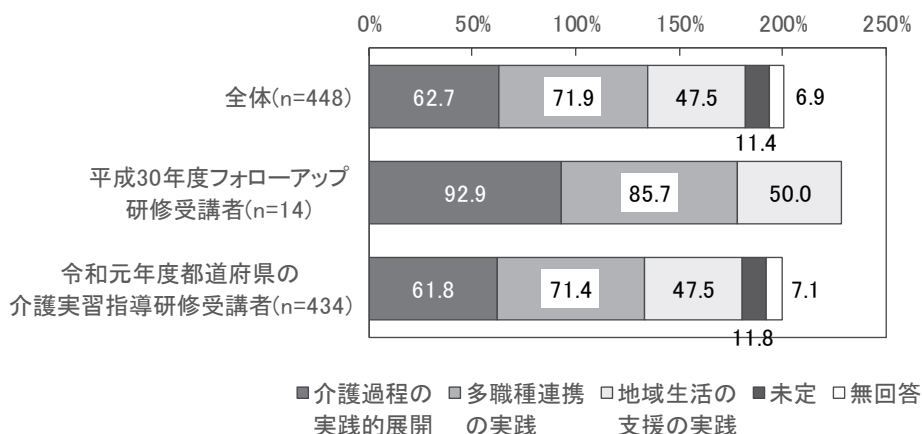
問4 貴施設、貴校における新カリキュラムに対応した介護実習の実施状況についてお聞かせください。

※介護実習に関し、新カリキュラムの全部ではなく一部についてのみ取り入れた場合も「実施」ととらえてください。



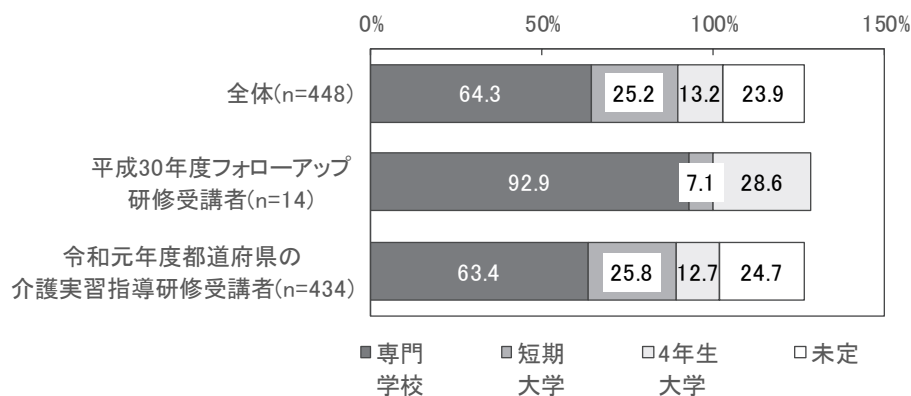
### ⑦-1 具体的に取り入れた（取り入れる予定の）新カリキュラム内容

問4-1 具体的に取り入れた（取り入れる予定の）新カリキュラム内容はどれですか。（複数回答可）



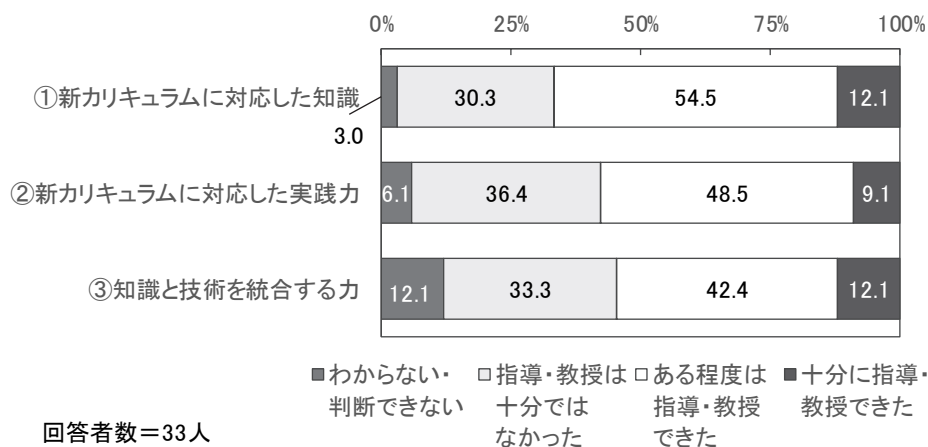
## ⑦-2 新カリキュラム対応の介護実習を取り入れた（取り入れる予定の）実習生

問4-2 新カリキュラムに対応した介護実習を取り入れた（取り入れる予定の）実習生は以下のどれですか。（複数回答可）



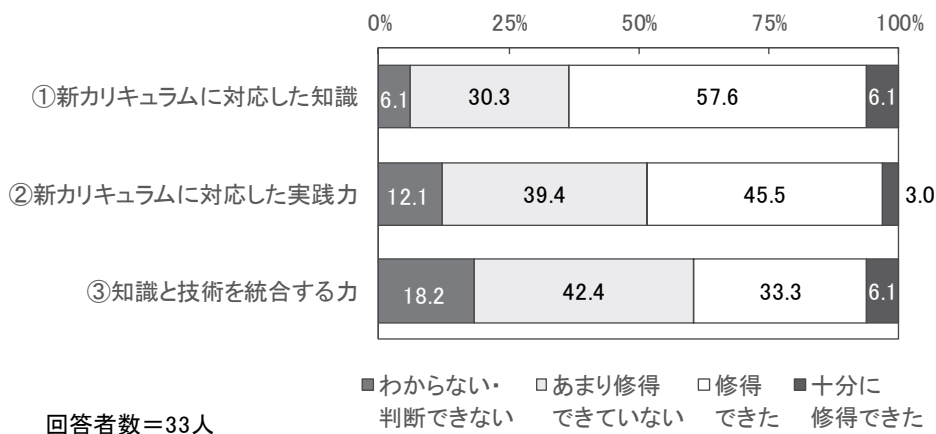
## ⑦-3 新カリキュラムに対応した介護実習の指導・教授

問4-3 新カリキュラムに対応した介護実習の指導・教授に、あなた自身はどの程度対応できましたか。



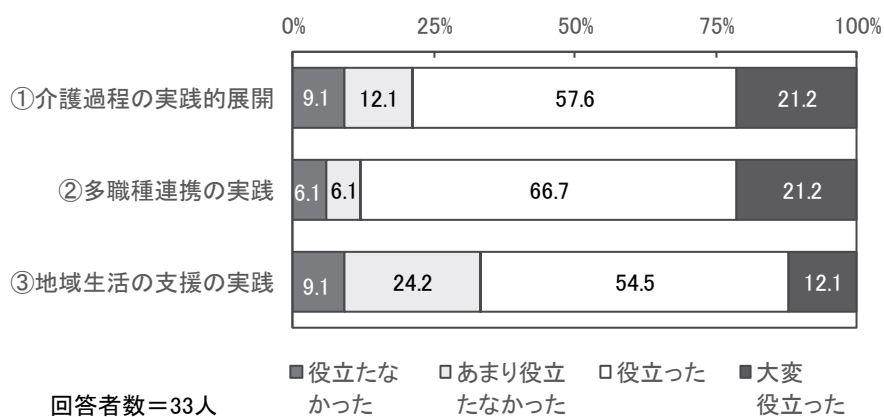
### ⑦-4 新カリキュラムに対応した介護実習を行った実習生への効果

問4-4 新カリキュラムに対応した介護実習を行った実習生について、どのように判断しますか。複数の実習生がいる場合、総合的な判断としてご回答ください。



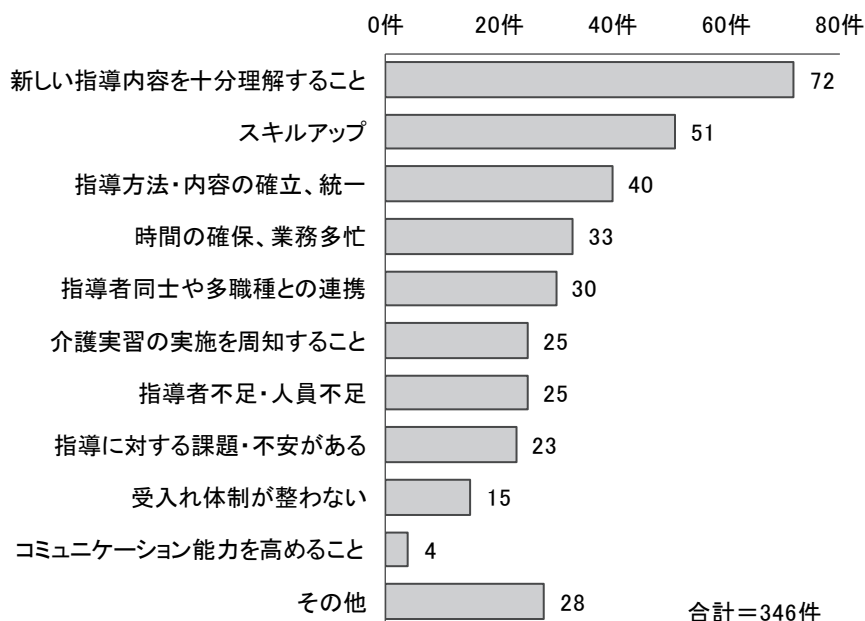
### ⑦-5 研修の効果

問4-5 新カリキュラムに対応した介護実習の実施にあたり、研修内容は役立ちましたか。



## ⑧実習指導者の課題

問5 新カリキュラムに対応した介護実習の実施にあたり、実習指導者の課題と覚えることがあればお聞かせください。



### 【具体的取り組み—自由記載の抜粋】

#### ●新しい指導内容を十分理解すること（72件）

- ◆ 指導者自身が過去に学んだ知識のままで止まり、現状の教育を知らない。
- ◆ 施設職員に介護過程の展開を理解してもらう必要がある。
- ◆ 新カリキュラムの内容と実習内容の変更点の理解、職場内の周知と協力体制の確立。
- ◆ 入所施設の介護職は、地域生活の支援については、ほとんど理解できていない。

#### ●スキルアップ（51件）

- ◆ 介護過程の展開の根拠について、説明能力が不足と感じている。
- ◆ 学生のレベルに合わせて指導できる技量が必要。
- ◆ 自身の技術・知識の向上に努めること。
- ◆ 実習指導者以外の職員を一定レベルへ底上げする。

#### ●指導方法・内容の確立、統一（40件）

- ◆ 学生への個人対応も重要なためマニュアル通りには進まない。どの様に理解してもらえるかの指導方法の確立が課題。
- ◆ 指導者が介護職員に限られている。多職種でチームをつくり、指導体制を強化する必要あり。
- ◆ 指導力に差がある。また、施設によって、実習内容に差がある（さまざまな支援を実習指導者と一緒に行う施設もあれば、コミュニケーションが中心の施設もある）。
- ◆ 具体的にどれだけの指導を行えばいいのか基準がない。
- ◆ 具体的に何を伝えるかをはっきりさせる必要がある。研修内容が抽象的であったと感じたため。

#### ●時間の確保、業務多忙（33件）

- ◆ 研修スケジュールと自身の業務調整。
- ◆ 現場が忙しいため、実習生を直接指導する時間が少ない。実習内容にそった指導ができず、業務中心に実習生を動かしている。「予定は未定」のような実習計画。
- ◆ 実習期間の業務負担が大きい。
- ◆ 業務量が多くて指導だけに集中できない。外国人の指導は言葉の壁もあり、うまく伝わらない。

#### ●指導者同士や多職種との連携（30件）

- ◆ 実習指導者間での情報の共有。
- ◆ 実習指導者担当は、介護職員でのみ構成されており、看護師、PTなど、多職種を巻き込む必要がある。
- ◆ 実習生をチームでフォローする。養成校の先生との関わりを密にする。
- ◆ 複数いる指導者個々の価値観や意見の違いのまとめ方。

#### ●介護実習の実施を周知すること（25件）

- ◆ 指導内容の周知。
- ◆ 手順書を改訂した後の周知徹底。実習生それぞれの特性に応じた個別対応。
- ◆ 職場において、職員間における情報の共有。
- ◆ 実習にあたる職員全員に周知徹底できるか。

#### ●指導者不足・人員不足（25件）

- ◆ 実習指導者資格保有者が少ないため、指導に手が回りにくい。
- ◆ 質の高い実習指導者の後進育成。
- ◆ 指導者の人数を増やし、協力体制をつくらないと、実習生が実りない実習になってしまう。

●指導に対する課題・不安がある（23件）

- ◆ まだ、実施していないが、地域との連携をどのように伝えるのか？が課題。
- ◆ 全てのことが自分一人で行えるか不安。
- ◆ 多職種との連携で、グループホームなので、医療は知ることができるがリハビリ等を教えるのが難しい。
- ◆ 実績が少なく指導に対する不安がある。
- ◆ 福祉系の学校を出ていないので、どんな勉強を学生がしているのか、実習しているのか自身が経験なく、苦勞や、気持ちの把握が薄い。
- ◆ 会議などの実施のタイミングがあわないものがある。

●受入れ体制が整わない（15件）

- ◆ 実習マニュアルの更新や、新カリキュラム内容の研修などを行えていないこと。
- ◆ 自分自身のユニットで受け入れができていないため、受入れ体制をつくること。
- ◆ 職員への教育、指導がしにくいのが現状。
- ◆ カリキュラムへの対応が間に合っていない。業務が多く準備できていない。
- ◆ 変則勤務が多い。

●コミュニケーション能力を高めること（4件）

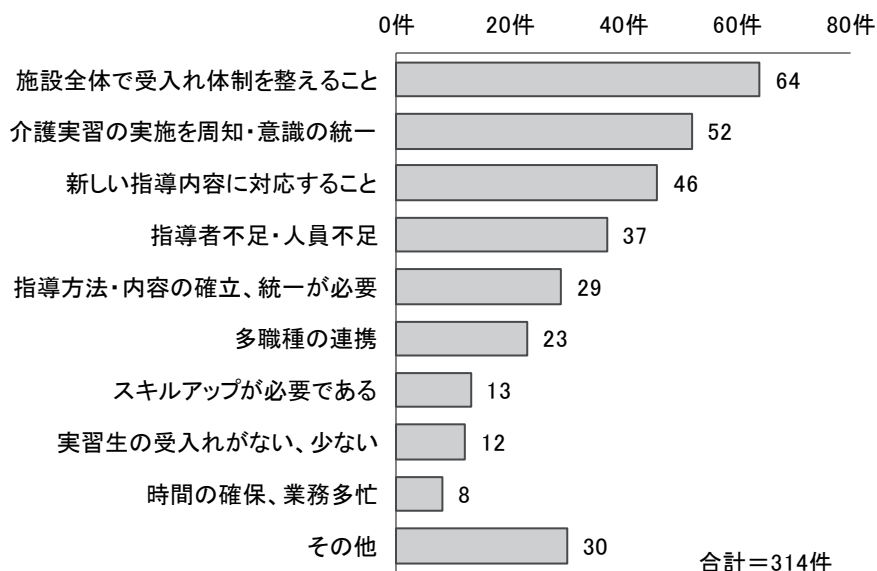
- ◆ コミュニケーション能力の構築

●その他（28件）

- ◆ 毎回同じ実習指導者がつくことが難しい。
- ◆ 実習生を受け入れることへの身体的、精神的負担の軽減を図る。
- ◆ 勤務上いつも一緒にいられない。
- ◆ 施設の実習内容の把握。

## ⑨実習施設の課題

問5 新カリキュラムに対応した介護実習の実施にあたり、実習施設の課題と  
 感じるものがあればお聞かせください。



### 【具体的取り組み—自由記載の抜粋】

#### ●施設全体で受入れ体制を整えること（64件）

- ◆ 施設全体での共有、協力体制を継続して行く。
- ◆ 実習生の指導となるチームができていないので、実習生を現場に丸投げになっている状況。
- ◆ 指導者が実習生を受け入れる期間の勤務体制と人員の配置。
- ◆ 受け入れる施設自体の体制づくりや、実習指導を行っていく意義などを理解した上での指導体制が課題。

#### ●介護実習の実施を周知・意識の統一（52件）

- ◆ 会社の理解が得られるか。
- ◆ 指導者以外のスタッフによる実習受け入れの理解度。
- ◆ 施設の課題としては、受け入れる時に実習生が何を学びにきているのかを認識すること。
- ◆ 複数いる指導者個々の価値観や意見の違い。職種別による意見の違い。

#### ●新しい指導内容に対応すること（46件）



- ◆ スタッフ全員が新カリキュラムについて把握できるか。
- ◆ 介護過程の展開ができていない。
- ◆ 地域生活の支援場面を実習の体験学習できるタイミングや内容の調整。
- ◆ 地域連携や多職種協働の実習では施設の全部署の協力が必要。

#### ●指導者不足・人員不足（37件）

- ◆ 現場で介護過程を指導できる介護職員が少ない。
- ◆ 指導者の育成体制が整わない。
- ◆ スタッフ不足などにより、マンツーマンの指導が行えない。指導チームづくりが難しい。
- ◆ 人手不足で、バタバタしたフロアの中、ゆっくりと教えてあげられる時間が取れない。
- ◆ 人員不足の中、指導力がどこまであるのか等、現在不安要素が多い。

#### ●指導方法・内容の確立、統一が必要（29件）

- ◆ 指導者以外のスタッフが指導する際の指導内容の統一。
- ◆ 法人内に複数の事業所があるので、事業所によって指導内容にばらつきがでないように、マニュアルの統一を図る必要があること。
- ◆ 実習中の担当職員の質の平均化、担保が非常に困難である。

#### ●多職種の連携（23件）

- ◆ なるべく多職種との関わり、役割について指導していきたいが、担当者会議等の開催時間の調整がうまくいけるか？
- ◆ 各職種で実習生を受け入れているが、多職種の連携まで達していない。

#### ●スキルアップが必要である（13件）

- ◆ 現場での指導者の指導力の向上。
- ◆ 他の職員への知識の統一。
- ◆ スタッフの知識不足。

#### ●実習生の受け入れがない、少ない（12件）

- ◆ 年々、養成校入学者の減少により実習の依頼が少なくなっている。
- ◆ 自施設は実習生受け入れ経験がない。実習生に来てもらえるように質の向上が必要。

●時間の確保、業務多忙（8件）

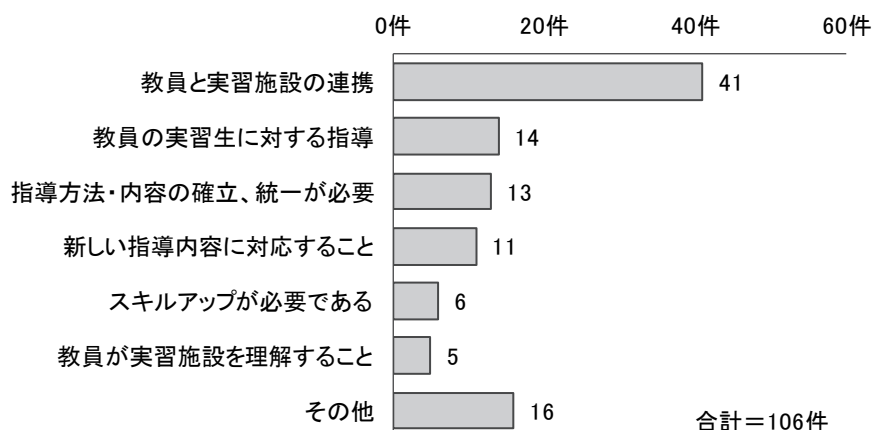
- ◆ 実習指導者の後進を育成する時間の確保（教える側と教えられる側の双方）。
- ◆ 現状の業務量が増えてくると、実習生に対しての対応が薄くなっていく。
- ◆ 業務プラス実習受け入れとなるので負担がある。

●その他（30件）

- ◆ 実習施設側が、人材ほしさに「実習指導」よりも学生の「おもてなし」になっていることが多く、きちんとした学習につながっていないと感じられる施設が増えてきた。
- ◆ 学生と指導者の相性を考慮し、タイムリーに意見を吸い上げていく姿勢。
- ◆ 受け持ち利用者を選定する際、比較的同じ利用者が繰り返し受け持ち利用者として選定されやすい。
- ◆ 就職に結びつかない。
- ◆ 利用者様のプライバシーに配慮するため、家族の同意もその都度得る必要がある。理解を求めていかなければならないと感じている。
- ◆ 受入れ人数が少ない。
- ◆ 外国人の受け入れ。

## ⑩養成校教諭・教員の課題

問5 新カリキュラムに対応した介護実習の実施にあたり、養成校教諭・教員の課題と感ずることがあればお聞かせください。



### 【具体的取り組み—自由記載の抜粋】

#### ●教員と実習施設の連携（41件）

- ◆ 教員と施設指導者との情報共有不足。
- ◆ 実習指導者、実習生とのコミュニケーション不足の解消。
- ◆ 生徒の成績や課題をしっかりと教えてほしい。
- ◆ 要望などを具体的に伝えてほしい。

#### ●教員の実習生に対する指導（14件）

- ◆ 事前学習にて実習生の理解度のアップ。
- ◆ 情報収集ツールの書式や目標設定の理解、タイムスケジュールのたて方などの育成は、事前に理解をした上での実習開始が必要。
- ◆ 新カリキュラムの内容を生徒さん方に伝えて施設実習の場で、生徒さん一人ひとりがその内容を意識して取り組んでもらう必要があること。
- ◆ 巡回時、学生への記録指導の時間が増え、介護現場で実際に実習している様子を見る時間が減少している。
- ◆ 多様化する学生、外国人留学生の対応など本来の教育以外の指導に費やす時間が多い。
- ◆ 学生が高い実習目標を掲げていることが多いため、学生に対する個別教育の徹底が必要なのではないか。

●指導方法・内容の確立、統一が必要（13件）

- ◆ 介護総合演習の担当教員と実習巡回の教員との共通理解。
- ◆ 教員間で実習指導に対する指導に相違がある。
- ◆ 具体的事例の持ち数が少ない。
- ◆ 評価基準、事例を用いた介護過程の展開方法指導。

●新しい指導内容に対応すること（11件）

- ◆ 介護過程の内容を生徒に理解させる教材作成。
- ◆ 新カリの視点と段階的実習内容の共有化。
- ◆ 新カリキュラムの各科目のシラバス変更に伴う、科目間の連携。
- ◆ 新カリキュラムを取り入れていくことでの現場とのギャップ。

●スキルアップが必要である（6件）

- ◆ 実習巡回教員の資質（養成校により格差が激しい）。
- ◆ 教員自身の研鑽、介護実習を充実させるための事前・事後の指導や巡回指導方法の再検討、実習施設との連携強化。

●教員が実習施設を理解すること（5件）

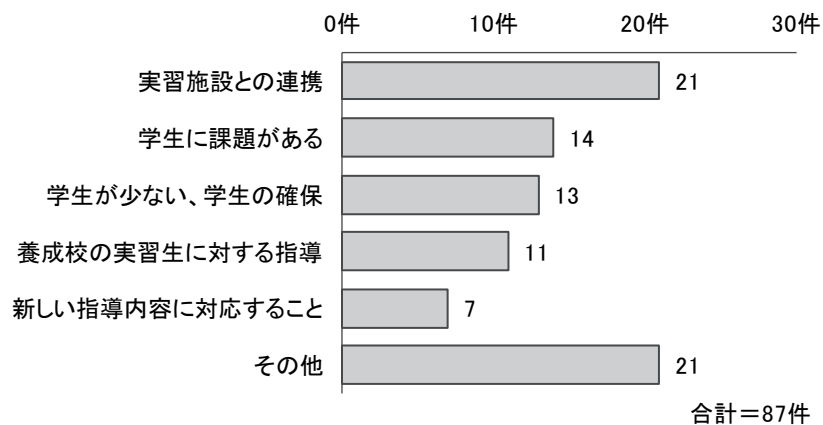
- ◆ 施設現場の仕事の把握。
- ◆ ユニットや従来型など実習施設の仕組みや介護士の配置など、しっかり理解していない人がいる。

●その他（16件）

- ◆ 担当教員とその他教員の情報共有など。
- ◆ 介護の魅力を伝え、やりがいを感じてもらおう。
- ◆ 教員間の共通認識が大切です。教員もじっくり取り組む時間がほしい。

## ⑪養成校の課題

問5 新カリキュラムに対応した介護実習の実施にあたり、養成校の課題と感  
じることがあればお聞かせください。



### 【具体的取り組み—自由記載の抜粋】

#### ●実習施設との連携（21件）

- ◆ 実習施設の概要を理解した上で、実習指導者と連携しながら実習をすすめること。
- ◆ 養成校からのマニュアル、資料等がない。
- ◆ どんな介護福祉士を養成したいのか学校のビジョンが見えない。
- ◆ 養成校での書式の統一。

#### ●学生に課題がある（14件）

- ◆ 意欲やモチベーションが低い実習生がいる。
- ◆ 福祉を学ぶ以前に国語力が低く、記録の文章に課題がある。
- ◆ 学生の受け身姿勢による学び。

#### ●学生が少ない、学生の確保（13件）

- ◆ 学生数が少ないため、設備投資ができない現状。学生間の競争原理がはたらくにくい状態。
- ◆ 学生数が少なく先細りの状態で将来が不安。
- ◆ 生徒数の減少と外国人学生の急増。
- ◆ 学生をいかに増やしていくか。

●養成校の実習生に対する指導（11件）

- ◆ 実習にあたる前の準備不足。
- ◆ 専門性や実習期間での目標の達成への取り組み。
- ◆ 外国人学生が多くなってきており、介護ではない日本語、習慣などの指導が追い付いていないと思う。

●新しい指導内容に対応すること（7件）

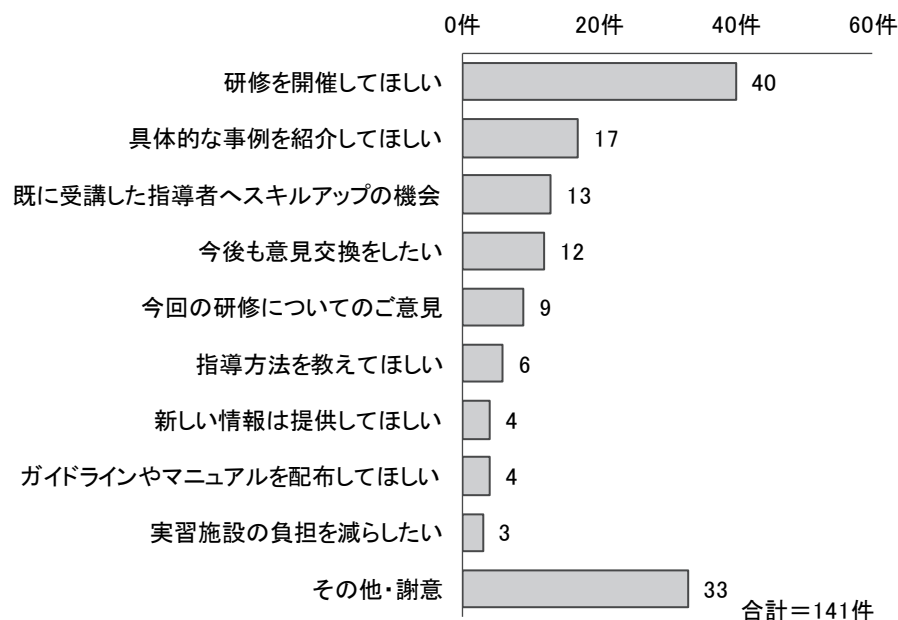
- ◆ 実習課題の見直し検討。
- ◆ カリキュラムに対する活動を始めていない。
- ◆ 今回の新カリキュラムを理解してどのように指導するべきかを、養成施設間でも勉強会等が持てるような体制ができると良い。

●その他（21件）

- ◆ 教員間の共通認識の機会を設け、教員の成長を促す。
- ◆ 養成校によって目標値が違うこと（戸惑いがあります）。
- ◆ 障害児・者施設への実習が、第一段階実習の養成校が多いこと。
- ◆ 介護福祉士と社会福祉士の両方が取得できるような4年制大学は、さらに強みになると思います。

## ⑫新カリキュラムに対応した介護実習指導者の養成研修への要望等

問6 新カリキュラムに対応した介護実習指導研修（介護実習指導者の養成研修）について、要望等があればお聞かせください。



### 【具体的取り組み—自由記載の抜粋】

#### ●研修を開催してほしい（40件）

- ◆ 更新制度ではないが、定期的な研修は必要に感じる。
- ◆ 初めて受け入れる施設への研修があれば行ってほしい。
- ◆ 評価について、指導者によって基準値に差があるのではと不安に思うことがある。そのあたりも研修で触れてもらえるとありがたい。
- ◆ 指導者のみの研修でなく、介護福祉士に向けた研修体制が必要では。業務のみで様々な制度などの変更も知らない。地位向上を図れるように。
- ◆ 一般職員への介護実習についての勉強会の開催を実施してほしい。
- ◆ 今後も実習指導内容が変更、追加等があると思うので是非定期的に研修会を開いてほしい。
- ◆ 新カリキュラムに特化した研修があればと思います。

#### ●具体的な事例を紹介してほしい（17件）

- ◆ 私の施設と似たような規模でうまくいっている施設の成功事例を知りたい、参考にしたい、欲を言えば見学に行ったり、何日か体験できたらなおありがたいです。
- ◆ 実際に使っている書式や事例の検討会があれば参加したい。

- ◆ わかりやすく良かったが、実際の受け入れの場合は他施設でのモデル的取り組み事例などが知りたいし、相談窓口がほしい。
- ◆ 外国人実習生への各施設における取り組みを知りたい。

#### ●資格取得済みの指導者にスキルアップの機会（13件）

- ◆ 定期的開催をしてくれると今回参加できなかった指導者講習修了者に参加してもらえる。
- ◆ スキルアップや情報共有できる場が必要と感じる。資格をもったからのスキルアップや、情報共有、その時代にあった方法など学ぶ場が少ない。
- ◆ 現在業務に従事している介護福祉士への研修制度があってもいいのでは。自身の後輩を育てるが、内容の変更等の理解ができていない(指導者のみの負担にならないように)。
- ◆ 資格を持つ者は年に数回の講習が必要ではないかと感じた。

#### ●今後も意見交換をしたい（12件）

- ◆ 実際の現場での取り組みを共有できて良かった。今後も続けてほしい。
- ◆ 養成校と実習指導者の意見交換の場を設けてもらいたい。
- ◆ 実習担当者が、意見交換できる場がほしい。他施設では、どのような実習内容を組んでいるのか、話を聞いてみたいと思います。

#### ●今回の研修についてのご意見（9件）

- ◆ 1日の研修で駆け足と感じたので、もう1日増やす、時間数を増やすなど詳しく丁寧に説明していただけたらわかりやすいと思う。
- ◆ ポイントはわかりやすかったが、より実践に近いかたち、実践に対応できる研修をしてほしい。
- ◆ 他施設の方との意見交流ができる場であると思います、他の施設のマニュアルやスケジュールを課題として持参し、意見交換等があるとより良いものになると思う。

#### ●指導方法を教えてほしい（6件）

- ◆ 現場で必要な指導法を細かく伝えてほしい。
- ◆ 実習生との接し方や環境づくり、指導する際のNG例など、倫理性を養う学びもあってもよいかと思った。
- ◆ 短い実習期間中に、様々なことを学習していただくために、受け入れ側として、配慮すべき事柄を認識しておきたい。

#### ●新しい情報は提供してほしい（4件）

- ◆ 常に新しい情報を知りたい。



- ◆ 内容が変わる際には、早めに連絡をする。
- ◆ カリキュラムなどが変わる際、もう少し早い段階で研修があればよいと思いました。新カリキュラムの研修を受ける前にすでに実習生が来ていたので。

●ガイドラインやマニュアルを配布してほしい（4件）

- ◆ ガイドライン等、冊子化の要望。今後も、フォローアップ研修を、定期的に開催してもらえればと思います。
- ◆ 実習生の受け入れのマニュアル資料があればいただきたい、参考にしたい。

●実習施設の負担を減らしたい（3件）

- ◆ できるだけ多くの実習指導者に受講してもらい、共通認識を持って、今後のよりよい実習体制を実習施設に大きな負担をかけずにできるよう一緒に考えていきたい。

●その他・謝意（33件）

- ◆ 養成校での内容や、指導内容、学生の指導に対する養成校の思いを深く知りたい。
- ◆ 新カリキュラムに対応した介護実習指導研修が、本来の実習指導者講習会で学べるように、早期のテキスト改訂等をお願いいたします。
- ◆ 養成校で使われている教材などの情報があれば嬉しい。
- ◆ とても良かったです。多職種の職員も協力して実習指導に取り組めるようになりました。
- ◆ わかりやすく理解することができました。ありがとうございました。他の施設との意見交換は仕事について振り返る貴重な時間でした。

## **(4) 効果検証アンケート結果のポイント**

### **① 受講後の取り組み\_\_A～Iの9項目**

以下ではA～Iそれぞれについて、研修後の研修修了者による取り組み（予定を含む）の状況をまとめているが、A～Iについて1つでも「取り組んでいる（取り組んだ）」と回答した人は、回答者 676 名のうち 272 名、40.2%であった。「取り組む予定」を含めると 563 名、83.3%がA～Iについて何等かの取り組みをする（予定を含む）と回答している。

### **② 受講後の取り組み\_\_A：職場で研修内容を発表・報告**

受講後の取り組みとして、職場で研修内容を発表・報告するなどして情報を共有した割合は 29.3%、取り組む予定は 42.8%、合わせて 72.1%である。A～Iの9項目のうち、受講後の取り組み（予定を含む）の中では最も取り組まれた割合が高い。

自由記載においては、会議・研修会等で報告（122 件）、レポートをつくり報告・周知（66 件）などが多くみられたが、申し送りや上司への報告、資料の配付・回覧などの報告事項で留まる記載もみられた。

### **③ 受講後の取り組み\_\_B：新カリキュラムに対応した介護実習を行うための会議や検討を実施**

職場で新カリキュラム対応のための会議や検討を実施（設置）した割合は 8.7%、取り組む予定は 45.0%、合わせて 53.7%である。A～Iの9項目のうち、2 番目に取り組まれた（予定を含む）割合が高い。

自由記載においては、会議や検討を実施（60 件）、実習内容や受入れ体制について検討（47 件）などの記載が多くみられた。介護過程の指導に向けて使用ツールの見直しや個別介護計画とケアプランの適合性の確認をしたり、多職種連携に向けて他職種への協力依頼や指導方法・内容の検討・調整、地域の資源を確認するための検討を始めるなどの記載もあった。介護実習における「教育に含むべき事項」を受けとめて、一つひとつについて指導内容の確認や体制を整える取り組みがなされていた。

#### ④受講後の取り組み\_\_C：新カリキュラムをさらに深める学び

新カリキュラムをさらに深める学びに取り組んだ割合は6.7%、取り組む予定は37.4%、合わせて44.1%である。A～Iの9項目の取り組みのうち6番目であり、9項目の中では取り組まれた（予定を含む）割合は低い。

自由記載においては、勉強会・研修会の実施（72件）、指導の仕方・内容を検討（24件）の記載が多くみられた。リーダー同士で勉強会、実習指導者に対し勉強会を実施、会議にて介護過程・多職種協議・地域生活支援について勉強会などの取り組みが行われていた。報告の多くは、個々の勉強会あるいは施設内での組織的取り組みであった。少数ではあるが、研修としての位置づけで知識を深める取り組みもなされていた。

#### ⑤受講後の取り組み\_\_D：新カリキュラムに対応した介護実習のためのマニュアルの変更・追加・作成

新カリキュラムに対応した介護実習のためのマニュアルの変更・追加・作成に取り組んだ割合は7.8%、取り組む予定は45.1%、合わせて52.9%である。A～Iの9項目の取り組みのうち、3番目に取り組まれた（予定を含む）割合が高い。

自由記載においては、マニュアルを見直し・追加（97件）など、マニュアルを「教育に含むべき事項」等にあわせて改定した（する予定）という記載が多いが、新たにマニュアルを作成した（する）などの取り組みも報告された。

#### ⑥受講後の取り組み\_\_E：新カリキュラムに対応した介護実習に関する資料や教材を作成

新カリキュラムに対応した介護実習に関する資料や教材を作成した割合は6.2%、取り組む予定は29.6%、合わせて35.8%である。A～Iの9項目の取り組みのうち9番目であり、9項目の中では取り組まれた（予定を含む）割合は最も低い。

自由記載においては、今後作成予定・検討中（37件）、資料を作成（25件）などの記載が多かった。主に職員や実習生に向けた資料等の作成が行われており、オリエンテーションで使用するしおりの見直し、実習指導にあたる職員に向けた新カリキュラム対応内容の周知の資料、新カリキュラムに対応した実習計画と進行状況の表作成などがあげられた。研修で使用された資料が活用されていたり、これらをヒントに新たな資料が作成されている状況がみられた。

### **⑦受講後の取り組み\_\_F：新カリキュラムに対応した介護実習指導を行うためのスケジュール**

新カリキュラムに対応した介護実習指導を行うためのスケジュール作成に取り組んだ割合は8.0%、取り組む予定は39.3%、合わせて47.3%である。A～Iの9項目の取り組みのうち、5番目（中央）である。

自由記載においては、養成校の実習方針等と連携を図りながらスケジュールを組み立てた、新カリキュラムの内容をスケジュールに落としたなど、研修を受けて新カリキュラムに対応する具体的な取り組みがみられた。

### **⑧受講後の取り組み\_\_G：養成校・実習施設の間で新カリキュラムに対応した介護実習指導を行うための話（会議）を実施**

養成校・実習施設の間で新カリキュラムに対応した介護実習指導を行うための話（会議）を実施した割合は8.7%、取り組む予定は34.6%、合わせて43.3%である。A～Iの9項目の取り組みのうち7番目であり、9項目の中では取り組まれた（予定を含む）割合は高くはない。

自由記載においては、委員会や会議等、意見交換を実施（45件）、養成校・実習施設の間で意見交換を実施（35件）などの記載が多く、実習指導説明会や資料等からも新カリキュラムにそって変更している箇所を意識しながら話し合いを進めていきたい、実習受け入れ時に養成校の教員と新カリキュラム対応について相談予定などの報告があった。事前の説明会を利用して話し合うなどの報告も多くみられた。

### **⑨受講後の取り組み\_\_H：介護実習の職場内の体制づくりについて、研修を反映した取り組み**

介護実習の職場内の体制づくりに取り組んだ割合は8.3%、取り組む予定は41.0%、合わせて49.3%である。A～Iの9項目の取り組みのうち、4番目に取り組まれた割合が高い。

自由記載においては、実習受入れ体制を整備（33件）、研修内容の情報共有（27件）などの記載が多く、多職種への協力依頼、各専門職に係る指導内容の検討会を実施、一定の技術指導の統一と職員の意識改革、介護だけでなく他職種の受入れチーム参加を求めた、チームとしてのマニュアルを作成、チーム体制づくりを始めたなど、研修で伝えた内容が活かされる取り組みが多々なされていた。

## ⑩受講後の取り組み\_\_ I : 介護実習の連携体制づくり(実習施設・養成校の間)について、研修を反映した取り組み

介護実習の連携体制づくり(実習施設・養成校の間)に取り組んだ割合は6.8%、取り組む予定は32.1%、合わせて38.9%であり、A～Iの9項目のうち8番目であり取り組んだ割合は低い項目となった。

自由記載においては、報告会等、意見交換を実施(29件)、今後行う予定・検討中(26件)などの記載が多いが、以前から連携している(26件)という意見もあげられた。実習依頼が来た段階で実施、必要に応じて教員と連絡を取るなどの積極的ではない内容がある一方で、養成校からの提案に対しても前向きに検討していきたいという意見もみられた。

## ⑪新カリキュラムに対応した介護実習等を行うために具体的に取り組んだこと

地域の特性を生かした地域との関わりの模索、多職種で実習指導を行えるように実習指導の委員会を設置、新カリキュラムに対応できるマニュアルの作成、実習にかかわる職員が介護福祉士養成課程における見直し事項を十分理解する機会を確保するなどの報告があげられた。

## ⑫新カリキュラムに対応した介護実習指導の実施状況

新カリキュラムに対応した介護実習指導の実施について、「すでに実施」は4.3%、33名であり、「今年度に実施予定」は18.8%、「来年度に実施予定」は37.6%となった。予定を含めた実施が約6割であり、「実施予定はない」の39.2%を上回った。

具体的に取り組む内容は「多職種連携の実践」71.9%、「介護過程の実践的展開」62.7%、「地域での生活支援の実践」47.5%であり、地域での生活支援は5割を下回った。

新カリキュラムに対応した介護実習を「すでに実施」した33名については、新カリキュラムに対応した介護実習の指導・教授ができたとする回答が半数を超えた。

指導・教授をするにあたり、研修が役立ったかについては、介護過程の実践的展開や多職種連携の実践に比べて、地域生活の支援の実践は「大変役立った」という割合は低い結果となった。

## ⑫効果検証のまとめ

効果検証の期間が短い状況ではあったが、新カリキュラムに対応した介護実習指導を展開するために、職場内で具体的な取り組みが実行されていることが確認できた。

受入れ体制づくりやマニュアルの改定など、既存のものをバージョンアップしたり充実させる取り組みが多いが、委員会を立ち上げたり勉強会をするなどの取り組みも事例としては少ないものの実施されていた。また、介護福祉士養成課程の新カリキュラムの理解、その中での実習の位置づけの再認識が図られ、これらは研修の効果といえる。結果として、マニュアルに新カリキュラムの「教育に含むべき事項」を入れたり、実習スケジュールに新カリキュラムの内容を入れ込むなどの取り組みがなされている。短い期間ではあったものの、受講者においては、新しいカリキュラムを踏まえた実習の展開に向けた意識づくりや取り組みが進んだ。

なお、介護実習施設では多職種連携は最も取り組みやすく、一方で地域での生活支援の実践に対する取り組みは報告があまりあがってこない結果となった。他の調査結果からも、地域での生活支援の実践の見えにくさが指摘されており、これは介護実習指導の充実に向けた今後の課題であるといえる。

令和元年度 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業

---

介護福祉士養成における効果的な介護実習のあり方に関する調査研究事業報告書

発行：令和2（2020）年3月

公益社団法人日本介護福祉士会

112-0004 東京都文京区後楽 1-1-13 小野水道橋ビル5階

tel 03-5615-9295 fax 03-5615-9296